

THE MONTHLY REPORT
OF
SENTE HUTSUGO KIOKWA

OCTOBER 1918 No. 10.

大 正 七 年 十 月

青島實業協會

報 月

第 拾 號

△本號要項▽

會
錄

△協

△資

△時

寶

△△△

△△△

維三

△法

倫△

△
統

附錄

△青

島海關制度(完)

運
及
鐵

要貿易品概

敦銀塊相

計場規報況融道易報料事

稟 告

一、官報、青島守備軍公報、鐵道部報、内外商工時報、通商公報、商工時報、經濟資料、遼東時報、支那各海關貿易統計書等每號備付け會員並に有志の閲覽に供す

一、附屬運動部にテニス部、野球部あり近くフットボール、其他を新設し體健を計る、入會希望者は運動部幹事宛申込まるべし

大正七年十月

青 島 實 業 協 會

▽青島實業協會月報 第拾號 目次△

協會錄事

□十月例會

□權量氏送別宴

時報

□落花生油品質問題

□麥粉及小麥鐵道運賃問題

□鹽賠償價の引上

資料

□青島屠獸場事情

貿易

□青島貿易近況(八月)

□主要貨物情勢

□大連八月中貿易

鐵道及海運

□青島最近船舶出入

□支那航路擴張計畫

□內地近海運輸近況

□最近傭船狀況

□市內三驛發着主要貨物

金融

□九月中銀塊並二爲替相場

二三

二三

二三

二一

二一

二〇

二〇

一九

一九

二五

一四

三

三

二

一

主要貿易品概況

▲綿絲布 ▲燐寸 ▲砂糖 ▲石油 ▲紙 ▲材木 ▲木炭 ▲米 ▲煙草 ▲麻袋 ▲牛骨 ▲石炭 ▲落花生
油 ▲豆油 ▲牛肉 ▲牛皮 ▲コークス ▲桐材 ▲鹽 ▲麥酒

雜錄

□青島に於ける木炭.....二八

□最近營業出願種類.....三〇

□臺東鎮近況.....三二

□發動機船と保險.....三三

□米棉の耕作及市價.....三四

法規

□鐵道倉庫業規則.....三五

倫敦銀塊相場

□九月中表示.....四二

寄贈書類

□九月中到著の分.....四二

統計

□青島輸出入貿易 ▲青島三驛發著貨物 ▲埠頭陸揚船積貨物數量(八月中) ▲船舶出入 ▲旅客 ▲青島屠獸場
屠殺數(九月中)

附錄

□青島海關制度(續完).....附錄二三

青島實業協會月報 第拾號

協會錄事

◎十月例會

本月例會は十日開會の豫定なりしも既に回章にて承認賛同を求め置きたる通り權量氏送別會開催を併せ行ふ爲め翌十一日に繰下げ午後五時市民會内に開會出席員左の如し(順序不定)

岩城商會	伊藤洋行
日本郵船	日本棉花
東和公司	東亞煙草
朝鮮銀行	大倉商事
橫濱正金	大連汽船
大日本麥酒	内外綿會社
山田出張所	泰利商會
吉澤洋行	福昌公司
江商會社	安部洋行
湯淺洋行	三井物産
南滿鐵、埠、出	峯村洋行
東洋鹽業	中村組

幹事(伊藤忠支店、淵田太郎君)より本例會繰下げの顛末を報告し以下逐次協議し午後六時半散會せり

一、協議事項(支店)
二、新入會者紹介の件

(青島製粉(百溪氏) 福昌公司(千本木氏)出席、茂木、三菱事故缺席)

二、濟南日本領事宛電報及書信の件

(九月例會決議通り執行の件報告)

三、守備隊交代歸還兵見送の件

(右報告)

四、商品陳列場引受談打切りの件

(右報告)

五、公會堂建設請願其後の成行に關する件

(右報告)

六、電文誤字に關し當局へ申告の件

(右は月番幹事一任に決す)

七、工業組合より報告の件及税關規則研究會の件

(右は永井氏より提出説明並に協議の結果委員を置き之に一任のことに決す)

(委員氏名) 太田君 松原君 林田君 飯塚君 永井君

石橋君 近澤君 川畑君 金子君 芥川君

八、小麥輸出護照料金斤量單位に關する件

(右は一石三百十斤を以て護照發給されたるに今回一石百

斤說支那側より起り護照發給を停止せるは一般商人の打撃

尠少なからずと恰も昨十日金子氏の濟南急行を機とし今夜

協會の決議を以て領事及金子氏に打電するの件決定直に同

文を發送せり)

九、秋季運動會に關する件

(右は運動部幹事出席協議に資する處あり運動部三佳に決す)

一〇、次回月番幹事(披露)

一、江商株式會社青島支店

一、日本棉花株式會社青島出張所

◎權量氏送別宴

本月四日回章を以て賛同を求め置きたる權量氏送別會は十一日午後七時条の家に於て開催主人側出席左の如し(順序不定)

岩城商會	伊藤洋行
原田汽船	日本郵船
日本棉花	東和公司
東亞煙草	朝鮮銀行
大倉商事	橫濱正金
大連汽船	大日本麥酒
内外綿會社	山田出張所
神戸棧橋	江商會社
安部洋行	湯淺洋行
三井物産	南滿鐵、埠、出
峰村洋行	吉澤洋行
東洋鹽業	中村組支店
泰利商會	青島製粉
山東興業	茂木出張所
福昌公司	(外に職員二名)

而して當夜招待客は左の如し(缺は缺席)

權量閣下 康誥氏 趙景建氏 陸承金氏(缺) 葉昌岐氏(缺)
程深路氏 成蘭圃氏 丁敬臣氏(缺)
秋山閣下 向西閣下(缺) 阪口閣下(缺) 中野有光氏 厚東

禎造氏 古賀傳吉氏 福富卯一郎氏 内田隆氏 稻葉俊太郎氏(缺) 立花閣下 大瀧八郎氏 服部孝之助氏 鬼頭玉汝氏(代、出)

著席後太田保一郎氏主人側を代表して凡そ電信は人の身體に於ける神經作用の如きもの打てば直に各方面に感ず從來當地に此の神經作用鋭敏の缺くるものありしが今回日支當局の努力に據て愈々通信聯絡達成せられ且つ一面に於ては小麥等の輸出品を新に見るに至り食物は充分に供給され榮養に不足なく之より益々神經敏活商況に利便多きは吾々商人の最も欣快に堪わざる次第なりとの意味にて鄭重なる挨拶を述べ之に對して權量氏は本夕實業協會員各位と茲に相會するの機會を得たるは最も光榮とする所元來此の通信問題は一般的問題にして從來青島に於ける一大缺陷たる通信聯絡の實現したるは獨り青島又は日支問題上よりするのみならず實に東洋問題永遠に鑑み多幸となすべし之に據て青島が益々發展開進するに至らば通信聯絡根本上より見て亦頗る欣ばしきことと信するものなりとの趣旨を流暢なる日本語にて述べらる、斯くて宴酣なる頃數番の餘興は開幕と共に喝采を博し主客充分の歡を盡して散會したるは午後九時過ぎなりき

◎落花生油品質問題

米國紐育油業者組合委員會の外國油品質條件決議は當地の落花生油輸出業に大打撃を與ふるものとし過般當協會及輸出當業者連名にて米國該委員會に抗議を呈するあり而して一面に於ては油類試驗所の設置を當局に請願し此の機會に於て山東特產落花生油の品質向上に資せんとし夫々努力しつゝあり之より先き三井物產當地出張所に於ては山東產本品の實質に付き分析調査方を紐育店に依頼する處ありしが最近左記返電に接したり

本年一月より五月迄に米國に輸入せられたる落花生油の著荷成績は

游離酸	1 %	以下のもの	74 %
同	2 %	以下のもの	51 %
同	%	以下のもの	11 %
不純物水分は總て	%	以下なり	

右統計は時に非常なる高率の游離酸を有せる日本積出荷落花生油をも含む、詳細は七月九日附にて出狀済

右著電の如く詳細は書信を以て知ることを得べく而して日本積出落花生油にして非常なる高率の游離酸を有するものありとは多分印度產落花生油を指すものにあらすやと思はるゝも兎に角之に關して目下夫々攻究中なるが要するに山東輸出本品が分析の結果頗る好結果を示し居るは欣ぶ可き現象にして該品質條件決議のため打撃を受くる程度は約全體の一割に過ぎざる可しと傳へらる(九月末稿)

◎麥粉及小麥鐵道運賃問題

山東產小麥及麥粉の海外輸出解禁問題は一般的に最早解禁は自然の勢ひなりとし特に支那人に在りては此の豐作を以て輸出を試みざるは農民の利得を逸するに似たりとなし日支官民共に熱望の結果近く解禁の快報に接せんとしつゝあり而して愈々解禁とならば差當り鐵道及船舶の運賃を低減し主として内地商情との折合ひを期せざるべからざるは是亦必然的情勢に在りとなし其の鐵道運賃割引に關しては當業者より鐵道部長宛左記請願書を提出し更に船運問題に就ては何分の措置に出づべしと云ふ(九月末稿)

麥粉小麥鐵道運賃割引に關する御願

謹啓仕候陳者山東小麥輸出解禁に就て民政部及濟南領事館の御盡瘁に依り漸く這回支那側の同意を得五十萬石(約十萬噸)の解禁を特許せられたる事は吾人貿易業者の立場より觀たるのみならず廣く青島港の消長盛衰にも及ぼす問題にて洵に御同慶の至りに奉存候

會、日本内地に於ては諸物價騰貴を極め殊に味噌醬油麵類の如き必需品の原料たる小麥の價格騰貴が國民生活を迫害する事甚大なるは申す迄も無之候頃來之が爲に世論沸騰し來り國民の視聽之に向はんとするは尤の次第と奉存候此の秋に當り恰も好し山東小麥の十萬噸解禁を得豊富なる小麥を廉價に母國に供給する事は植民地經營に任ずる人士の特に本懷とする處に有之候

然るに翻て此の五十萬石解禁に依り之を内地に輸出せむとするに當り目下銀の騰貴對日爲替の不利は輸出貿易業者の最も

苦痛とする所にして現在の狀況に於ては殆んど引合の餘地無
之或は折角の解禁も竟に運用するに到らざらむかを憂ふる次
第就ては此の解禁を活用し其の趣旨を達し併て青島港貿易の
發展獎勵策として麥粉及小麥鐵道運賃を引下げ米の運賃と同
一の御取扱ひ被成下候は、吾人貿易業者の幸とするのみ
なるに非ずと確信罷在候

時局方に多端西比利亞の野に帝國出兵の斷行せらるゝあり爲
に今後更に食料の需要喚起せらるゝやも不測候此際原料小麥
及麥粉を潤澤に内地に供給するは當面の急務と被存候
右事情を披瀝し麥粉小麥の運賃割引に就て特別の御詮議相願
度如斯御座候敬具

大正七年九月 日

青島輸出業者

鐵道部長宛

◎鹽賠償價の引上

物價騰貴に因り鹽の製産費頗る増大せるため政府は九月十六日
の官報を左記の如く告示せり

輸出及移出用	内地鹽		臺灣		關東		東州		青島		其ノ他
	原鹽	上鹽	原鹽	上鹽	原鹽	上鹽	再製鹽	粉砕鹽	原鹽	再製鹽	粉砕鹽
化學的藥品、入造色素製造用	六四〇	一・七〇	一〇五〇	一・七〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	六四〇
石鹼製造、獸皮保存、蠟業、 製鋼、蒸用及銑、鰯、鯨、 臘、獸鹽藏用	六四〇	一・六〇	一〇〇〇	一・六〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	六四〇
輸出及移出、鰯、鯨、乾鰹	六四〇	一・六〇	一〇〇〇	一・六〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	六四〇
乾鰹鹽藏用	六四〇	一・六〇	一〇〇〇	一・六〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	六四〇
輸出、醬油	六四〇	一・六〇	一〇〇〇	一・六〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	一・二〇	六四〇

大藏省告示第四百十九號
明治四十一年六月大藏省告示第百號中左ノ通改正シ大正七年九
月十七日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年九月十六日

大藏大臣 勝田 主計

第一條第五項ニ左ノ但書ヲ加フ

但其賣渡價格カ第一項乃至第三項ノ鹽ノ賣渡價格ヲ超ユルト
キハ第一項乃至第三項ノ賣渡價格ニ依ル

第三條第一項中「二圓七十三錢」「二圓七十四錢」ヲ「二圓七十
錢」「二圓六十六錢」及「二圓七十二錢」ヲ「二圓五十錢」「三圓
二十錢」ヲ「三圓四十錢」「二圓八十四錢」ヲ「二圓八十二錢」ニ
「二圓八十二錢」ヲ「二圓六十一錢」「三圓八錢」ヲ「二圓八十六
錢」「三圓四十二錢」ヲ「三圓二十錢」「三圓十八錢」ヲ「三圓十
五錢」ニ改ム

大藏省告示第五百十號

大正五年六月大藏省告示第九十九號中鹽交付金左表ノ通改正シ
大正七年九月十七日ヨリ之ヲ施行ス但シ本告示施行前交付金ノ
下付ヲ受クヘキ事由ヲ生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
大正七年九月十六日 大藏大臣 勝田 主計

而して政府は之が爲め本年度に於て百八十萬圓、明年度に於て二百七十萬圓賠償金額を増加する由尙政府は臺灣鹽、關東州鹽青島鹽が其の素質上賣行好ましからずとして政府よりの賣渡價格をも引下たるを以て本年度に於て四萬五千圓、明年度に於て約十萬圓の專賣益金の減少を來すものなりと。

資料

◎青島屠獸場事情 (上)

第一節 總 說

第一 獨逸時代經營の概況

(一) 沿革

青島屠獸場は獨逸が青島に於ける施設中誇るに足るべきもの、一にして千九百四年工を起し千九百六年竣成したるものなり是より先き初代の場長「ドクトル、エツケブレヒト」は上海、香港其他の屠場を視察し之に支那の民情を斟酌して獨逸本國「ドレステン」に於ける屠場の設備に準じ建設したるものにして工費八十五萬麻克を要したりと云ふ。

因云、獨逸が膠州灣租借權を得たる後幾許ならずして千八百九十九年生肉検査規則を發布し臺西鎮に假屠獸場を建設せり是れ青島に於ける官設屠獸場の濫觴とす、然るに市の發達に伴ひ場内の狹隘を感じたるにより假屠場を廢止し現屠獸場の新設を見るに至れり

(二) 事業

青島内界(旭岬より海泊河橋及海泊河口を連ぬる線以西の地區

にして臺東鎮、臺西鎮を含む)に於ける牛、犢、豚、羊、山羊、馬、騾驢等の屠殺及外界より市區域内に搬入せし鮮肉の検査を施行することは當場に於ける主要業務にして其他に屠肉の冷蔵竝に製氷を爲し別に廳舎内に理化學研究所を置き之に必要な設備を施し膠州灣租借地内の獸醫警察に關する一切の研究に資せり又牛乳としての山東牛を改良せんが爲場内に種牡牛を繋養し置き土產牛に配し其生産牡犢中優秀のものは屠獸場に買收し牝犢は生後一ケ年のものを集めて共進會を催し優良牛には賞金を與ふる外其他牝牛には無償種付を許す等の獎勵法を行へり

(三) 食獸の種類及頭數

食獸は牛、犢、豚、羊、山羊及馬にして千九百一年より千九百十四年九月に至る屠殺數は二十七萬一千四百十八頭に達し逐年其數を増加せり今千九百八年以降に於ける屠殺數を掲ぐることを次表の如し

自一九〇八年
至一九〇四年 食獸屠殺年別表

年 別	牛	犢	豚	羊	山羊	馬	計
一九〇八年	五、三三	一、九二	七、八三	二、〇〇	三	六	一、六二五
一九〇九年	五、三三	二、〇五	八、三八	二、〇七	元	五	一、七六五
一九一〇年	七、二二	二、二七	九、三九	二、二五	六	七	二、〇九七
一九一一年	七、四三	二、九三	八、〇七	三、四〇	一、三	七	二、八三
一九一二年	二、〇〇	二、〇七	二、四六	二、八五	元	二	二、八四八
一九一三年	二、四四	三、二四	三、七五	三、〇四	七	一	三、四四三
一九一四年	二、七五	二、八五	九、三七	一、八四	三	三	三、六三

(四) 職員

職員は場長以下獸醫六名機關士一名會計二名にして場長は政廳技師をして兼勤せしめ會計は政廳より出張執務せり而して場長

は年俸一萬五千麻克、高級場員は一萬二千麻克「トリヒナ」検査官は八千麻克にして最下級の官吏と雖も邦貨に換算して年額二千五百圓を給せられたり其他は全部支那傭人にして事業繁閑により二十名乃至二十五名を使役したりと云ふ。

第二 軍政時代經營の概況

(一) 事業の經過

青島陷落後大正三年十一月十一日我軍の開城受領委員當場に臨檢して之を受領せり當時は開城勿々の事とて獨立第十八師團に於て經營するの機運に至らず十一月三十日に及び同師團長經理部長は十二月中を限り獨逸人肉商「ウエバー」に屠場の使用を許可したるも經營意の如くならず依て大正四年一月二日より官營となし事業に著手することゝなれり當時は事務員及支那語通譯として臨時雇員二名を青島軍政署より配屬せられ検査官として軍司令部より現役陸軍獸醫二名の派遣を受け漸く屠獸検査業務を開始するに至れり同月二十一日陸軍大臣より青島屠獸場經營に關する命令あり同時に場長以下の要員を配屬せられ二月十二日著任す爾來復舊整理に努め同年三月に至り主要部の修繕成り同年六月屠場の諸設備を完全に使用し得るに至れり。

是より先き四年二月十五日軍軍令第二十號を以て軍政施行區域内に在る青島屠獸場以外に於て海外に移出又は輸出の目的を以て屠殺することを禁じ同日軍軍令第二十一號を以て青島屠獸場假規則を定めたり

イ、屠獸屠肉の事業 大正四年の初期にありては市況不振の影響を受け閑散なりしも同年下半年期より食肉の需要勃興し加ふるに浦鹽及大連に數千頭輸出の途新たに拓け次で大正五年上半年期に於ては浦鹽、大連、上海、方面に同下半年期に於ては麻

尼拉方面同年末に於ては露國軍用肉牛の屠殺を爲し輸出大に振ふに至れり而して大正六年春季に於ては前年末の如き好景況を持續し得たるも夏季に及びては麻尼拉行の屠殺一時減少したるに九月に入り再び復興を見るに至れり其の狀況左表の如し

年 別	牛	犢	豚	羊	山羊	計
大正四年	八三五	二四	五三九	二六	三	一三九六
大正五年	一五、四〇	一〇七	六三九	四〇五	一五	二、八九六
大正六年九月迄	一三、五三二	三三	五〇五九	二八九	七	一八九九
計	三六、八〇六	三五四	一六、六〇七	九七〇	五四	五四九一

ロ、冷蔵及製氷事業 冷蔵庫は大正四年七月一日より其の貸下を開始したるに希望者多く十月末日迄全部を貸下ぐるの好況を呈せり大正五年に於ては六月三日に開始し十月十一日を以て中止し大正六年に於ては六月一日より始め十月三十日に中止したり其の狀況左の如し

冷蔵庫貸下一覽表

年 別	貸下 總面積	日本人	支那人	米國人	摘 要
大正四年	九、九五〇	八、七五〇	二、〇〇〇	—	開治洋行にて冷蔵
大正五年	九、九五〇	—	二、〇七三	六、八六六	庫建設の爲前年に
大正六年	—	—	二、〇〇〇	—	比し貸下面積を減

又製氷は大正四年には四月二十四日より十月末日迄大正五年には三月十六日より十月九日迄大正六年には六月十日より十月末日迄拂下を持續せり其の製造高及拂下區分を表示すれば次の如し

製氷拂下數量一覽表

年 別	無償拂下		有 償		計
	軍 病 院	其 他	青 島 病 院	兒 島 製 氷 會 社 其 他	
大 正 四 年	六七八				五、九六一
大 正 五 年	六二〇七		六、二六六	二七、二七四	三九、七四七
大 正 六 年	五五六四		六、一八八	五二、五三九	六四、二九一

ハ、研究室作業 青島に於ける獸疫の歴史は素より詳知し難し
 と雖も諸調査を綜合するに牛疫、炭疽、鼻疽、狂犬病、傳染性口
 内膜炎等とす而して我軍經營後大正六年に至る三箇年間當場
 研究室に於て取扱ひたる家畜傳染病は牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻
 疽「ビロプラスマ」病豚羅斯、狂犬病等其の主なるものなり
 由來山東省は牛疫の常在地にして軍政施行以來青島移入牛中
 本病の爲め斃死又は撲殺したるもの決して鮮少ならず殊に大
 正五年以來山東省奥地より移入する食牛の増加に伴ひ獸疫侵
 入の虞ありたるを以て當場内研究室の設備を整頓し獸疫調査
 上遺漏なきを期せり而して管内獸畜、輸出牛並に食獸其の他
 に就き鑑定したる獸疫は左表の如くにして此鑑定の成績は直
 ちに獸疫豫防法の適用を的確ならしめ軍政管内獸畜衛生の主
 宰機關として能く其の成績を發揚することを得たり

年 別	牛 疫	炭 疽	氣 腫 疽	鼻 疽	ビロプラスマ	豚 病	狂 犬 病	家 畜 風 疹	計
大正四年	九	一	一	八	三	一	一	三	三
大正五年	九	一	一	一	一	一	一	一	三
大正六年	三	六	二	八	三	二	五	一	三
計	二一	七	二	一七	七	二	六	五	三六

ニ、搾乳及種付 獨逸時代德華高等學校に飼養しありし乳牛を

開城後青島守備軍々病院に引繼ぎありたるを大正五年三月に
 至り從來鹵獲種牡牛を飼養しありし屠獸場の管理に屬せしめ
 附屬種畜場の名稱の下に種牡牛の保肉搾乳並に種付を行ひ乳
 牛の改良に努め又牛乳は軍病院管理の時より専ら入院患者用
 に充て殘餘は民間に拂下げたり今大正四年以降六年に至る間
 に於ける搾乳量、牛乳拂下區分及種付頭數を表示すれば如次

(一) 自大正四年 至大正六年 搾乳量表

年 次	大正四年	大正五年	大正六年	計
搾乳量	三五、五〇〇合	九五、四九〇合	一〇一、七七七合	二三、六五六合

(二) 自大正四年 至大正六年 牛乳拂下區分表

年 次	軍 病 院	青 島 病 院	鐵 道 病 院	僱 行 社	民 間	試 驗 用	計
大正四年	三、〇〇〇合	一〇、三三三合	三、〇〇〇合	一〇、四九九合	一、二七七合	三、〇〇〇合	三六、〇三九合
大正五年	四、一七七合	二、三八〇合	四、六六〇合	三、四四三合	一、四四三合	六、三六〇合	二六、八八六合
大正六年	三、七七七合	二、二六三合	四、六六〇合	五、八五三合	三、八四四合	六、五二七合	二七、〇九二合
計	一〇、一五四合	五、〇三三合	一三、三二〇合	一三、三三〇合	五、五六四合	一六、一八〇合	五八、〇六六合

(三) 自大正四年 至大正六年 種付頭數表

年 次	牛	山 羊	計
大正四年	三四	三七	七一
大正五年	九七	四八	一四五
大正六年	六七	七三	一四〇
計	一九八	一五八	三五六

(二) 食肉の販路

食肉は獨逸經營の當初に於ては主として現地の需用に供せられ屠獸規則を施行したる青島大鮑島、臺東鎮、臺西鎮等に販賣せられたるに過ぎざりしが千九百五年港灣の設備略ぼ成り次で埠頭の築造完成を告ぐるに至るや食牛の販路漸く海外に伸展の機を得千九百十年には三千七百餘頭を浦鹽方面に輸出したる以來年を逐ふて其數増加し千九百十三年には二萬餘頭に上れりと云ふ我軍政時代其經營の初期に於て夙に牛肉輸出業の再興を圖らんが爲大正四年六月特に一部外國船の入港を許せしを以て冷蔵船の入港を見るに至り同年七月十二日第一回浦鹽行輸出を開始し十二月迄に四回の輸送ありたり又著しく溫暖ならざる季節に於ては大連及日本内地等に少數の輸移出を見たるも特記すべき程度のものにあらす

大正五年當地在住の米國人「カッ」なる者麻尼刺軍隊に納入すべき凍牛肉六百萬磅の輸出を契約し當地に冷蔵庫を設け輸出に着手し同年内に四千七百二十七頭同六年九月迄に七千七百二十八頭を輸出せり又同人は大正五年十一月より向ふ四箇月間に露國軍隊用鹽藏牛肉二萬頭分を浦鹽に輸出すべく契約を結び同年中に五千二百六十六頭を翌六年一月中旬に二千二百二十頭を輸出したるに愈々時局の影響により露貨暴落の爲め本契約の履行を中止するに至れり今我軍政治下に於て屠場業務開始以來の屠牛輸出頭數を表示すれば左の如し

年 別	大連	上海	内地	マニラ	浦鹽	計
大正四年	一五	一	九	一	三、五七五	三、〇九
大正五年	三九	三	八	四七	五、二六	一〇、四二
大正六年九月迄	四三	五	一〇	七七八	一三、一〇	一〇、四二五
計	九六	七	一六	二、四四	一、〇六一	二四、七五

(二) 職員

大正四年一月二十一日陸軍大臣より青島屠獸場經營に關する命令あり同時に場長以下要員の配屬あり同要員二月十二日着任せしこと既に記述せし如し斯くて屠獸場は軍司令部の直屬となり軍獸醫部長の管理を受くることゝなれり爾後職員に異動ありたること左表の如し

期 間	管理者	場長	獸醫	助手	庶務會計	技手	傭人	通譯	摘 要
自四年一月一日至同二月十四日	軍政	兼	二	一	一	一	一	一	露國行大屠
四年二月十五日	軍政	獸醫	同	二	一	一	一	一	殺の爲臨時
四年十二月末	同	同	一	一	二	二	二	一	露國行大屠
五年五月十日	軍政	獸醫	同	一	二	二	二	一	殺の爲臨時
五年十二月末	同	正	一	一	二	二	二	一	兼務獸醫
六年九月末	同	兼	一	一	二	二	二	一	三名應援
	同	兼	一	一	二	二	二	一	六年来著し
	同	兼	一	一	二	二	二	一	迄滞在す

第二節 現 況

第一 位置交通構造並設備

(一) 位置及交通

青島市外臺西鎮の一角高燥の地に在りて東は大厦高樓櫛比する市街を隔て、遠く鬱蒼たる旭山一帶の丘陵を望み北は開治洋行其の他會社個人の生牛大繫留所に接し西南は膠州灣口に瀕し戎克の輻輳する小港は招呼の間にありて遙に大港の防波堤を臨み得べし而して大港よりの距離は約十八丁又青島驛を距ること僅に四丁餘に過ぎず共に馬車の便あり

(二) 構造並設備

場内は地域五千三百二十坪を有し牛屠室、豚屠室、冷蔵倉、機

關室の四棟を連絡したる大屠場其中央を占め別に事務室、研究室、秤衡所、門衛所、生體検査所、牛豚繫留所、厩馬、屠殺場病獸隔離並屠殺所、燒却場、試驗動物舍、倉庫、宿舍等大小十棟其周圍に配置せられ別に汚水沈澱池の設あり而して各室には水利、電氣の施設完備し夜間尙作業を行ひ得るの便あり今其構造設備の概要を示せば左の如し

イ、屠獸繫留所 ハ大小二棟あり其の大なるは長經四〇、五六米突横經一一米突にして之を五區に分ち其の三區を牛繫留所に充て他の二區を更に十二房とし犢、羊等を放つに便し其小なるは長經一九、五六米突横經八五、六米突にして之を十四房に分ち豚を收容す

ロ、牛豚の屠殺 は別室となし各長經二五米突横經十二米突を有し牛屠室には十三個の繫環十八個の起重機主幹たる中軸高架軌條と之に連絡する七條の高架軌條及屠肉内臓の懸鈎百餘個を具ふ而して廊下に通する主幹軌條には衡器を裝置しあるを以て枝肉の秤量を行ひ之を冷蔵庫に搬入するを得べし又一軌條は分岐して内臓取扱室に入り内臓を收容せる鐵製容器を懸吊運搬の便に供せらる

豚屠室には二個の屠殺用小房及同數の蒸汽湯槽と大起重機と電力旋風機一基を有す此旋風機は湯槽の蒸汽を室外に奪ひて作業を助け又懸肉鈎二百五十餘個高架軌條と衡器とを裝置しあるを以て秤衡の後冷蔵庫に搬入するを得べし其他に尙牛屠殺用懸鈎及起重機七組を備へ輸出屠殺繁忙の際牛屠室のものと併用し漸く其需要を充たじあり

ハ、馬屠室 は一個の起重機を備へ之に接して其繫留所あり
ニ、病獸屠室 は二個の起重機と一個の蒸汽湯槽とを有し之に

病獸繫留所を附屬す

ホ、屠肉燒却所 は病獸屠室に接し「コーリン」燃燒爐を設け其煙道と火口の構造巧なり

ヘ、屠獸消毒裝置 は「ヘンニケ」の蒸汽滅殺器を有す
ト、旋毛蟲検査室 は「カース」式旋毛蟲検査器及之に要する電氣「モーター」を配置し電光に依り實物透寫の裝置あり

チ、製氷機關は常用壓力八汽壓の「ランカシャー」式汽罐二臺及亞硫酸瓦斯壓縮機並に凝縮裝置二臺あり凍罐式製氷器を備へ別に瀑水冷氣裝置及送風器ありて冷蔵庫に送風するの設備あり

リ、冷蔵庫は直經十八米突横經十二米突ありて之を大小二區に分ち小區を一時の冷肉場に充て大區は更に二十一個の分房に分ち各房内二十乃至三十三個の懸肉鈎を有し庫内の冷藏法は天蓋の送風桶に依り攝氏二乃四度に保溫せしむるを得べし
ス、研究所に充てらるゝは顯微鏡乳汁検査、細菌培養滅菌、試驗動物及標本等の各室にして別に電力血清分離裝置を有し細菌病理の研究及乳肉其他の検査に要する各種の設備整ひ水壓及電力の利用巧緻なり
ル、其他生體秤衡所、事務室、鐵工場、内臓取扱室、檢肉收藏室、浴場、厩、動物舍及所員宿舍等の配置整備す

第二業 業務

當場の業務は屠獸屠肉の検査の外冷藏及製氷事業、獸疫調査、搾乳事業並種付等にして概ね範を獨逸時代の經營法に採れりと雖も其内容に至りては時勢の要求に應じ得るが如く逐次改良を加へつゝあり

(一) 屠獸屠肉 屠獸屠肉は屠場を以て其業務の中心とし屠場は食

屠獸及屠肉の検査は食肉衛生上重要な業務たると同時に亦公衆衛生及畜産保護の上に緊要缺くべからざる事項に屬す特に獸醫警察機關未だ具はらざる支那内地に於て産する獸畜を屠殺するを以て之れが検査には多大の注意を拂ひ内務省訓令に據る屠畜検査員心得を準用し特に生體検査を嚴密に施行して遺漏なきを期しあり

イ、生體及解體検査 屠獸検査は青島屠獸場假規則に基き屠殺前日に屠獸を牽入れしめ先づ各個體に就き種類、性、年齢、毛色、産地、體尺等を調べ屠畜に入場番號を附し次で體溫を檢し健康診斷を行ひ屠獸の資格を決定し之を健畜及病畜に區分して所定の繋留場に收容し其健康と認めたるものには絶食を爲さしめつゝ翌日迄視察を繼續す又病畜に對しては診療を加へつゝ隔離を持續し病性決定の上は夫々同法の處置を講ず而して屠殺當日前日よりの繋留畜類を屠室に牽入るゝに先ち再び細密なる健康検査を行ひて健全なるものに限り屠殺を許可するを例とす若し又單に不明の高熱又は營養不良の故を以て一時不合格となりたる場合には(臀部又は角、蹄)に禁字を烙印し場外に牽出を命ず

屠殺は午前六時乃至八時より開始し検査員監視の下に屠殺解體せしむ而して屠殺法及脱血、剥皮等は指定したる方式に據らしめ且作業間屠肉を清潔に取扱はしむることに注意す斯くて解體作業を了りたるときは枝肉に相當する頭部、心臓、肺臓、脾臓等の諸臓器に同一番號を附して検査の正確を期しあり内臓検査は前記の如く一頭分宛取り纏めたる諸臓器に就き綿密に行ひ必要ある場合には胃腸及體部淋巴腺を検査す是等諸検査に於て若し異狀を認めたるときは検査簿に其旨を記載し

病變の程度に依り一部若くは全部の廢棄を命じ健全にして食用に供し得るものには規定の檢印を押捺し搬出を許可す而して本検査に於て臓器の變狀肉眼的に不明の場合には直に之を研究室に送致し鏡檢法に依りて病變を査覈し以て食用の適否を決定しつゝあり

枝肉検査は肉質性狀脂肪の狀態及表在淋巴腺並骨臓等に於ける異常の有無を検査するにあり而して之と内臓検査の成績とを對照し以て枝肉食用の適否を決定す更に豚にありては特に横隔膜の筋柱及其の筋肉部より二個の小肉片を切り取り之を「トリヒナ」検査室に送り顯微鏡又は「カース」式「トリヒノスコップ」を用ひて旋毛蟲寄生の有無を検す以上の検査に於て健全にして食用に適すと認めたるときは其枝肉に初めて檢印を押捺し山羊、羊、豚肉は即日搬出を許し牛、犢肉は其儘當場に保留の上翌日搬出を許可す又食用に適せざるものは場内焼却場に於て焼却處分に附せしめ蒸氣消毒の上食用に供し得べきものは蒸氣滅殺器を使用せしめ無害となしたる後捺印の上搬出せしむるを定則とす

以上記すが如き順序方法に依り屠獸屠肉の検査を行ひつゝあるを以て世人は當場の檢印ある食肉は何等危險の顧慮なきことを首肯し得べし

ロ、輸出牛肉の検査 海外に輸出せらるべき屠肉にありては船舶出入期日及凍結作業等の關係に依り比較的短期に多數屠殺の申込を受くる場合多し故に當地消費の屠殺を行ふ以外に一日少くも二百頭内外稀には三百乃至四百餘頭の屠殺を行ふが爲に左記の如き分業法に依り屠肉検査の敏活と適確とを期しつゝあり

(1) 一般監督係(獸醫一、助手「支那人」一)

屠殺器械の整備及屠殺業者服裝の點檢を行ひ又脫血法其他屠殺作業の適否を檢査指導し各檢査係との連絡を保ちて作業の進捗を圖り兼て屠室内外に於ける紀律の維持及其緊縮の任に當らしむ

(2) 生體檢査係(獸醫一、助手二「内支那人」一)

屠牛十二頭乃至十五頭を一團となし既に記述したる生體檢査の要領に従ひ性、毛色、年齢、體尺及體溫其他を檢し健全を診定して檢査成績表に其旨記載し檢査に合格したるものに對しては規定の番號木札を一頭毎に四枚宛角根に結著し逐次屠室内に牽き入れしむ(同一番號を記したる木札四枚の内一枚は頭一枚は内臓一枚は皮一枚は枝肉檢査用に充つるものとす)

(3) 内臓檢査係(獸醫一、助手二「内支那人」一)

生體檢査の成績表と對照し前記諸臟器に於ける病變有無の檢査及枝肉に對する健康證明票の發給を擔當とす

(4) 枝肉檢査係(獸醫一、助手「支那人」一)

一般監督係と呼應して屠殺作業の進捗と屠肉の衛生的取扱とを監督し内臓檢査係に於て發給したる健康證明票と當該枝肉とを對照し肉質の品位性状仕上の良否、表在淋巴腺、腎臟等を檢査し若し取扱に缺點あるときは之を矯正せしめ又病變に由り一部若くは全部廢棄の要ある場合には夫々規定の處置を講し全く健康にして食用に適するものには檢印を押捺し室外に搬出せしむ

ハ、檢印 捺印には和文、歐文兩様式あり和文のものは青島守備軍民政管内、日本内地及關東州に輸移出せらるゝものに用ひ歐文のものは其の他の外國に輸出せらるゝものに用ひあり

又捺印用「インキ」は「ゲンチアナヴィオレット」「メチーレンブラウ」の酒精溶液に醋酸及侃里設林を加へて調製したるものにして帶藍紫色を呈す而して檢印押捺數は枝肉全面を通じ牛一頭に付六十餘個犢、羊、豚一頭に付三十餘個各臟器毎に一乃至二個を常例となすも外國に輸出せらるゝ屠肉にありては四分體毎に一乃至二個とす

ニ、屠殺業者 屠殺作業に従事する者は特に定むる所の作業衣袴及帽を著用せしむ即ち屠夫及枝肉運搬人は白色金帛、内臓血液生皮取扱人は淺黃金帛とす

麻尼拉輸出屠殺の際には十二個班の人員を以て一日百八十頭乃至二百五十頭を屠殺するを例とす然れども露國輸出入の如く鹽漬肉となすものにありては屠殺班を十五個班迄増加し一日二百五十頭乃至三百五十頭を屠殺することを得今屠殺班の編成に依る人員を麻尼拉輸出屠殺の例を以て掲ぐれば左の如し

屠殺班一個の編成	屠殺	十二個の人員
屠夫	一組五人	小計 六十人
内臓整理及運搬夫	同 三人	同 三十六人
生皮取扱夫	同 一人	同 十二人
血液採取夫	同 一人	同 十二人
屠肉運搬夫	同 三人	同 三十六人
屠室洗滌夫	同 三人	同 六人
總計		百六十二人

以上の外屠夫取締割肉及剥皮取締等の爲五名の取締(把頭)あり
ホ、屠畜の種類及資格 屠獸場に上りたる食獸は牛、犢、豚、羊

山羊の五種にして其景況次の如し
(4) 牛

山東牛は一般に體格大にして形態長方形に近く四肢短く頭頸稍短細に胸深廣々として胸腹の容積大腰部及臀部の發育より後體充實し早熟早肥にして其肉質良美脂肪の沈著多くして肉牛としての價值大なり其の生體重に對する歩止りは五三・一四%に達す

山東省に於ては古來よりの習慣として牡牛は悉く去勢す即ち犂丸又は精絲を挫碎せる敲牛なる事は自然肉牛としての價值を大ならしめたる事尠少なからざるべし

敲牛の體尺は最高五尺二寸八分平均四尺三寸内外にあるも牝牛は最低三尺三寸餘のものを見たり

體重は最重七百七十斤最輕三百斤平均四百五十斤餘を示し體尺一寸に對する體重は約二貫八百三十匁を算せり

今之を字品陸軍糧秣支廠に於て屠殺せる罐詰用の内地牡牛に比する時は次表の如く體尺每一寸體重四百二十七匁多きを示せり

區分	拾測頭數	平均體尺	平均體重	體尺一寸ニ對スル重量
内地牛	六・一三八	四・一二	九九・一二八	二・四〇八
山東牛	體尺七七八三 體重四・四二九	四・三五	一二六・四七六	二・八三五
内地牛ニ對スル差異	—	(+).〇・一三	(+).二七・三四八	(+).〇・四二七

牛の年齢は七歳乃至八歳のもの最も多く其前後の年齢に於ては漸次遞減し三歳未滿又は十五乃至十六歳以上のものは甚た少し

被毛は纖細にして稍光澤を帶び毛色は濃褐色及び淡褐色最

も多くして黑色之に亞ぎ其他のものは少數なり
犢は牝最も多く其形態稍劣等なるもの多きが如し

(2) 豚

豚は黑色の支那種多數(九五・〇九%)を占め皮膚粗にして皺襞を有し頭、鼻、耳大にして多くは鯉背を呈し尻傾斜して脂肪比較的少く肉質亦中等度なり

體尺二尺二・三寸、體長三尺五寸乃至四尺、體重七〇斤乃至九〇斤のもの多數を示せり

「ヨークシャー」改良種は少數なるも體格支那種に比し一般に大にして體重一〇〇斤乃至一二〇斤のもの多く時に二〇〇斤に達するものあり脂肪豊富にして肉質亦佳良なるもの少なからず歩止りは共に六〇%に達す年齢は生後八、九月より一年前後のもの多く二歳以上に及ぶものは極めて少數なり

屠豚は牝牡相半ばし共に悉く去勢されたるものなり

(3) 羊

羊は毛、肉共に優良ならざる亞細亞種に屬し有角なるもの無角なるものあり共に牡の多くは去勢せらる

頭小さく鼻梁凸隆して楔狀をなし頸細く脊腰稍々聳きも適度の幅あり尾は能く發育して脂肪瘤をなし被毛は纖粗の二種あり山地に飼養せらるゝものは概して粗野にして平地産の多くは纖細にして共に頭、耳、四肢下部長毛を缺如す

肉質中等にして歩止り五四%に達す體高は二尺乃至二尺三寸にして體長は三尺二寸乃至三尺五寸前後のもの多く對稱概ね具はり體重は四〇斤乃至四五斤のもの多きも時に五〇斤に達するものあり

被毛は纖細にして稍光澤を帶び毛色は濃褐色及び淡褐色最

年齡は四歳乃至六歳のもの最も多く三歳七歳之に亞ぐ

(4) 山羊

山羊は支那在來種にして多くは黑色體格一般に小にして三〇斤乃至三五斤のもの多く體扁平に榮養可ならず肉質中等にして歩止り五二%前後とす

(二) 冷蔵及製氷

當場に於ては冷蔵庫は主として食肉の貯藏を目的として設備せられたるものにして市中販賣肉の預託或は輸出肉の收藏の爲め緊要缺くべからざる機關とす

現在の冷却装置は冷氣通風式にして獨逸伯林「アボルシツヒ」會社製冷却機二臺(一臺の冷却能率は二十噸宛とす)を有し媒劑として液體亞硫酸瓦斯を用ひ攝氏零、十四、五度に降下せしめたる鹹水を冷風裝置室内に雨下せしめ別に旋風機により送らるゝ空氣を此所に於て冷却したる後之を庫内に送風し其の收藏物を冷却せしむる裝置にして攝氏二乃至四度の低溫度を持續し之を常用溫度となじあり

冷蔵庫は冷肉、冷蔵の二室に分る冷肉室は一時的の收藏所にして面積六百五十三四平方尺、容積一萬一千七百五十一、二立方尺あり庫外牛、豚肉屠室あり高架軌條に依り運はる茲に二個の起重機を取り付け屠肉の出入に便ならしむ

冷蔵室は長期間貯藏する所にして面積一千五百六十八、一六平方尺、容積一萬七千九百四十立方尺あり其の内部の設備は既に前節に於て記述したるが如し

冷蔵庫内に貯藏したる牛肉の保存期限は比較的長期にして若し攝氏零度以下五、六度に持續的冷却を爲す時は能く六箇月間新鮮に保存せられ得べしと雖も其の長期に亘るに従ひ逐次色澤を

損し且硬變の恐れあり大正四年及五年の夏季に於ける當場の實驗によれば冷肉室に於て水氣を去り良く冷却したる牛肉を枝肉の儘乾燥したる冷蔵室に貯藏し攝氏二乃至四度に保冷したる場合には四週間又同零下二度に保冷したるときは六十日間新鮮の狀態に保存することを得たり

冷蔵庫貸下げの狀況は前節に於て既に述べたるが如く年により消長ありしも將來益々有望の業務にして尙ほ近時魚市場側の希望に依れば魚類の冷蔵に當冷蔵庫貸下を開始せられたることとなるを以て其の設備に關し目下研究中なり

製氷には冷蔵庫運營の餘力を充當しあるを以て其の規模少なり而して製氷器は凍罐式にして一日の製作能力僅かに一噸半に過ぎず獨逸時代に於ては此裝置を以て専ら冷却用の製氷を目的としたるを以て攪拌器の裝置を缺きし爲め不透明なる大理石樣の水を得るに過ぎざりしも我軍政時代に攪拌機を裝置し上下導管を改造し且濾過法の設備を整へたる結果透明堅緻の食用氷を製し得るに至れり

要するに當場の製氷は其の一日間の製作能力微弱なりと雖も品質優良なるを以て一般に好評を博しつつあり

(三) 獸疫の調査

既に前節に於て述べたるが如く場内研究室に於ては屠殺の目的を以て當場に牽入れたる獸畜の各種疾病の鑑定並獸疫の調査就中山東省に於ける牛疫の研究には最も力を用ひ各方面に亘り之が病源及救濟法の講究に努むる外尙餘力を以つて獸醫警察上必要なる調査研究に迄歩を進めつつあり

抑も青島に於ける家畜傳染病中主なるものは獨逸經營當時の調査報告と我軍政時代に於ける調査成績とに依るに牛疫、鼻疽、炭

疽、氣喉疽「ビロブラマス」病、豚羅斯、狂犬病、傳染性口内膜炎等にして就中山東常在病と目せらるゝ牛疫は千九百〇六年來より千九百〇七年に亘りて大流行を來したる歴史を有するも其の他の年に於ては特に著しき發生を見ざりしに大正六年十一月より同七年三月迄の間に於て濟南より移入せられたる食牛中本病に罹れるもの實に四十餘頭の多きに達し營業者の損失少からざりし斯の如き狀況なるを以て現在行政機關の下に牛疫の慘害を未然に防止する爲めには先づ第一に濟南より鐵路移入せらるる牛畜に對しては輸送前牛疫豫防血清注射を勵行すること第二病牛を可成早期に發見して隔離診療を行ふこと第三重症病牛は撲殺をなすことの必要を認め著々其研究と實施に努め次の成績を得たり

(1) 牛疫豫防血清效力試験の經過

イ、露國製血清の注射成績 濟南及青島に於て大正五年以降數千頭に對し露國製牛疫豫防血清を注射したるに其效力顯著ならず且つ其成績不定なりし之れ同血清は粗製品にして免疫力一定せざることを確めたり但し營業者に於ては價格至廉の爲本血清を歡迎する傾向あり

ロ、朝鮮釜山牛疫血清製造所製品注射成績 前記と同一期間に於て數百頭に對し本血清を注射したるに其效力顯著に其成績每回殆んど一定せり大正五年末及同六年末青島肉商所有の畜牛に本病發生流行に方り豫防上種畜場の種牡牛、乳牛及犢全部に本血清を注射したるに克く其の效を奏し本疫の侵襲を免るゝを得たり但し本血清は其の價格露國血清に比し遙かに高きを以て現在のところ一般の需要に適せざる感あるは寔に遺憾に堪わざる所なり故に將來當屠場内研究

室に於ける現在の設備を應用して本疫豫防血清の製作を實施するに至らば比較的安價なる血清を供給し得べしと信じ目下血清製造の準備作業實施中に在り

(2) 早期診斷法の研究

山東省に於ける牛疫として取扱はるゝ罹病牛中定型的の症狀經過を取るもの少く爲に診斷上往々疑義を生ずる場合少からざるが如きは内地に於ける本病に比し注目すべき點なりとす然れども是等の罹病牛一度死の轉歸を取るか或は病性鑑定上撲殺して剖檢を行ふ場合に於ては生前の症狀輕微なるに拘らず通有的に認むるものは扁桃腺の腫大、化膿、第四粘膜の劇性加答兒、出血爛斑並小腸、直腸粘膜の充血、爛斑等にして個體に依り病變程度に多少の輕重あるも殆んど必發的のものなり然れども果して皆眞性牛疫なるや否やは尙研究を重ねざれば斷定することを得ず尙當研究室に於て早期診斷法として免疫學的研究を重ねつゝあるも其の成績未だ充分ならず遮莫濟南若くは當地に於て牛疫の臨床的早期診斷上必要なる症狀の考察は元氣衰退、戰慄、不明の高熱食慾不振及露出粘膜の加答兒の存否に在り殊に冬季に於て年々多發の傾向あるを以て此期に於ては感冒の兆あるもの等は速に隔離觀察を行ふ要あるものと認む

(四) 附屬種畜場

種畜場は臺西鎮南海岸の緩傾斜地に位し場内面積一萬八千坪を有し外に約十萬坪の放牧場あり
千九百七年獨逸は畜産改良の目的を以て「エファールレンダー」種牡牛を輸入し次で千九百十年青島に於ける市乳衛生の不備なるを憂ひ牛乳の自給を圖らんが爲「エファールレンダー」種乳牛二頭

牡種牛一頭及支那牛五頭を購入し獨逸種との雜種を作り尙進み
ては乳牛として支那牛を改良し其の泌乳能力を増大せしめんと
し之が管理を種牡牛は屠獸場に他は德華高等學校に依託せり然
るに同年秋前記五頭の支那牛及燭逸種一頭斃死せるを以て翌千
九百十一年之が補充として一回雜種の犢十頭を購入せしと云ふ
現時種畜場に於て將に老境に入らんとしつゝある相模外號六頭
(前に二頭ありしも大正六年中既に拂下げたり)即ち是なり
種牝牛、種牡山羊は専ら民間の要求に應じて種付を行ひ畜産改
良の資に供しつゝありて其の成績概ね良好なり又牛乳は軍病院
青島病院、偕行社等へ供給し殘餘は別に拂下を行ひ以て民間に
於ける一部の需要を充たしあり其の乳質は脂油含有量多くして
富美なること世既に定評あるも牛種の關係上泌乳能力充分なら
ざるを以て將來は「ホルスタイン」雜種を以て此缺陷を補ふ計畫
なり現在飼養しつゝある畜牛及山羊を表示すれば次の如し

畜類	種別	種別		合計
		純血	雜種	
牛	種牡	純血	雜種	合計
	種牝	純血	雜種	
山羊	種牡	純血	雜種	合計
	種牝	純血	雜種	
計		純血	雜種	合計
山	生	二	一	三
羊	産	一	一	二
計	獲	一	一	二
備考	山羊ハ「ザーネン」種トス			

第三 事業收入

當場に於ける事業收入の主なるものは獸畜屠肉検査費にして其
他は時間外牽入特許料、繫留手數料、滅殺器使用料、秤衡料、
冷蔵庫使用料、製氷拂下料、牛乳拂下料、種付料、汚物拂下料

なりとす而して現時徴收しつゝある料金は青島屠獸場假規則第
三十六條に定むるものにして即ち左の如し

一、獸畜屠殺料及屠肉検査費	牛	一頭	軍票	三	圓
	犢(生體重百斤以下)	同	同	七十五	錢
	綿羊、山羊	同	同	七十五	錢
	豚	同	同	一圓七拾五	錢
	小豚	同	同	五十	錢
	馬、騾、驢	同	同	五	圓
二、時間外牽入特許料	牛	一頭	軍票	二十五	錢
	豚、小畜	同	同	十五	錢
三、繫留手數料	各種の獸畜	一頭一日	軍票	七	錢
四、滅殺器使用料	大獸	畜一頭	軍票	五	圓
	小獸	畜同	同	二	圓
	豚	同	同	三	圓
五、冷蔵庫使用料	櫃房一平方米突	一箇年	軍票	三十二	圓
六、秤衡料	大獸	畜一頭	軍票	二十	錢
	小獸	畜同	同	十	錢
七、牛乳及製氷は競争入札により拂下げあり 以上の財源に由る當場の收入は事業の發展と共に逐年増加しつ つあり特に大正六年度に於ては屠獸の數前年度に比して遙かに					

増加せし爲め總收入に於て十二萬二千六百餘圓を算するに至れり更に之を前二箇年度の收入合計に比するに尙一萬四千九百餘圓の超過を召せり(附表第二、第三參照)

第四 生肉輸出の狀況

前項食肉の販路の條に述べたる如く我軍政時代の輸移出肉は牛肉のみなりしが近時豚肉の輸出をも見るに至れり其景況左の如し

(一) 外國輸出 露貨暴落の爲一時輸出を中止したる露國軍隊用鹽藏牛肉は大正六年十月恰も民政施行後間もなく復活し新たに一萬頭輸出の契約成り又他方に於ては麻尼拉行凍肉の輸出愈々盛況に向ひし爲大正六年十月より同七年四月に至る七箇月間に左表の如き輸出を見るに至れり

輸出先	月次							計
	十	十	十	一	一	二	二	
麻尼拉	二、三六	一、四七	一、四九	二、五二	一、四三	一、三三	二、五九	一〇、九〇
露國	一、五九	二、九六	一、四六	一、五二	一、四三	一、三三	二、五九	七、五三
計	二、七七	四、四三	二、九五	四、〇四	二、八六	二、六六	五、一八	一八、四三

麻尼拉及露國への輸出は共に當地米商開治洋行の手により行はれあり而して麻尼拉輸出牛肉は完全なる凍肉となし露國行牛肉は鹽藏肉となし共に當該國御用船によりて輸送せらるゝを例とす又大正七年三月以來開治洋行店員米人「マーシャル」なる者鹽漬豚肉の桑港輸出を企畫し同月には百七十七頭を四月には五百九十六頭を輸出せり

因云、麻尼拉輸出肉検査立會官として當地米國陸軍糧餉部出張所に獸醫官(大尉相當官)一名、助手一名派遣せられあり又露國輸出肉検査官としては露國軍隊側より獸醫官中佐相

當官一名(少尉相當官)二名出張しあり(一)日本輸出 從來日本内地向生牛肉の輸出は甚だ少量なりし爲一般に其眞價を認められざりしに大正五年十一月より山東牛肉の銘を打つて輸出を開始し日本内地の主なる市場に送りし結果賣行き良好なりしを以て大正六年十一月より内地向輸出再興し同月は八十四頭を輸出せり然るに日本内地に於ては恰も牛肉の市價暴騰し之が調節の聲喧しき折柄とて忽ち聲價を高めたると他方内外商の競争起れるとに依り輸出數激增し十二月には五百六十頭大正七年一月には八百十七頭二月には七百十六頭三月には五百四十一頭四月には四百十五頭累計三千百三十三頭の多きに達せり然れども五月に入りては季節の關係上輸出激減したるを以て五月中旬以後生肉の輸出は恐らく今秋迄中止の已むなき狀態を呈するならん然るに最近に至り鹽漬牛肉の内地輸出を新たに企圖する者當地日本商中二三名あり既に小倉廣島其他中國筋に兵食用として輸出せられある有様なれば幾分にては肉價調節に資する所あるべしと信ず内地向輸出肉取扱者は二十餘名に上るも其内重なるものは東京の木村糸丸、舟末邦之助、神戸の明城彌之助、下の關の綿貫庫太、福岡の高松清太郎、當地の山口世基、大津恒治、有馬徳太郎等なり而して輸出の包装は晒木綿にて内装し外包には「アンペラ」を用ひあり又輸送は内地青島間定期航路船及社外船に依りつゝあるを以て船腹の關係上到底内地の需要を充たし能はず故に將來は少くとも十月乃至三月の六箇月間定期航路船を増加して之を救済するの外途なけん之を要するに内地への牛肉輸出は食肉減少の我國の現狀に對しては最も機宜を得たる處置なりと雖以上述べたるが如き方

(三) 上海、大連移出、上海への移出は大正五年二十二頭同六年五頭の少數なるも大連への移出は大正五年三百八十九頭同六年六百六十一頭にして是亦逐年増加の好況を呈しあり

附錄

青島及內地著名都市肉食概況

青島市の人口に對する肉の消費量と内地に於て比較的多くの肉量を消費しつゝある東京、横濱、名古屋、京都、大阪、廣島、下の關の各市の人口に對する消費量とを比較對照すれば次の如くにして青島市に於ては前記各都市に比し遙かに多量の肉を消費しつゝあるを知るべし

人口百に對する一箇年の肉消費高

青島	二六〇	東京	四〇四
橫濱	八〇〇	名古屋	一〇三
京都	二〇一	大阪	一〇一
廣島	八二	下ノ關	二七

即前記七市の平均消費は三、九七頭にして青島市の二六頭に比し約六分一弱の消費に當るのみ

附表第一 其一

自一九〇一年至大正六年 諸畜種類及頭數比較表

一九〇一年	牛	犢	豚	羊	山羊	馬	計
	—	—	—	—	—	—	九二八

一九〇二年	五元五	一,一九一	七,五五四	二,〇二〇	二五	六	一,一九三
一九〇三年							一,三六二四
一九〇四年							一四九六一
一九〇五年							一四,八四九
一九〇六年							一四,五五六
一九〇七年							一,一四三
一九〇八年	五,四六三	一,四八八	八,八八八	二,〇六七	二七	七	一八,二〇〇
一九〇九年	七,〇六六	二,六六六	九,六六三	二,四七六	六	七	二〇,九五五
一九一〇年	七,四三三	二,〇一九	九,六六三	二,四七六	六	七	二〇,九七五
一九一一年	二,〇〇〇	二,〇九七	二,〇〇〇	二,八五三	二九	三	二八,五七二
一九一二年	二,七六八	二,〇九	一,一五五四	三,〇四四	三	三	四,四〇〇
一九一三年	一七,八八	八,六八	八,四七一	二,一〇〇	六	三	二九,二八八
一九一四年	八,二五	二,四	五,三九	二,七六	三		一三,九七六
大正四年	一五,四四	一〇七	六,三九	四,〇五	一五		二二,八九六
大正五年	二五,六三	五五	六,七〇二	四,〇〇	一〇五		三三,九四
大正六年							

附表第一 其二

諸場收入比較表

一九〇七年	六五、二三八麻克	一九一二年	一九四、四八一麻克
一九〇八年	七一、六四二麻克	一九一三年	二二六、三三四麻克
一九〇九年	八八、八三四麻克	大正四年	金三七、二一九、二九〇 ^四
一九一〇年	八九、三二九麻克	大正五年	七〇、五二二、九〇五
一九一一年	九三、五四一麻克	大正六年	一二二、六八五、八五〇

附表第二

大正四年度
以
降
當場收入明細表

區分 屠肉屠殺料及屠 肉檢查料	大正四年度	大正五年度	大正六年度	計
	三、五八、六六三	六三、四九、六九二	一〇、八二、九三八	二〇、四八、九三三
	円	円	円	円

時間外奉入特許料	五〇九八	九〇七八	三五八五	五〇四七一
繫畜手數料	—	〇・九九	—	〇・二九九
秤衡料	九三・三六七	九三・三六一	一九四・六〇	三七八・七八
滅殺器使用料	四・二三	一四・八〇	四・三〇	三三・〇五
冷藏庫使用料	二・六元・七六	一八九・二四七	九七・七六八	五九・九六二
製氷拂下代	二八・七六三	一八九・七八七	五五・四三八三	二〇・五九二・七五
內臟汚物拂下代	一七・五九五	三八・五三四八	二九・三七九	八五・四四三
種付料	八六・六	八七・六三	一二・五〇五	二二・二六六

附表第三 自大正四年度 至大正六年度 當場收支一覽表

牛乳拂下代	—	一七・〇九九	二・九四八・〇五	四〇・五七二四
中糞拂下代	一八・三三	四・〇〇	一八・四〇〇	四〇・七三五
牡牛拂下代	—	—	二四・三三七	二四・三三七
古鐵拂下代	—	—	八四・八四〇	八四・八四〇
計	三七・二九九〇	七・五三九〇五	一三・六八五・八五〇	三〇・四六〇・四五

備考 大正四年度の収入は四年二月より業務を開始せるに付それより起算し四年中の収入及便宜五年三月迄の収入を含めり

年度別	區分	收	入	人件費	物件費	出	純收益	摘要
大正四年度		三七、二一九・二九〇	一〇、〇三〇・九七四	七、二〇四・四八〇	一七、二三五・四五四	一九、九八三・八三六	—	四年度收入、支出は共
大正五年度		七〇、五二二・九〇五	一三、一七三・〇四八	七、〇五五・三六二	二〇、二二八・四一〇	五〇、二九四・四九五	—	に四年二月より五年三
大正六年度		一二二、六八五・八五〇	一五、六二六・九六四	一三、四八一・四八四	二九、一〇八・四四八	九三、五七七・四〇二	—	月迄の收入支出を含む
計		二二〇、四二八・〇四五	三八、八三〇・九八六	二七、七四一・三二六	六六、五七二・三二二	一六三、八五五・七三三	—	

附表第四 青島及日本主要都市屠殺料金比較表

	青島	東京	大阪	京都	名古屋	神戸	横濱	下關	門司	臺北	大連	京城	城廣島
牛	三・〇〇〇	〇・八二〇	二・〇〇〇	二・七五〇	一・二五〇	二・八〇〇	一・六〇〇	四・一〇〇	四・九〇〇	四・五〇〇	三・〇〇〇	二・五〇〇	三・一〇〇
猪	〇・七五〇	—	一・一〇〇	一・一〇〇	—	一・一五〇	〇・六五〇	〇・一〇一	一・五〇〇	—	〇・八〇〇	〇・五〇〇	—
豚	一・七五〇	〇・三三〇	一・一〇〇	一・三〇〇	〇・六二〇	一・一五〇	〇・六五〇	二・三〇〇	一・一〇〇	二・五〇〇	〇・八〇〇	〇・六〇〇	一・一〇〇
羊	〇・七五〇	〇・三六〇	一・一〇〇	一・一〇〇	〇・六二〇	一・一五〇	〇・六五〇	一・三〇〇	一・一〇〇	—	〇・五〇〇	〇・六〇〇	〇・六〇〇
山羊	〇・七五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬	五・〇〇〇	〇・八二〇	二・〇〇〇	二・七五〇	〇・九五〇	二・〇〇〇	一・六〇〇	三・四一〇	四・一〇〇	三・三〇〇	—	—	二・〇〇〇

備考 一、本表金額中青島は銀其の他は總て金とす
二、本表料金中には各地方により特に設けられある屠獸検査手數料、屠畜税、屠場使用料、屠殺料、府縣税、市附加税等一切屠殺に要する費用を悉く計上せるものとす

貿易

◎青島貿易近況 (八月)

本月中埠頭出入貨物の數量を見るに其の陸揚(輸入)に在りては二萬七千六百〇九噸三を示し船積(輸出)に在りては三萬八千百十二噸二を算せり即ち輸出の輸入に超過すること約一萬餘噸なり、蓋し原鹽の輸出旺盛にして一萬二千餘噸に上れるは其主因たるべし、全體に於て前月に比し左表の如く減退せり

	七月 中		八月 中		比 較
	陸揚貨物	船積貨物	陸揚貨物	船積貨物	
計	二八、〇六六・八	四〇、〇七〇・七	二七、六〇九・三	三八、一一二・二	四五七・五(減) 一、九五八・五(減)
更に之を昨年同月に比するとき	六八、一三七・五	六五、七二一・五	二、四一六・〇(減)		

	昨年 八月		本年 八月		比 較
	陸揚貨物	船積貨物	陸揚貨物	船積貨物	
計	三一、二六二・七	三二、八四四・八	二七、六〇九・三	三八、一一二・二	三、六五三・四(減) 五、二六七・四(増)
即ち陸揚に在りて三千六百餘噸の減退を來せるも船積に於て五千餘噸を増加し總計差引千六百餘噸の増加を見るに至れり	六四、一〇七・五	六五、七二一・五	一、六一四・〇(増)		

◎主要貨物情勢 (八月)

輸入貨物に在りて昨年同期と比較し著しき現象を示せるは燐寸高粱、綿絲、石炭の輸入減退と巻煙草、石油の輸入増加にして就中燐寸は當地燐寸工場製品が漸く市場に出廻り内地品の一部を驅逐せる結果にして一方燐寸材料の輸入を招き又石炭の如きは淄川博山の出炭量増加し相當輸出を見るに至りたれば地賣に供する輸入炭の減少を來せるは止むを得ざるべし

其他高粱及綿絲は商況不振の爲め著しく減退せり、巻煙草は奧地購買力旺盛に連れ需要増加せる結果にして石油の如きは平調を維持せるにも不拘斯の如き増加を示せるは偏に荷線の都合に止まり他に何等の理由あるに非ず
輸出に在りては特に鹽の内地輸出著しく増大し昨年に比し約一萬噸の増加を見たるは本年暴風雨の被害を受け内地鹽の減收例年に比なく專賣局に於て之が補給を外鹽に仰ぎたる結果にして眞鍮塊の減退は商況消沈出荷激減の爲なりとす
而して本月(八月中)主要貿易品の數量を示せば

輸 入 品			輸 出 品		
品 目	數 量 (噸單位)		品 目	數 量 (噸單位)	
白 米	六〇二・八		落 花 生	八三七・〇	
高 粱	二六六・九		果 實	一、〇六九・一	
麥 粉	二八三・二		鹽	一二、四八〇・〇	
赤 砂	二、一六九・三		葉 煙 草	一、三五五・九	
白 砂	二、六六八・四		絹 絲 屑	七五三・二	
燐 寸	五九一・四		淄 川 炭	三、〇六〇・〇	
セメント	八七七・四		博 山 炭	五、九五〇・〇	
綿 絲	一、四四四・四		コークス	二、二三八・二	
綿 布	一、〇二〇・六		眞 鍮 塊	三五四・二	
支 那 紙	一、〇九四・八		桐 油	六三二・五	
石 炭	二、八〇〇・〇		豆 油	八〇七・五	
木 材	一、三八〇・〇		落 花 生 油	四五三・〇	
豆 粕	二、〇三〇・〇		綿 花	一、二六〇・三	
燐寸材料	一、〇一八・二		麥 粉	二五八・五	
石 油	一、四四七・一		牛 肉	二七二・二	
煙 草	一、一〇八・二		麥 酒	七八一・四	
硝子同製品	五四〇・七		鐵 布	二八五・〇	
				一、〇四七・五	

◎大連八月中貿易情況

八月中大連港輸出貨物は十四萬四千五百五十六噸にして前月より稍や減少せるも前年同月に比較せば數萬噸の激増なり而して各方面への輸出品配布狀況を見るに左の如し

日本及び朝鮮日本への輸出は八萬五千九百四十七噸にして輸出の大半を占む其重なる仕向港は神戸港の三萬四千二百六十七噸を最多とし横濱港の二萬四千八噸長崎港四千八百九十九噸清水三千八百五十八噸直江津三千四百七十噸之れに亞く神戸横濱仕向は豆粕を主要品となし清水は鈴木油房工場設置の關係上大豆多く直江津は鐵道院の石炭全部となせり而して日本輸出の品別噸數は

石炭	一四、五二五	大豆	一六、二五五
豆粕	三九、三七四	小豆	二、一二二
小麥	一、一六一	燕麥	一、〇五二
金物	三、七六五	其ノ他	四、一八六

次ぎに朝鮮への輸出は六千五百五十四噸にて仁川鎮南浦釜山等へ輸送され品別は石炭四千二百二十噸麥粉三百五十四噸雜貨一千五百二十一噸にて順次發展しつつあり

支那沿岸港の貿易は船舶の關係上盛衰常なきも定期航路を有する上海青島芝罘等は平時に變らず取引あり同月の輸出高は二萬四千六百十五噸にして其主要品は石炭一萬一千九百九十八噸大豆一千七百五十九噸豆粕四千七百八十一噸にて石炭は芝罘上海青島へ仕向けられ大豆は厦門香港上海青島なるが例年厦門へは多數の輸送あるべきも本年は運賃高と銀高の關係上稍や不振の狀態にあり豆粕の需要は各地共著しく發達せるあり自然輸出も増加し青島の如きは一千九百九十一噸仕向あり之に續いて厦門一千

百四十一噸上海一千二百二十六噸興化七百噸汕頭四百二十六噸福州百五十二噸あり茲に注意すべきは南支一帶の建築用として大連産の小野田「セメント」が八百八十二噸の輸送を見たる一事なり

南洋及米國南洋貿易は時代の進運に連れ開發されあるも船腹不足の今日なれば思はしき商取引も之れなきは遺憾となす處なるも滿鐵販賣課に依りて石炭を輸送しありて同月の出貨七千十八噸中石炭は五千八百噸を占め其の他の貨物としては僅かに麥粉九十八噸ありしに過ぎず其他は雜品一千八十一噸のみ而して仕向港別はマニラ五千八百五十五噸バタビヤ三百六十八噸サマラシ二百五十八噸スラバヤ五百三十七噸とす米國は單に沙市一港へ輸出せるのみ其噸數二萬四百二十二噸あり大半は豆油一萬八千二噸にて次は落花生油二千三百二十噸種子百噸あるのみ太平洋海運の定期船路開始されれば今後の米國貿易は刮目して見るべし要するに八九十の三ヶ月は所謂夏枯期なれば不振を極む

海運及鐵道

◎青島最近船舶出入 (八月)

當月中入港船舶(汽船)は八十九隻此登簿噸數五萬九千二百九十一噸にして出港は八十六隻五萬九千八百二十噸なり而して積載貨物は入港卸荷二萬七千六百九噸三にして出港積荷は三萬八千百十二噸二なり之を一月よりの累計に徴するときは入港六百十四隻五十二萬三千四百六十三噸、出港六百十三隻五十二萬五千六百七十五噸にして卸荷二十四萬八千四百四十八噸五積荷三十五萬四千九百九十八噸六合計六十萬二千六百四十七噸一に達せり

之を昨年八月分と比較すれば左の如し

入港		出港		卸荷噸數	積荷噸數
本年八月	兌 五、九二一	兌 五、八〇〇	二、七〇九	三八、二二二	
昨年八月	五、六四〇	五、四七六	三、二七三	三八、四〇八	
増減△八増	◎三、△四七七	◎元、△四二四	△三、六三〇	◎五、三五四	

▲入港汽船

仕出地	日本	英國	米國	支那	計
日本	一六				一六
大連	一九				一九
上海	二二				二二
芝罘		二			二
天津		三			三
其他ノ支那港	二一				二一
釜山	一				一
香港	二				二
浦鹽	一				一
合計	八一	六	一	一	八九

仕向地	日本	英國	米國	支那	計
日本	一九				一九
大連	一五				一五
上海	一八				一八
天津	一				一
其他ノ支那港	二一				二一
釜山	二				二
仁川	二				二
香港	一				一
マニラ					
合計	七八	六	一	一	八六

▲出港汽船

◎支那航路擴張計畫

近來船腹過剩の爲め内地近海航路に著しく増船を見るに至りたれば村井汽船は早くも茲に著眼して左記四隻のチャーターを爲し神戸起點として大連、芝罘、青島、上海、香港、臺灣の豫定にて月三回支那沿岸航路を開始すべく計畫中なりと

船名	登簿噸數	渡期	備船料
富士丸	一、五〇〇	六月	二二、五〇
筑波丸	一、五〇〇	八月	二五、〇〇
佐川丸	一、七五〇	九月	二四、五〇
神吉丸	一、四二三	十月	二四、五〇

◎内地近海運輸近況

近海運賃は目下門司、横濱間五十錢の値上げを爲したるも近海出荷比較的思はしからず昨今御用船の返還と同時に船腹は漸次に潤澤に向ひつゝあり従て運賃は多少強味を保ち居るもの、依然底弱氣分を脱せず當分の間は九圓五六十錢の保合なるべし、獨り北海木材は之に反し軟調を示し來れるが是畢竟出し澁りの結果に外ならざるが如し、最近の成約者を掲ぐれば

船名	積荷種類	同噸數	間	運賃
靜海丸	石炭	四〇〇噸	若松—横濱	一〇・二〇
眞岡丸	鹽	二、六〇〇噸	尾道—酒田	〇・五七
永安丸	枕木	二、三、〇〇〇本	釧路—上海	一・四〇
萬盛丸	枕木	一、八、〇〇〇本	釧路—釜山	一・〇〇
東英丸	材木	三、〇〇〇石	清津—大阪	五八・〇〇
休木丸	鹽	二、〇〇〇噸	坂出—小樽	〇・四五

◎内地に於ける最近備船狀況

備船界は外航不振の結果大型船は氣迷ひ小型船も亦行詰りの状態にて保ち合ひ獨り普通遠洋稍活氣を示し居れるが最近の氣配は概ね左の如し

- ▲大型船四十圓▲中型船五千噸三十八圓、三千五百噸三十二、三圓▲小型船普通遠洋三十三圓、近海二十六圓▲米航三十八圓△歐航五千圓見當なりとす

◎市内三驛發著主要貨物 (八月)

八月中青島驛、大港驛、埠頭荷扱所の三驛に於ける主なる貨物發著左の如し

△到著品		△發送品	
品目	上旬	中旬	下旬
落花生油	五六・九	二一・五	二七・〇
豆油	二二七・五	一六八・五	一四五・五
牛皮	二〇・四	一七・四	五・二
牛骨	三八・九	一・九	一五・四
品目	上旬	中旬	下旬
高粱	二二三・九	六四・三	六四・九
綿絲	二五六・〇	二七一・三	二一一・二
綿布	一一六・三	一〇五・三	一二四・二
砂糖	一、二八六・七	五五一・〇	六八三・八
礪寸	七三・二	九〇・二	一三四・六
石油	二二一・七	三三三・一	四五九・八
		計	
		三五三・一	
		七三八・五	
		三四五・八	
		二、五二一・五	
		二九八・〇	
		一、〇一四・六	

金 融

◎九月中銀塊並に爲替相場

●銀塊は本月を通し倫敦相場四十九片半にて何等の變化を見ざりし

●爲替は日本向電信爲替相場本月中最低相場百六十四圓に始まり百七十二圓五十錢を最高とし百六十七圓二十五錢に終りたり
●本月は前月來奔騰の趨勢を持續し輸入業者は益騰貴せんことを見込み買控ふるに際し上海に於ける借款切換生糸輸出並に米國印度共棉花不作の爲め支那棉の輸出を催し其高巨額に上りたれば相場は益昇進し空前の高値相場を顯出したり此る相場の奔騰は支那投機者流の思惑を惹起し輸入爲替の取組高日々増加し其高巨額に達したるに反し輸出商は爲替取組を見合すに至りたれば各銀行は輸入爲替の取組を好まざるに至りたるに際し聯合軍は引續き戰功を修むるの報知陸續到達したれば平和の近づきたるを思はしむるに至り再び投機者の買進を促進したれば各銀行は之を避んが爲め自然相場下落するの趨勢を示し特に恐慌の市場を續出するの恐れあらしむるに至り月を終りたり

●金融上海市場は常に金融逼迫したれば當地向五日目拂上海手形は常に高値を持續し九百四十六兩を示したることあり又濟南市場近來金融非常に逼迫せり當地は未だ輸出時季に入らざるも小麦輸出許可の見込にて商界は多少活動し始めたり

重要貿易品概況

(九月)

△綿糸布

▽綿糸に在りては夏場七、八月の頃賣行閑散を極めたる爲め仕入を手控することゝなりたれば月始頃に至りて市中在荷かすれ各店共手持薄となり自然相場の上向を促したると日本向爲替好順に向ひたる爲め内地相場と出合姿となり市況頓に活氣を呈し殊に上海市場も下向氣配を示したれば濟南及各地共一般小口買進み毎日四五百俵位の手合ありたり、下旬に入りてより奥地匪賊の横行激しきと各地共一順買付を終りたる爲め稍閑散の状態に入り加ふるに大阪米棉相場の強硬に連れ毎日漸騰し爲替も反動高の爲め自然當市相場を吊上げ月末水月二十手百六十二兩半紅月十六手百五十六兩扇面十六手百六十一兩の高値を示し安値賣物無く商況益不振に陥り手堅く保合中に本月を終る

△青島相場

	上旬	中旬	下旬
福島	(二十手) 一七〇兩	一六九兩	一六七兩
水月	(二十手) 一六二兩	一六一兩五	一六二兩五
扇面	(十六手) 一五八兩	一五九兩	一六一兩
紅月	(十六手) 一五四兩	一五二兩五	一五六兩

▽綿布に在りては全月中殆んど思はしき賣行を見ず而かも在荷手薄にして比較的高値を呼び粗布九龍九月上旬五兩五匁五分より中旬五兩六匁下旬五兩八匁に漸騰せり

△燐寸

黃燐の製作は日本に在りては工場法の支配を受け工場設備並に其取扱方等同法に據る當業者不馴を示すものゝ如くなるも青島

に在りては一切之と關係無く殆んど自由に製作し得ると工賃の低廉に加ふるに輸送の運賃を要せざる爲め當地の燐寸製造業は日を追ふて益々製作力を増加し未だ充分奥地の需要を満すに至らざるも日本輸入品の一部を青島市場より驅逐するの盛況を呈するに至れり之が爲め在來の日本輸入品は大打撃を蒙り其製造業者の一部は遽かに安全燐寸に轉業するものありて殆んど日本品の輸入絶無の状態に在り從て戰前より日本輸入品をのみ取扱ひ居たる在青島支那商は一切其取扱を中止したる爲め自然市中在荷手薄となり旁々奥地思惑筋の買進みあり問屋筋の賣惜みと相俟て市價漸騰し昨今一噸二十七兩五匁より二十八兩を呼びつゝ尙強氣配を示し居れり、十月末市中在荷約五百噸見當なり原料としての鹽酸加里は前月報通り下押氣配なるも其他の一般材料即ち、紙箱、柚木、工賃等何れも騰貴したる爲め自然相場の上向を促進せり市中在荷の手薄と豐作の爲め奥地支那商の購買力増加とは市價漸騰の一因たらん

△砂糖

爪哇糖、先月は中秋を控へたる爲め活氣を呈し多少取引ありたるも九月に入りてより至て閑散にして殆んど纏まりたる取引行はれず只冬期の需要に應ずる少數の先物買付ありたるのみ、市價強氣配を示し居るも這は銀の上騰による一時的現象にして銀相場の下らざる以上支那商人は買方に廻るべく左すれば益々強氣を煽り相場の高騰を免れざるべし、先物としては十月物約三千擔の買付あり十一月物は形勢觀望の姿にありて未だ手を下すに至らず

△石油

▲日本油、需要期に入りて稍活氣を呈し來りたるも内地品薄に連れ自然青島在荷拂底を告げ九月の如き僅かに一萬五、六千箱を有するに過ぎず從て各店共多少賣手控の態に在り十月見越強氣配を持しつゝ只管活躍の期を待つものゝ如し九月中賣捌高約五千五百箱にして市價青全勝銀五圓、赤全勝銀四圓九十錢を動かす

▲外國油、歐洲戰亂の爲め輸送の困難と船腹不足運賃高の爲め先月一箱に付八十錢の値上げを斷行するに至り奥地需要者一般に手控安物に移る傾ありて昨今需要期に入りつゝ賣行活潑ならず月末在荷亦餘りに豊富ならず雖ども上旬亞細亞石油の上海積替にて七萬箱の入荷あり「スタンダート」亦相當のストツクを有すれば需要繁盛期に入るも毫も差支無かるべし
外油月末相場左の如し

「スタンダート」製品

美阜印 箱入	六・一六	鷹印 新國箱ナシ	五・七六
虎印 同	六・〇六	鷹印 裸	四・七六

亞細亞製品

僧帽印新國箱ナシ	五・七六	同 裸	四・七六
----------	------	-----	------

今日日本油及び外油の九月中荷動きを示せば日本油一割九分、亞細亞四割七分、美阜三割一分、テキサス油三分の割合なるが美阜石油は濟南方面への輸送を全部天津同會社よりするを以て適確なる統計を得る能はずと雖ども山東省内に消費せらるゝ各油の割合は大凡美阜五、亞細亞四、日本一の割合と見て可ならん

△紙。

八月以降の上向氣配は天井知らずの姿にして何時停止するやの

豫測も付かず書簡用紙外二三種の如きは茲二箇月間に突飛の上騰を爲して殆んど二倍高となり最も需要の多きザラ紙の如き大正四年頃の三圓五十錢が十一圓五十錢といふ暴騰を示す有様に加ふるにの輸出の困難は當市紙商に取りて著しく影響すると同時に海外輸出紙類は一大恐慌を來し内地間屋筋は思惑高にて總體賣溢り辛ふじて注文總數の三割強の供給を受くるの實情に在り此の分ならば行々くは一層品不足に陥るを免れず印刷用紙として最も賣行好き白羊紙の如き磅四十二錢の高値を示せるにも不拘頗る賣行好く印刷業の閑散期たる八、九月に於てすら常に賣切れの盛況に在り、支那内地向連紙の如きも亦前例に漏れず内亂と土匪の爲め奥地購買力多少鈍りたるも餘り影響無く同奥地向ザラ紙の如きは愈需要期に入れる矢先浦鹽及南洋方面の大注文を受け不具的の大狂騰を爲せる結果買方一般手控への姿となり安價なる支那紙を代用する傾向を生ずるに至れり最近の狂騰せる内地相場にては奥地との取引不引合の爲め皆目行はれず唯情勢を維持するに過ぎず、支那奥地向紙類の月末相場を示せば

濟南渡相場 ザラ紙 一連 銀六圓五十錢

寸連ザラ紙 一捆 銀百圓
有光紙 一捆 銀百圓

△木。材。

北海道材は依然荷薄にして各商店を通じて上物出拂の姿なりしが二十日頃戎克四艘にて鴨綠江材の入荷あり爲に一時の急を凌ぎ得たるも尙旺盛なる建築界の需要を満足せしむるに至らず依然強氣一方にして毫も下押氣配無し蓋し秋出商會、村井材木店の注文に據る北海道材の著荷が豫定より幾分遅延せるも一因た

るべく之が需給を緩和して建築界の涸渇を癒するも遠きに非ざるべし、現在青島の建築界に於て重に使用せらるゝ北海材は運賃の關係上全部製材し板、小割、柱となし輸送するものにして當地に於て製材するの要なきも鴨綠江材は杣角の儘輸送し來り建築家に於て適宜に製材使用するの不便あり隨て邦人建築家は概ね北海道材を用ひ特に必要なる場合の外は鴨綠江材を使用するものなく支那人建築業者は重に鴨綠江材を加工使用する故自然需要界を二分し相互に相犯すに至らず日支材木商間に商買敵の觀念も無く至て圓滿なり、目下建築界の需要旺盛なれば多少の著荷あるも強氣配は免かれざるべきも現在市價の高低は只銀價の高下に連れ多少浮動するのみにして金仕入たる北海材に在りては止むを得ざる現象なるべし一方鴨綠江材に在りては銀仕入なる上運賃の比較的低廉なることにより銀價下落せば市場は鴨綠江材に壓倒さるべく反對に銀價昂騰するか運賃の下落を見るに至らば建築界は北海材の雄飛に委するに至るべし、月末市價を示せば

邦 商 北海道材(白松)	才	銀九錢	赤松	才	銀十一錢
支那商(鴨綠江材)	白松(メーター)上ナシ	並			銀十九圓
	赤松(同)	上	銀三十圓	並	銀二十六圓

△木炭

需要期に入りたれば市況活氣を呈し相當荷動きある筈なるも西比利亞出兵の爲め滿洲炭の輸入絶たると朝鮮に於ても炭價調節の聲喧しく起りたれば一般に先高を見越して賣惜の状態に在り内地氣配亦強硬なる爲め厭か上にも強氣を煽り遂に小賣六貫俵一俵に付約三十錢の値上げを爲すに至れり然れども市中在荷潤澤なると一方林務署拂下炭二千俵を控へ尙豊富なる材料と産

出力とを有するにより暴騰を未然に防止するは難事に非ざるべし

△米

二十日頃の内地相場は一時下押氣配なりしも這は一時的現象に過ぎずして各産地の依然在米薄を訴ふると風水害の爲め本年の減收を見越し月末に至り總體強氣を示し三十四圓四十錢を稱ふるに至れり此内地相場は恰も響の音に應ずる如く直に當地の需要米たる鮮米に影響し昨今赤一呎十三圓九十錢に上向し漸く小康を保てり之を八月末頃の高値に比すれば尙一圓七十錢餘の安値なるも上海米二百磅入上等品一袋(六斗二升入)二十圓五十錢に比すれば尙一呎に付二圓九十一錢高なれば當地の需要は勢ひ上海米に集まり今日全需要者の四分の三は上海米に移りつゝあり従て鮮米の賣行は急に閑散を告げ上海米は買煽りの爲め先月末一袋十八圓五六錢より一躍九月末二十圓五十錢に昂騰し尙強氣配を含めり、當地小賣相場の一高一低は悉く内地相場に支配せらるゝものなれば當市の米商は昨今相場の狂變を慮り常に澤山の手持を爲すもの無く必要に應じ度々注文を發するの狀態に在り多きは四百俵少きは百俵内外の手持を有するに過ぎざれば需要の推移に左したる影響無かるべし

△煙草

安物賣行最も良好にして奥地購買力の旺んなること前月に異らず然るに銀高の爲め英米トラストの製品たるバイレット、クロスカツトの如きは賣行著しく減退せるに反し東亞煙草に於て賣出せる「スピア」は殆んど愛煙家を風靡するの狀態に在りしが果然一箱三十錢(一割五分)の値上げを斷行するに至れり元來「ス

「ピア」は大箱一個に就き七圓以上の損害に甘んじ只管賣込に苦心せるものにして値上げの斷行は品質を保持する上に於て商策上止むを得ざる次第なりと而して之が爲め同品の賣行毫も衰へざるが如し、坊子附近に於ける葉煙草は殆んど英米トラスト獨占の姿なりしが東亞煙草に於ても多少著眼する處あり昨年三萬貫程の買付を爲し本社に送附し試験せるに品質溫和にして些の特長無きも之を吉林産の如き香氣強き原料に混和し下級煙草即ち百圓票、ヘルメットの如きを製作する上に於て最も好適せるを認めたりと

△麻袋

秋期農產物收獵時期となり需要期に入りたるも未だ纏まりたる取引ありたるを聞かず、相場青筋入百枚三十二兩、鐵筋入百枚二十九兩見當なり

△牛骨

市況極めて閑散全く取引行はれず

△石炭

淄川、博山の兩炭鑛共農繁期間苦力缺乏の爲め採炭能力著しく減退し炭繰困難に陥り居るは既報の如くなるも最早農繁期も過ぎ苦力も復歸繰業せる爲め出炭量噸に増加せると需要期間眼前に迫り來りたる爲め多少活氣を呈し來りたれば十月期に入らば相當荷動きを見るに至るべし

會て戰前獨逸が山東炭として賣込みたる坊子炭は炭質良好ならざりし爲め大に其聲價を落し殆んど顧みるもの無き有様に至れるに焦慮し始めて大規模に淄川炭の採掘を計畫せるものにして

戰後と雖も尙山東炭として輸出非常に困難なりしにも不拘昨秋三井物産が有らゆる努力を以て始めて上海に之が輸出を企て、成功せし以來著々其地歩を固め尙競ふて其響に倣ふ者あるに至り遠からず年々悠に十二萬噸の輸出を爲し得る豫定なりといふ地賣炭に就て見るに淄川、博山の外に内地炭あり撫順炭あり坊子炭ありて雜然として互に競争しつゝあり内地炭の如きは炭質に於て劣れりと謂ふに非ざるも内地に於ける炭價の騰貴と比較的多額の運賃を要する爲め到底博山淄川の兩炭と對抗して競争し得ざるは明かにして早晚市場より其影を没するに至るべしと目さる、撫順炭は其炭質の可燃質なる點に於て愛用せらるゝと坊子炭は比較的廉價なることにより多少の賣行有らんも到底淄川、博山兩炭に拮抗するなかるべし昨今需要期に近づきたれば多少活氣を呈するに至るべし

△落花生油

本品の市場に出廻るは十一月上旬頃なるべきも已に先物契約時期なるにも不拘本年は奧地支那商が昨年早賣失敗の跡に鑑み一般に手控居り未だ先物契約ありしを聞かず銀價の強氣なるを豫想しつゝあるも亦其一因なるべし

△落花生

同油と同様十一月上旬頃に至らば手合行はるべきも目下全く閑散なり

△豆油

少額の取引あるも閑散期にして殆んど特記すべき事無し市價銀十二圓五十錢より十三圓位

△牛・肉

開治洋行のマニラ輸出は九月中合計五百九十六頭にして之を前月の八百九十三頭に比し三百頭減となりしは奥地土匪猖獗の爲め買出非常に困難となりたるものにして土匪鎮壓の曉には直ちに復舊するは豫測に難からず九月中食用牛として屠殺せるもの四百二十七頭にして前月に比し二十二頭の増加を見たり

内地行生牛は微々として奮はす九月中三頭、三百五十八貫の輸出ありたるのみなるも鹽漬として月々相當の輸出を見るに至れり試に鹽肉の本年二月以降毎月の輸出數量を示せば左の如し

月	割	輸出斤數	月	割	輸出斤數
二	月	二、〇五〇	六	月	三八、四五五
三	月	二、三六五〇	七	月	一八、六四四
四	月	四〇、二二五	八	月	一〇、八四五
五	月	四七、七〇〇	九	月	二、三五〇
合計		一八三、一九五			

△牛・皮

牛皮の内地需要は年々増加するのみにして本年も出廻り期に入りてより内地頗る景氣付き隨て當市も活氣を呈し來れり取引狀態は毎年十月より翌年五、六月頃に至る間に於て最も活潑に行はれ夏期は最も閑散なり品質は支那産中北支及中支那産を最も優良品とし南支那之に亞ぎ滿蒙は殆んど當地産の半價に値せず之を内地市場に送り評價せしむるに米品に一步を譲るのみにして朝鮮産に優る事數等大に將來の望を囑すべきものとせり市價大皮銀三十圓、中皮銀二十九圓、小皮銀三十五圓見當にして多少強氣を含みつゝあり近頃に至り日本内地相場も亦銀相場に支配せらるゝの傾向を生ずるに至れるものゝ如し

△コークス

博山に於けるコークス業の狀態を見るに農繁期に於ける採炭苦力の不足と雨水排泄作業の爲め原料炭の採掘思はしからず從て産額頗る減少し本月中約千噸の産出ありたるに過ぎず而して内地に於ける需要は益普通品を捨て、優良品に傾き來り多少強氣配を示せり、近來内地に於て民間に製鐵事業旺盛となり需要の多くは是等の製鐵業者により發せらるゝ爲め小口注文のみ夥しく割合に大口注文に乏しく商況先月と大差なし昨今普通品青島渡銀十四、五圓上等品銀二十七、八圓より三十圓見當なり目下博山滯貨五千噸埠頭滯貨約七千噸に上れり

△桐・材

内地に於て山東桐として歡迎せらるゝものゝ中大半は河南產桐材を含み居るものにして昨今山東省内の桐材は非常に減少し沿線附近の如きは已に悉く伐盡し五六十清里の奥に於てすら尙若木のみ多く大低徑尺二止りとし尺五は極稀となれり故に一般商人は手を河南省に染め盛んに同省産の買入に著手せる結果輸出品中幾分同省産の品質粗惡なるものを混入し内地に於ける山東桐の聲價を落したるものゝ如し河南省の桐材は頗る豊富なるものにして前途大に望を囑すべきものあり然れども尠なからざる運送費を要するにより斯業者中既に河南省に工場を起し同所に於て荒削り下駄材となし輸送の便と運賃の低下を計りつゝありと聞けり然して同省産中には堅材、軟材の二種ありて堅材は山東材に亞ぐ良種なるも軟材は品質纖弱にして使用に堪へず内地に於て山東桐の聲價を傷けたるものは重に此軟材なりとす、昨今銀高の爲め奥地買出困難に陥り加ふるに運賃高の爲め内地相

場と出合はず取引不能の姿に在り故に大部分は當地に於て荒削りを爲し下駄材として輸送しつゝあり目下普通品才銀十三錢、三四十一年物銀二十錢見當を呼べり今其輸出數を示せば左記の如く昨年同月に比し二倍以上の増加を示せり

輸出桐材 昨年八月 本年八月 差引
二八八・三 六三三・五 増 三六六・二

△鹽

本年春期製鹽時期に於ては比較的降雨多かりしも春鹽收穫高に就て見るに昨年の豐作に比して大差無く加ふるに昨今秋期製鹽時期の天候頗る可良なれば本年も亦平年作よりは約三割位の増收と見て大差無かるべきが然れど微々たる膠州灣鹽を以てしては未だ旺盛なる内地の需要を満足せしむるに至らず常に品不足を訴へつゝありと雖も船腹の都合上埠頭滯貨七萬噸餘に上り製鹽置場に充滿せり依て製鹽業者は自家製鹽を鹽田に野積と爲し置く有様に在り一方本年專賣局納入契約八年四月限十五萬噸の内漸く二萬餘噸の納付を了したるのみなれば埠頭滯貨七萬噸鹽田野積一萬噸と見るも尙殘額四萬七千餘噸は本年の秋鹽と來春の春鹽に仰がざるべからざるの状態に在り結局品薄の爲め昨今秋鹽契約時期なるにも不拘大口取引皆目行はれず唯少許の小口現賣を見たるのみ市況益々強含にて保合へり、月末相場小口現賣噸銀三圓六、七十錢埠頭置場渡四圓見當なり

△麥酒

青島に於ける唯一の麥酒釀造工場としては大日本麥酒出張所を有するのみなるが該工場も亦銀高の影響を受けて原料たる小麥及加工に要する石炭等内地に比し高價なるより唯現狀を維持す

るに止まり進んで販路を擴張するに至らず從來の關係上本社より輸出せらるべき海外販路に向つて補給的に釀造輸送するに止まり居るを以て輸出品としての麥酒は微々として振はず本年總額約五萬箱内外に過ぎざるべし然れど之を昨年比すれば約四割の増加にして將來需要期に於ける銀價の如何により或は原料石炭の低落を來さば該工場製造能率を充分發揮し輸出の旺盛を見るに至るべし、而して青島に於て消費せらるゝ數量は殆んど云ふに足らず九月中の賣上高七百五十箱にして昨年に比すれば約二割の増加なり

雜報

◎青島に於ける木炭

一昨年末未曾有の狂騰を爲して需要者を困窮せしめたる木炭は本年も亦將に需要期に入らんとせる九月初旬頃より漸騰し昨今平年の四、五割高を示すに至り炭價調節の聲各地に起り漸次一般經濟界の問題たらんとす即ち各地に於ける商業會議所は之が救済の策を講じ國民生活上缺ぐべからざる木炭價格の調節を計り其暴騰を抑止し供給の圓滑を期せんが爲め著々調査の歩を進めつゝあるものゝ如し元來米、味噌、鹽、薪炭の如き日用必需品の暴騰は最も注意を要すべき現象にして殊に其暴騰が不自然なるは更に充分注目せざるべからず而して木炭の暴騰原因としては種々なる遠近因の存するあるべしと雖も第一は生産の騰貴にして内地に於ける木炭の材料たる木材竝に工賃著しく昂騰し戦前四貫匁一俵の木材代價六十錢餘にして工費共七十錢位に過ぎざりしが現在の炭價は原產地に於て一俵に就き二十七八錢

の高値を告げ之に問屋口錢及小賣業者の利益を加算し市價一圓三十五六錢となり實に入割強の騰貴を爲せり第二は需要の激増なり最近東京商業會議所の調査によれば近來東京市及附近町村に於ける炭の消費量は著しく増進し供給之に伴はざるの實況にして其消費高大正元年度には一千三百六十二萬俵其價格六百八十萬圓なりしが大正六年度に於ては一千五百二十八萬俵にて一千百四十五萬餘圓の消費額を示し百六十六萬俵の増加を示せり蓋し内地及朝鮮に於ける各種工業殊に精鍊業の勃興に連れ木炭消費量俄に増大せるあり一工場の如きは一日の消費量三千俵に及ぶものありと云ふ第三は需要者の見越買之なり即ち一昨年及昨年の昂騰に鑑み未だ需要期に入らざるに先だち問屋は木炭の見越買付を爲し小賣商人は直接產地買入を爲す等も亦價格を騰貴せしむる一因にして爲に產地の賣惜しみを誘致し需給不均衡となり遂に價格を上騰せしむるに至るものなり其他青島朝鮮及關東州の如き内地炭の輸入を仰ぐ地方に在りては船腹の不足運賃の昂騰による加重を負擔せざるべからず加之問屋筋の先高見越買占と賣惜しみとにより益々強氣配を煽り需要の最盛期をも俟たず昨今の高値を示すに至れり

而して青島に於ける本品輸入の實情は一昨年 of 如き内地炭六、滿洲炭四の割合なりしが昨年に至り内地炭の輸入著しく減少し滿洲及對州炭の勢力増加し内地炭二、對州炭二、滿洲炭五と朝鮮炭一を加ふるに至れり故に青島に於ける滿洲炭は需要全數の半を占め優に相場を左右するの勢力を示せしが日本の西比利亞出兵と同時に滿洲炭の販路は全然該方面に奪はれ輸入の途全く杜絶し之を他方面の供給に俟つの止むなきに至れり一方朝鮮に於ても亦日本内地の暴騰と船腹不足運賃昂騰の爲め内地品の輸

入杜絶し未曾有の高値を示すに至りたれば從來朝鮮及滿洲より輸入せられたる當市全需要額の六割は勢ひ之を他に需めざるべからざるに至り茲に始めて對州炭の輸入増加を見るに至れるなり當市九月末在炭約一萬五千俵の内對州炭五、内地炭三、朝鮮炭一(之は昨年よりの持越)外に當地產出の林務署拂下炭一ありて對州炭は全數の半を占むるに至り當地相場は勢ひ對州相場に支配せられざるべからざるにも拘らず殆んど内地相場に左右せられ内地同様の高値を稱へ強氣配にて保合つゝあり之れ對州炭が品質上相場の標準たる能はざる爲めなると一方當地商人間に於て内地炭の昂騰に連れ均衡上之が賣價を引上るに至りたる等所謂商策上の懸引もあり自然内地相場に比準して對州炭價を吊上ぐるに至れるものと推測されつゝあり亦時々勞山炭及河南炭の市場に出廻れるを見受くるも極少數量にして支那人間の需要を滿すに過ぎずされど青島の炭價は豊富なる河南炭を有する事及其品質は粗惡なりと雖も自由に之を青島市場に廻送し得る點に於て萬一の場合に充分の牽制力を有し幾分調節緩和の途ありと觀せらる

最近青島及各地の木炭價を比較すれば

△青島							
標	種 類	產地	俵量	價 格	同一貫當		
極大丸	同 月小丸	内地	六貫	三、四〇〇	五、六六		
同 角上	同 角上	同	同	三、三〇〇	五、五〇		
同 角	同 角	同	同	三、二〇〇	五、三三		
同 丸淺	同 丸淺	同	同	三、〇〇〇	五、〇〇		
同 丸淺	同 丸淺	同	同	二、八〇〇	四、六六		
同 中丸	同 中丸	對州	同	二、六五〇	四、四一		
同 中丸	同 中丸	河南	六貫	二、七〇〇	三、四二		
同 中丸	同 中丸	河南	六貫	二、三〇〇	三、八三		

する等にし既に著々其効果を收めつゝありとのことなるが當地に於ては未だ調節策を講ずるに至らず然れども各地の情勢に連れて暴騰停止する所なからんか亦大に前途注目に値す之に關し當地林務當局の語る處に據れば目下拂下木炭在庫僅かに二、三千俵に過ぎざるも尙相當の產出力を有し必要に應じ產出し得る由なれば或は内地の暴騰に加ふるに運賃暴騰の重荷を背負ひつつある青島の炭價を調節する上に於て相當の調節力あるべし然りと雖ども青島の如き石炭の供給潤澤なる土地にありては可成木炭の消費を節約し石炭、コークスの使用を獎勵せば其調節は期せずして得らるべし云々

◎最近營業出願種類

最近三箇月間青島民政署に出願營業許可を得たる者の營業種別並に人員數左表の如し

[illegible]

Handwriting practice sheet showing six rows of Chinese characters written on lined paper. The characters are arranged in columns, reading from right to left. The characters include:

一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六, 十七, 十八, 十九, 二十, 二十一, 二十二, 二十三, 二十四, 二十五, 二十六, 二十七, 二十八, 二十九, 三十, 三十一, 三十二, 三十三, 三十四, 三十五, 三十六, 三十七, 三十八, 三十九, 四十, 四十一, 四十二, 四十三, 四十四, 四十五, 四十六, 四十七, 四十八, 四十九, 五十, 五十一, 五十二, 五十三, 五十四, 五十五, 五十六, 五十七, 五十八, 五十九, 六十, 六十一, 六十二, 六十三, 六十四, 六十五, 六十六, 六十七, 六十八, 六十九, 七十, 七十一, 七十二, 七十三, 七十四, 七十五, 七十六, 七十七, 七十八, 七十九, 八十, 八十一, 八十二, 八十三, 八十四, 八十五, 八十六, 八十七, 八十八, 八十九, 九十, 九十一, 九十二, 九十三, 九十四, 九十五, 九十六, 九十七, 九十八, 九十九, 一百.

一 一 一 一 一 二 七 一 一 一 二 一 三 一 一 二 二

一 一 一 二 二 一 一 一 一 一 一 一 一 三 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 一 一 一 三 一 二 一 二 一

一 一 一 四 一 一 一 一 一 一 一 二 一 三 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 一 二 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 二 八 一 一 一 一 五 一 一 一 五 一 一 一 八 一 一 二 二 二 三 一

一 一 一 六 二 一 一 一 一 一 一 四 一 八 一 一 一 一 一 一

講談	履物行商	賣藥行商	麵類行商	靴修繕	苦力供給、運搬	計
一	一	一	一	一	一	五四
一	一	一	一	一	一	二六
一	一	一	一	一	一	四五
一	一	一	一	一	一	三八
一	一	一	一	一	一	三九
一	一	一	一	一	一	三二
一	一	一	一	一	一	一三八
一	一	一	一	一	一	九六

◎臺東鎮近況

●最近戸口 ●臺東鎮憲兵分隊管區内在住の日支人戸口十月一日の調査に據れば日本人戸數三百〇八、人口男五百〇七人、女四百九十六人、支那人戸數一千八百八十七、人口男五千三百八十四人、女二千〇九十九人、計戸數一千四百九十五、人口七千四百八十三人なり而して各村(四方を含む)に散在する日本人百八十一戸、男三百四十六人、女二百五十九人、支那人二千四百五十五戸、男七千六百二十九人、女六千五百五十九人計戸數二千六百三十六、人口一萬四千百十八人、合計四千三百三十一戸、男一萬三千八百六十六人、女九千四百三十三人總計二萬三千二百七十九人にして日本人の主なる職業別は農業の一五、菓子商一一、雜貨商一四、藥種商六、料理店二三、飲食店五、理髮店七、金融八、會社員七二、勞働者二三、官吏八三、軍人二六にして戰後秩序の未だ整はざる當時は所謂一攫千金を夢想する本邦人の渡來する者頗る多かりしが爲め一時家屋拂底を告げたるも其後想はしき職業とてなく爲に漸次自然淘汰を受け大連、朝鮮、滿洲内地各地に歸還するもの續出口俄に減退せり而して今や秩序全く恢復市勢日に隆盛附近(西南)一帶工業地域となり續々各工場の建築並に旭山下より大和町、花咲町の十字地點より鐵道線

下に至る市街豫定地の埋立工事道路の改修其他各工場に使役する支那人の勞働者實に數千人に上り皆臺東鎮へ移住し來り日々人口の増加を見つゝありて同市街には一戸の空家とてなく人口稠密を極め頗る殷賑なり殊に當方面工業界の勃興に伴れ山東奥地にありて農業に従事し能はざる支那人の男女鈴木絲廠、明石青島燐寸の兩工場に勞務するもの千餘人は等は多く幼青年なるも其の受ける収入は貧弱なる彼等の生計補助として充分なるものあり従て市中一般に及ぼす購買力も頗に増進したる觀あり日本人としては想はしき景況を呈するに至らざる狀態なるも現住者は夫々生業を繼續し將來の發展を期望しつゝあるものゝ如し市内の工業としては日本人の酒造二箇所、味噌醬油製造一箇所支那人の鑄物業二箇所あるのみ郊外に於ては西吳家村に四、小村庄に一、仲家窪に三箇所の煉瓦工場ありて建築界の旺盛に連れ各所共相當の生産を見最も安價に販賣しつゝあるが如し

●農業狀態 ●附近一帶は丘陵多くして平地少なく従つて農産物の收穫僅少なり主なる産物は小麥、蕃薯等にして居住民の自作自給を充たす丈の産額に達する能はず日本人及支那人の一部は野菜類の栽培に従事し居るも本年は害蟲の發生するあり一時收穫を懸念したるも之が驅除に努めたる結果大なる虫害を蒙るに至らざりしが昨今雨量少なきため發育充分ならず斯業者は一に降雨を待ち居る狀態なり青島に供給する野菜類は殆んど同方面よりを最多とす其他は見るべき産物としてなく一般住民は勞働者多く附近各工場其他の工事に使役せられ其の勞金を以て生計を營む者多し

◎工業近況 ●臺東鎮西南一圓は荒涼たる原野にして一見最も寂寥を感じ居たるも工業地帯となるや各工場の建築物盛んに行は

れ既に就業中の三井油房、東和油房、鈴木絲廠の製糸、山東化學工業、日本金屬、東洋製油(未著手)を離て大日本麥酒あり又北西に進みては明石、青島の兩燐寸製造工場、村井製油等の諸工場煙突を竝へ見榮ある建物整然として今や何人も工場地たるを知ると共に昨春來より著手中の臺東鎮街道の改修工事は第一期を終り續て第二期工事に移り既に(豐饒洋行前より臺東鎮街道筋迄の一部を残すのみにして)竣成も近きに至り(第三期工事として臺東鎮市街大馬路の改修工事に著手する豫定なりと)昨日の平野は今日の工業地と化し著しく美觀を呈し市街豫定たる大和町、花咲町一帶より沿道線下に沿ひ工場地に連結して寸尺の餘地なく土地貸下の許可濟となり大建築物竣工の曉には青島附近層一層の偉觀を呈するものあらん又本年度より著手せらる大港埋立地等の完成を見るに至らは工場地及附近一般に對する利便決して僅少にあらざるべし四方村は内外綿紡績工場及高橋牛吉氏經營の骨粉製造工場、湖島子に支那人經營の煉瓦工場一箇所在のみにして他は山鐵工場に従事する職員、會社員、日本人農業の三あるのみにして大なる變化なし

◎日本人職業 最近調査に係る日本人の職業別は大略左の如し

種別	戸數	男	女	計
日本人	三〇八戸	五〇七人	四九六人	一、〇〇二人
支那人	一、一八七	五、三八四	二、〇九九	七、四八三
英國人	二	二	五	七

各村落 (四方)

日本人	一八一戸	三四六人	二五九人	六〇五人
支那人	二、四五五	七、六二九	六、五五九	一四、一一八

職業別 (臺東鎮)

農業 一三戸 古物商 二戸 吳服商 一戸 小間物商 一戸

菓子商	一〇	貿易商	二	雜貨商	一一	藥種商	五
肉類品	二	仲買商	三	燐寸製造	二	ハンキ職	二
履物商	二	代書業	一	金融業	八	會社員	五八
質屋	三	請負業	四	物品販賣	二	労働者	一三
湯屋業	一	寫真業	一	醫師	一	牛乳販賣	三
遊戲業(休)	二	大工業	九	僧侶	一	洗濯業	二
酒造業	二	左官業	一	官吏	四七	豆腐商	一
醬油製造	一	木挽業	二	軍人	二六	料理店	二三
骨粉製造	一	煉瓦業	一	飲食店	五	煉瓦製造	一
燐寸職	五	(理髮店)	六	製絲	一	製鍊職	六
其他	一四						

四方村

農業	二	菓子商	一	雜貨商	三	藥種商	一
理髮業	一	骨粉製造	一	硝子製造	一	紡績	一
醫師	一	大工職	一	硝子職	八	會社員	一四
労働者	八	遊藝人	二	僧侶	一	官吏	三六
軍人	四	傭人	八〇	其他	一五		

◎發動機船と保險

臺灣基隆の發動機附漁船は目下八十隻に達する盛況に進みたるも所有者は多く中産漁業者にして漁業に従事する日尙は淺きを以て未だ確固たる基礎を作るに至らざる爲め資金の窮迫を告ぐることあるも事業の性質が稍々危険を伴ふを以て船體を抵當として融通を受ける能はず之れが附帶條件として船體を保險に附するは遭難又は不可抗力による損失を輕減し得るのみならず擔保物件として資格を具備し資金融通の便宜あるより常に其必要を認められ一部者間に船體保險を目的とする企畫の試みられたることあるも不成立に終りたるが今回東洋海上保險は種々調査

の結果此等發動機附漁船の保險契約の有望なるに著目し代理店なる基隆明比實平氏を介して此際三十隻以上の契約者あらば遭難の全損に終りたる場合に限り掛金年七分五厘を以て船價の七掛に當る金額迄契約せんと申込みしめたる由なるが船主側に於ては之に關し協議を遂げたる結果掛金高きに過ぐとして直ちに應ずるには至らざりしも之れには妥協點を見出すべき餘地あり明比氏は船主側の意見を纏め更らに本社に交渉中の由なるが十中八九までは成立の見込ありとて船主間には近來の福音なりとして傳へられつゝあるが聞く所によれば基隆を根據地とする發動機漁船の遭難は割合に僅少にして是迄の十年間に全損に終りたる分は四十五年稻荷丸本年清丸の二隻を出せるに過ぎずと尙臺灣に於ける發動機船總數は基隆打狗兩港にて百餘隻なるが若し之等全部發動機船に保險を附するものとせば會社の利益は素より發動機船を益々勃興し同島漁業の發展に資する所尠からざるべしと

◎米棉の耕作及市價

最近紐育發行米國新聞紙の記事を綜合するに時局柄米國政府は昨年以來食料品たるべき穀類の耕作を獎勵せるにも拘はらず本年の全國に於ける綿の植付段別は過去一兩年よりも増加して約三千五百八十八萬八千噐に達し之を昨年に比すれば約六歩の増加なり昨年到處天候宜しく棉の發育に適するを以て收穫良好なるべく米國全體にて千五百十三萬「ペール」を下らざる見込なり今米國主要耕棉地に於ける昨年及今年の棉の植付段別割合を擧ぐれば左の如し

州 名 一九一八年 前 年
ノース、カロライナ 一〇〇・四 一〇一・〇

サウス、カロライナ	九九・一	九三・九
ジョージア	一〇〇・〇	九七・〇
フロリダ	八八・三	七九・三
アラバマ	一一四・七	八四・五
ミシシッピ	一一三・六	一一五・〇
ルイジアナ	一〇〇・九	一〇二・〇
テキサス	一〇二・八	一〇四・四
アーカンソウ	九九・三	九八・一
テンネッシー	九九・〇	一一七・〇
ネブラスカ	一〇三・五	一〇八・五
オクラホマ	一〇九・六	九七・五
平均	一〇四・〇	

戦争開始當時即千九百十四年八月には生棉の相場下落したる爲千九百十五年に於ては南方諸州の棉花栽培業者は棉に代るに他の穀類を植付け其結果棉花の植付段別は千九百十四年の三千七百四十萬六千噐に對し千九百十五年は三千二百萬噐に下り收穫も亦千九百十四年の千七百萬「ペール」に對し千九百十五年は千百萬「ペール」に下れり千九百十五年に於ても相場常に引立たざりしたため千九百十五年の栽培も亦甚だ振はず是を以て生棉の供給に不足を來し千九百十六年十二月には紐育市價生棉一封度二十一仙五厘に上れり然るに之れが一時的反動として千九百十七年一月に至り一封度十二仙乃至九仙に下落したるため同年に於ても棉花栽培業者は棉よりも他の穀類を作る方利益多きを認め棉の耕作を爲すもの少なりしたため過去三年間引續き棉の生産比較的豊富ならず三年間合計産額三千六百六十一萬七千「ペール」に對し同期間の米國消費高は四千二百六十九萬六千「ペール」に達し昨年末に於ては生棉の在荷著るしく減少し其結果相場次第に騰貴し遂に今年棉花栽培業者の栽培を刺戟するに至り

たるものなり昨今棉相場は封度二十七仙五厘の高値を唱へ實に南北戦争以來の最高値とす抑々生棉は昨今勞銀其他生産費の高騰を以てするも一封度二十仙位の市價にて十分利益を擧げ得るのみならず戦争のため政府に於て棉製品を需要すること多きを以て目下政府當局は全國棉花取引所 (Cotton Exchange) に干涉を加へ適當なる市價を制定し以て紡績及製棉業者を保護せんとする意の向を有するものゝ如し

法 規

軍軍令第三十六號

鐵道倉庫業規則左ノ通定ム

大正七年九月三十日

青島守備軍司令官 本郷房太郎

鐵道倉庫業規則

第一章 總 則

第一條 鐵道部ノ倉庫業ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外商

法民法並其ノ附屬法令ニ據ル

第二條 倉庫業課目左ノ如シ

一 受寄物ノ保管

二 倉庫又ハ屋外保管場ノ賃貸

第三條 寄託關係ニ付法令、契約又ハ本令ニ依リ通知又ハ催告

ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所不明ナルトキハ當該驛所ニ揭示シ又ハ青島守備軍公報ニ公示シテ通知又ハ催告ニ代フ

第四條 寄託貨物ノ入出庫及積替等ノ作業ハ總テ當該驛所之ヲ

行フ

第五條 本令ニ依リ倉庫業ヲ營ム驛所ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 貨物ノ受寄

第六條 鐵道部ハ左ノ貨物ノ寄託ヲ受ケス

一 貴重品

二 火藥其他爆發又ハ發火シ易キ物及取扱危險ナル物

三 他ニ危害又ハ損害ヲ及ホスヘキ虞アル物

四 動物又ハ植物

五 變質又ハ消耗シ易キ物

六 料金及費用ノ保障ニ不充分ナリト認メタル物

七 前各號ノ外保管ニ適セスト認メタル物

前項ノ貨物ト雖其種類ニ依リ特ニ倉庫ニ保管スルコトアルヘシ

第七條 貨物ヲ寄託セントスル者ハ其ノ記號、番號、品名、品質、

包裝、箇數、重量又ハ容積、價額、保管期間、保管方法、保管證

ノ種類、住所及氏名又ハ商號ヲ所定ノ寄託申込書ニ記載シ寄

託セントスル驛所ニ提出スヘシ但シ必要アル場合ハ貨物仕入

書若ハ明細書ヲ添付セシムルコトアルヘシ

前項ノ申込ニ應シタルトキハ貨物提供ノ場所及日時ヲ指定ス

寄託者カ前項ノ指定ニ違反シタルトキハ受寄ノ承諾ヲ取消ス

コトアルヘシ

第八條 遠隔ノ地ニ在リテ貨物ヲ寄託セムトスル者ハ鐵道部ノ

請求ニ依リ倉庫所在地ニ居住スル者ヲ選ヒテ代理人トシ寄託

ニ關スル一切ノ權限ヲ委任スヘシ

第九條 鐵道部ハ貨物ノ檢査ヲ爲シ其ノ價額ニ著シキ影響ナキ

トキハ見本ヲ申受クルコトアルヘシ

包裝不完全ナル貨物、検査ノ困難ナル貨物若ハ検査ノ結果寄託申込書記載ノ事項ト相違シ又ハ保管ニ適セスト認メタル貨物ハ倉庫ニ運搬シタル後ト雖入庫ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第三章 貨物預書及倉荷證券

第十條 鐵道部ハ受寄物ニ對シ貨物預書(以下預書ト稱ス)ヲ交付シ又ハ寄託者ノ請求ニ依リ倉荷證券(以下證券ト稱ス)ヲ交付ス

前項ノ預書又ハ證券ハ當該驛所之ヲ發行ス

第十一條 鐵道部ハ特ニ申出ナキ限り寄託申込者ヲ寄託者且所有者ト看做シ申込者又ハ其ノ指定人ニ之ヲ交付ス

代理人ニ依リ寄託ノ申込ヲ爲シタルトキハ特ニ申出ナキ限り預書又ハ證券受領ノ權限ヲモ併セテ委任セラレタルモノト看做シ其ノ代理人ニ預書又ハ證券ヲ交付ス

第十二條 寄託申込書一通ニ付預書又ハ證券一通ヲ交付ス

預書ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入スルコトヲ得ス

寄託者ハ預書ヲ發行驛所ニ提出シテ名義ノ變更又ハ證券ト引換ノ請求ヲ爲スコトヲ得

證券ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ質入スルコトヲ得但シ證券ニ流通ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此ノ限リニ在ラス
證券所持人ハ前項但書ノモノヲ除クノ外發行驛所ニ證券ヲ提出シテ其ノ書換又ハ分割ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 預書又ハ證券ヲ喪失シタルトキハ直ニ當該驛所ニ届出ツヘシ

證券ヲ喪失シタル場合ニ於テハ鐵道部力相當ト認ムル擔保若ハ保證狀ヲ提供シ又ハ管轄裁判所ニ於テ除權判決確定後ニ非サレハ新證券ヲ交付セス

第四章 受寄物ノ保管

第十四條 受寄物ハ之ヲ倉庫屋內ニ保管ス但シ種類ニ依リ屋內保管ニ適セスト認メタルモノハ屋外保管ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條 屋外保管ニ差支ナシト認メタル貨物ハ寄託者ノ申込ニ依リ屋外保管ヲ爲スコトアルヘシ

第十六條 受寄物ノ保管期間ハ六箇月以內トシ更新スルコトヲ得

保管期間ヲ定メサルトキハ貨物ノ提供ヲ指定シタル日ヨリ六箇月ト看做ス

保管期間滿了ノ場合ニ於テ出庫又ハ更新ノ手續ヲ爲ササルトキハ寄託者又ハ證券所持人ニ對シ出庫ノ催告ヲ爲シ且期間滿了ノ翌日ヨリ二倍ノ倉敷料ヲ收受ク

前項ノ催告ヲ發送シタル後三箇月ヲ經過スルモ尙出庫又ハ更新ノ手續ヲ爲ササルトキハ相當ト認ムル方法ヲ以テ受寄物ヲ換價スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ鐵道部ハ遲滯ナク之ヲ寄託者又ハ證券所持人ニ通知ス

換價處分ヲ爲シタルトキハ寄託ニ因リ生シタル鐵道部ノ債權及換價ノ費用ヲ控除シ剩餘アルトキハ返還ノ請求アル迄之ヲ保管シ不足スルトキハ追徴ス

第十七條 鐵道部ハ受寄物ニ對シ防疫又ハ保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ保存ニ要シタル費用ハ寄託者又ハ證券所持人ノ負擔トス

第十八條 受寄物保管中左記各號ノ一ニ該當スルトキハ寄託者又ハ證券所持人ニ對シ寄託物出庫ノ催告ヲ爲ス此場合ニ於テ

遲滯ナク其ノ出庫ヲ爲ササルトキハ寄託者又ハ證券所持人ノ承諾ヲ待タスシテ適宜受寄物ヲ換價スルコトアルヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ催告ヲ省略スルコトヲ得

一 受寄物ノ腐敗變質其ノ他ノ事由ニ因リ自他ノ貨物又ハ倉庫ニ損害ヲ及ホスヘキ虞アリト認メタルトキ

二 受寄物ノ價額カ鐵道部ノ債權ノ保障タルニ不充分ナリト認メタルトキ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ第十六條第五項及第六項ノ規定ヲ準用ス

第十九條 當該驛所ニ於テハ寄託者又ハ證券所持人ノ請求ニ依リ受寄物ノ内容ヲ検査シ之ヲ證明スルコトアルヘシ

第二十條 寄託者又ハ證券所持人カ寄託物ノ點檢見本ノ摘出又ハ保存ニ必要ナル處分ヲ爲サントスルトキハ預書又ハ證券ヲ提出シテ當該驛所ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第二十一條第三項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鐵道部カ受寄物ノ價額ニ著シキ影響アリト認メタルトキハ證券ニ其ノ旨ヲ記載シ又ハ鐵道部カ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシムルコトアルヘシ

第五章 受寄物ノ引渡

第二十一條 寄託者又ハ證券所持人カ寄託物ノ全部又ハ一部ヲ受ケ取ラントスルトキハ預書又ハ證券ニ必要ノ事項ヲ記載シテ當該驛所ニ提出スヘシ

當該驛所ハ全部出庫ノ場合ニハ預書又ハ證券ト引換ニ一部ノ出庫ノ場合ニハ預書又ハ證券ニ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ其所持人ニ返還シ受寄物ノ引渡ヲ爲スヘシ

一部出庫ノ場合ニ於テ鐵道部ノ指定シタル證券所持人ニ限

リ其承認書ヲ以テ證券ノ呈示ニ代フルコトアルヘシ

第二十二條 前條ノ手續終了ノ日ヨリ三日以内ニ寄託物ノ引取ヲ了セサルトキハ手續終了ノ翌日ヨリ二倍ノ倉敷料ヲ申受クノ上ニ質權ヲ有ス

第六章 倉庫及屋外保管場ノ賃貸

第二十四條 鐵道部ハ賃貸料及必要ト認ムルトキハ敷金ヲ申受ケ倉庫又屋外保管場ヲ賃貸スルコトアルヘシ

賃貸期間ハ六箇月以内トシ更新ヲ承認スルコトアルヘシ

第二十五條 賃借人ハ賃貸倉庫又ハ屋外保管場ニ第六條第一項第二號乃至第四號及第七號ノ貨物ヲ藏置スルコトヲ得ス

第二十六條 賃借人ハ當該驛所ノ執務時間内ニ非サレハ倉庫ノ開閉又ハ屋外保管場ノ出入ヲ爲スコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事情アル場合ニ於テ特ニ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限りニ在ラス

第二十七條 賃貸倉庫又ハ屋外保管場ニ於ケル作業ハ當該驛所ノ承認ヲ受ケ賃借人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 賃借倉庫又ハ屋外保管場ニ藏置シタル貨物ノ爲鐵道部其他ニ對シ損害ヲ生スル虞アリト認メタル場合ニ於テ鐵道部ノ催告アリタルトキハ賃借人ハ其ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 賃貸倉庫又ハ屋外保管場ニ藏置シタル貨物ニ對シテハ鐵道部ハ一切其ノ責ニ任セス

第三十條 賃借人ハ賃貸倉庫又ハ屋外保管場ニ關シ左記各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ特ニ承認ヲ得タル場

合ハ此ノ限リニ在ラス

一 賃借權ノ讓渡

二 他人ノ使用ニ供スルコト

三 他ノ目的ニ使用スルコト

四 他人ノ貨物ヲ藏置スルコト

第三十一條 鐵道部ハ左ノ場合ニ於テハ何時ニテモ賃貸契約ヲ解除スルコトヲ得

一 官ノ必要アルトキ

二 賃借人カ第二十五條乃至第二十八條又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 料金ヲ滯納シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ既納ノ料金ハ之ヲ返還セス

第三十二條 鐵道部又ハ賃借人ハ一箇月前ニ豫告シテ賃貸契約ヲ解除スルコトヲ得

第三十三條 契約期間ノ滿了又ハ解約ノ場合ニ於テ賃借人カ直ニ賃貸倉庫又ハ屋外保管場ノ明渡ヲ爲ササルトキハ賃貸倉庫又ハ屋外保管場ニ藏置シタル貨物ハ之ヲ第十六條第三項ニ規定シタル出庫ノ催告ヲ爲シタル保管期間滿了後ノ貨物ト看做ス

第三十四條 賃借人カ第二十五條乃至第二十八條又ハ第三十條ノ規定ニ違反シタル爲鐵道部ニ及ホシタル損害ハ賃借人之ヲ賠償スヘシ

第七章 料金及費用

第三十五條 鐵道部ニ於テハ受寄物ノ倉敷料、入庫料及出庫料ハ出庫ノ割合ニ應シ出庫ノ際其ノ他ノ料金及費用ハ其ノ都度寄託者又ハ證券所持人ヨリ申受ク

倉敷料、入庫料、出庫料其他ノ料金ハ別ニ之ヲ定ム
敷金及賃貸料ハ隨時鐵道部之ヲ定ム
賃貸料ハ全期分又ハ其月分ヲ前納セシム

第三十六條 倉敷料ハ第七條第二項ニ依ル指定ノ日ヨリ第二十一條ノ手續終了ノ日迄賃貸料ハ契約締結ノ日ヨリ満期又ハ解除ノ月迄一箇月ヲ曆ニ依リ一日ヨリ十日迄十一日ヨリ二十日迄二十一日ヨリ末日迄ノ三期ニ分チ一期ヲ單位トシテ計算ス

第三十七條 入庫又ハ出庫ノ爲ニ特別ナル費用ヲ要シタルトキハ入庫料又ハ出庫料ノ外ニ其ノ實費ヲ申受ク
寄託者カ第七條第二項ニ依ル指定ノ場所及日時ニ貨物ヲ提供セス若クハ寄託ノ取消ヲ爲シ又ハ第七條第三項ニ依リ鐵道部ニ於テ受寄ノ承諾ヲ取消シタル場合ニハ準備ニ要シタル費用及指定ノ日ヨリ取消ノ日迄ノ倉敷料ニ相當スル料金ヲ申受クルコトアルヘシ

第三十八條 保管期間更新ノ時ハ其ノ際前期間ノ入庫料、倉敷料及其ノ他ノ費用ヲ申受ク但シ新證書作製手数料及新入庫料ハ此ノ限リニ在ラス

第三十九條 倉敷料及出庫料ハ貨物ノ滅失毀損其他鐵道部ニ於テ相當ト認ムル事由アリタルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第四十條 鐵道部ノ證明ヲ請求スル者ハ其ノ際證明手数料ヲ納付スヘシ

第八章 雜 則

第四十一條 鐵道部ニ對スル寄託物ノ引渡又ハ其ノ換價金支拂ノ請求權ハ保管期間滿了後又ハ換價處分ノ通知ヲ發シタル後一箇年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ規定ニ依リ引渡シ又ハ支拂ノ請求權消滅シタルトキハ受寄物又ハ其ノ換價金ハ之ヲ官ノ所得トス

第四十二條 鐵道部ハ左ノ損害ニ對シ賠償ノ責ニ任セス

一 天災、事變、火災、強盜、濕氣、浸水、鼠喰、蟲入、貨物ノ性質包裝又ハ記號番號ノ不完全、自然ノ減量、氣候ノ變遷、防疫官憲ノ處分其ノ他不可抗力ニ因リ生シタル損害

二 屋外保管ノ場合ニ於テ雨露霜雪其ノ他屋外保管ニ因リ生シタル一切ノ損害

三 保管上特別ノ注意ヲ要スル貨物ニ對シ特約ナキ場合ニ於テ特別ノ注意ヲ爲ササリシ爲ニ生シタル損害

四 第九條第二項ノ規定ニ依リ入庫ヲ謝絕シタル爲ニ生シタル損害

五 第二十一條ノ手續終了後直ニ取引ヲ爲ササリシ爲ニ生シタル損害

第六 第三十一條第一項ノ場合ニ於テ解約ノ爲ニ生シタル損害

第四十三條 受寄物ニ關スル損害賠償ハ損害ノ申立ヲ爲サスシテ貨物ノ取引ヲ爲シタルトキ又ハ損害ノ申立ヲ爲シタルモ其ノ賠償ヲ請求セス申立ノ日ヨリ一箇年ヲ經過シタルトキハ鐵道部ハ其ノ責ニ任セス但シ損害カ直ニ發見スルコト能ハサルモノニシテ且保管中ニ生シタルコトノ證明セラレタルトキハ引渡後二週間内ニ申出アリタル場合ニ限り賠償ノ請求ニ應スヘシ

第四十四條 受寄物ニ對スル損害賠償ノ金額ハ損害ノ發生シタル土地及時ニ於ケル同種類及同品質ノ貨物ノ普通價格ニ依リ鐵道部之ヲ定ム

第四十五條 第十三條第二項ノ規定ニ依リ證券所持人ヨリ提供

セシメタル擔保ハ管轄裁判所ニ於テ除權判決確定シ又ハ第四十一條第一項ノ規定ニ依リ證券所持人ノ權利カ消滅スル迄ハ之ヲ返還セス

第四十六條 受寄物ニ火災保險ヲ付シタル場合ハ其ノ旨直ニ當該驛所ニ届出ツヘシ

附 則

本令ハ大正七年十月五日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年三月軍軍令第九條青島埠頭倉庫營業假規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

軍告示第四百十九號

大正七年九月軍軍令第三十六號鐵道倉庫業規則第三十五條ニ依ル倉庫料金表左ノ通定ム

大正七年九月三十日

青島守備軍司令官 本郷房太郎

倉庫料金表

(甲) 計算規定

- 一 重量ニ依リ料金ヲ計算スル場合ニハ埠頭事務所ニテハ百斤驛ニテハ百斤ヲ以テ單位トス
- 二 容積及重量ハ包裝ノ儘之ヲ計算ス
- 三 容積ハ曲尺ヲ以テ其ノ長サ、厚サ、及幅ノ最長部分ヲ測リ寸位未滿ハ四捨五入シテ計算ス
- 四 一立方尺、百斤又ハ百斤未滿ノ端數ハ之ヲ一立方尺、百斤又ハ百斤ニ切上ク
- 五 料金ハ一品名毎ニ計算ス
- 六 一梱包中賃率ヲ異ニスル貨物ヲ混入シタルトキハ全部ニ

七 同一ノ貨物ヲ二種以上ノ品名ニ解釋シ得ルトキハ其ノ高

八 算出料金ニ錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ各料金毎ニ之

(乙) 料金率

第一、倉敷料、入庫料、出庫料、積換料

卵	煉瓦及瓦	素麵	曹達	麥稈眞田	農具及土工用	屑物類	車類	藥品及藥材	屋根葺用品	燐寸材料 (除藥品)	燐寸材料	繭	毛粧品	化粧品	皺紙	穀物類	穀粉	昆布及海藻類	コトクス
			洗濯用		絹絲屑、柞蠶絲屑羽屑	其ノ他	其ノ他	其ノ他		層繭			其ノ他			米麥、小麥、高粱、包米、大豆、落花生實	同皮付	其ノ他	
同	百斤	百斤	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三厘	五厘	八厘	三厘	二厘五毛	三厘	二厘	一厘	四厘	五厘	四厘	一厘二毛	一厘	一厘	一厘五毛	一厘五毛	四厘	六厘九毛	四厘	八厘三毛
二	一六	二	二	二	二	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六	六	六	一六
錢	錢	錢	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	錢	錢	錢	錢

[illegible]

第二 證書作製手數料

(一) 倉荷證券ノ書換引換分割又ハ再交付

每一通、銀二十錢

[illegible]

(二) 貨物預書ノ書換引換又ハ再交付

第三 證明手數料

每一通 銀十五錢

一件ニ付

銀 壹 圓

第四 其ノ他ノ料金及費用

前各號以外ノ作業ニ對シテハ實費ヲ申受ク

軍告示第五百十號

大正七年九月軍軍令第三十六號鐵道倉庫業規則第三條ニ依リ倉庫業ヲ營ムモノハ當分ノ内左ノ驛所トス

大正七年九月三十日

青島守備軍司令官 本郷房太郎

埠頭事務所
濟南驛

◎倫敦銀塊相場

(九月中)

一	日	日曜	十一日	同
二	日	四十九片二分一	十二日	同
三	日	同	十三日	同
四	日	同	十四日	同
五	日	同	十五日	日曜
六	日	同	十六日	四十九片二分一
七	日	同	十七日	同
八	日	日曜	十八日	同
九	日	四十九片二分一	十九日	同
十	日	同	二十日	同
			三十一日	四十九片二分一

◎寄贈書類

(大正七年九月)
到著の分)

○時 報 七 號 神戶商業會議所

○週	○月	○時	○同	○會	○月	○事	○東	○月	○月	○時	○滿	○山	○月	○滿	○朝	○月	○所	○經	○時	○週	○山	○氣	○商	○時	○商	○貿	○通	○物	○所	○貿	○商	
報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	
自九	七	自八	一	九	第	二	九	一	二	自四	自三	自八	自八	一	三	八	五	九	九	自三	三	三	一	四	九	七	一	一	一	一	九	
九	四	八	六	一	二	六	三	三	七	〇	八	七	七	二	二	二	二	月	月	七	〇	四	二	八	八	八	八	八	八	八	八	
至一	自八	至八	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號		
〇五	〇四	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一		
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	
天津商業會議所	下ノ關商業會議所	東京保險銀行時報社	東京鐵工時報社	釧路實業協會	仁川商業會議所	橫濱商業會議所	同	東方時報社	名古屋商業會議所	熊本商業會議所	上海經濟時報社	大連商業會議所	守備軍民政部	福井商業會議所	關東都督府民政部	京城商業會議所	埠頭事務所	東京商業會議所	東京經濟調查局	遼東新報社	上海日本人實業協會	山東公論社	青島測候所	岡山商業會議所	山東經濟時報社	農商務省商品陳列館	守備軍司令部	大阪府立商品陳列館	守備軍民政部	函館商業會議所	大阪商業會議所	青島卸商組合

統計

◎青島輸出入貿易 (八月中)

—海關貿易統計—

◎輸入外國品仕出地別

[illegible]

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	上 海	大 連	其ノ他	合 計
手 巾	打	1.290	—	—	—	—	2.004	—	—	3.294
タ オ ル	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本産)	"	930	—	—	—	—	120	—	—	1.050
綿織絲 (印 度)	担	—	—	—	—	—	150	—	—	150
同 (日 本)	"	3.102	—	—	—	—	253	—	—	3.355
綿 縫 絲(絲卷)	哥	653	—	—	—	—	—	—	—	653
(毛綿交織類)										
ユニオン及ボンチ ヨークローズ	碼	—	—	—	—	—	215	—	—	215
(毛 製 品 類)										
綾 吳 呂	疋	—	—	—	—	—	20	—	—	20
羅 世 伊 多	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伯林ウール及毛絲	担	3	—	—	—	—	5	—	—	8
(雜質織物類)										
絹 製 品 交 織	斤	1.980	—	—	—	—	—	41	—	2.021
(金 屬 品)										
片	担	1	—	—	—	—	—	—	—	1
線	"	13	—	—	—	—	10	—	—	23
銅 板	"	18	—	—	—	—	—	3	—	21
(鐵 及 軟 鐵 新)										
條	担	4	—	—	—	—	63	—	—	67
屑 鐵 及 屑 鐵 線	"	—	—	—	—	—	31	—	—	31
捲	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
椽	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
釘 用 竿 鐵	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ネール(ワイヤー)	"	—	—	—	—	—	64	19	—	83
片 及 板	"	13	—	—	—	—	5	—	—	18
線	"	—	—	—	—	—	27	—	—	27
鐵 及 軟 鐵(古)	"	2.350	—	—	—	—	446	—	—	2.796
鍍 金 鐵 片	"	11	—	—	—	—	19	2	—	32
鉛 塊	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鋼 鐵	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
葉 鐵	"	138	—	—	—	—	3.216	—	—	3.353
白 銅 片 及 線	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(雜 貨)										
麻 袋	"	40.000	—	—	—	—	—	—	—	40.000
麥 酒	"	724	—	—	—	—	—	—	—	724
綿 帶	"	1.911	—	—	—	—	600	20	—	2.531
タ 一	"	9	—	—	—	—	11	—	—	20

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	上海	大連	其ノ他	合計
銅鈕釦花鈕釦	哥担	1,836	—	—	—	—	—	—	—	1,886
蠟燭	担	2	—	—	—	—	420	2	—	424
セメント	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本品)	//	582	—	—	—	—	—	—	—	582
磁石瓦器	海關兩	2,257	—	—	—	—	91	—	—	2,348
紙卷煙草	千本	—	—	—	—	—	12,016	—	—	12,016
同 (日本品)	//	2,500	—	—	—	—	—	4	—	2,504
掛置時計	個	515	—	—	—	—	30	—	—	545
石炭	噸	901	—	—	—	—	—	—	—	901
染料顏料塗料										
アニリン	海關兩	—	—	—	—	—	2,312	—	—	2,312
人造藍	担	—	—	—	—	—	74	—	—	74
天然藍液狀	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
白鉛粉	//	2	—	—	90	—	5	—	30	127
ロングード	//	—	—	—	—	—	1	—	—	1
越幾斯料	海關兩	1,264	—	—	—	—	107	202	459	2,032
電氣材料	打	304	—	—	—	—	—	—	—	304
祛鄰洗面器	担	1	—	—	—	—	2	—	—	3
麥粉	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
窓硝子	箱	491	—	—	—	—	—	78	—	569
洋燈及洋燈器	海關兩	1,309	—	—	—	—	362	—	—	1,671
燐寸 (黃燐)	哥	135,022	—	—	—	—	—	—	—	135,022
同 (安全)	//	275	—	—	—	—	—	925	—	1,200
疊及莫座	枚	8,778	—	—	1,500	—	—	—	—	10,278
コンデンスミルク	打	16	—	80	—	—	304	580	—	980
針	千本	23,445	—	—	—	—	250	—	—	23,695
石油 (米品箱入)	ガロン	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (裸)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (露國箱入)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (裸)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
スマトラ (裸)	//	—	—	—	—	—	212,081	—	—	212,081
同 (箱入)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 (日本箱入)	//	173,320	—	—	—	—	—	—	—	173,320
同 (裸)	//	—	—	—	—	—	—	—	—	—
紙	担	343	—	—	134	—	800	78	—	1,355
胡椒	//	—	—	—	24	—	135	—	—	159
米	//	4,071	—	—	25	—	—	—	—	4,096
昆布	//	367	—	—	—	—	—	—	—	367
日本酒	//	329	—	—	—	—	—	35	—	364

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	上海	大連	其ノ他	合計
石鹼條	〃	1,345	—	—	—	—	28	44	—	1,417
同化粧用	海關兩	1,266	—	—	—	—	11	3	—	1,280
曹達担	担	399	—	—	—	—	341	20	—	760
醬油	〃	139	—	—	—	—	—	6	—	145
砂糖 (赤)	〃	—	—	—	35,716	—	—	—	—	35,716
同 (白)	〃	3,911	—	—	10,851	—	173	—	—	14,935
同精製	〃	2,568	—	—	26,654	—	606	—	—	29,828
同冰	〃	930	—	—	4,585	—	—	90	—	5,605
木材 (堅)	立方呎	14,152	—	—	—	—	—	—	—	14,152
同 (軟)	〃	311,143	—	—	—	—	—	59,398	—	370,541

◎輸出支那品仕向地別 (同上)

品目	單位	日本	英國	米國	香港	其ノ他	大連	上海	其ノ他	合計
生豆	牛頭担	—	—	—	—	—	91	—	—	91
黃柏	担	—	—	—	—	—	—	—	44	44
黃豆	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛肉	クオタ	23	—	—	—	5,000	10	12	—	5,050
獸骨	担	32	—	—	—	—	—	—	—	32
銅塊	〃	4,295	—	—	—	—	1,192	—	—	5,487
豚毛	〃	—	—	—	—	—	—	720	—	720
氈	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—
毼	個	5	—	—	—	—	—	12,580	—	12,585
山炭	噸	2,279	—	—	—	—	18	—	105	2,402
棉	担	—	—	—	—	—	—	63	136	199
錫	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
黑蛋	棗	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蛋乾	〃	1	—	—	—	—	—	240	—	241
蛋乾	〃	32	—	—	—	—	—	223	—	255
雞	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
麻	卵	24,800	—	—	—	—	—	—	—	24,800
鹽	個担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
果	魚	—	—	—	—	—	—	—	—	—
硝	鮮品	—	—	—	—	—	—	4,824	69	4,893
落	〃	—	—	—	—	—	—	113	178	291
同	花	—	—	—	—	—	—	—	—	—
頭	生	4	—	—	—	—	—	10,283	3,599	13,886
麥	仁	7	—	—	—	—	—	—	—	7
藥	髮子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藥	帽	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藥	個担	—	—	—	—	—	176	55	—	231

品 目	單位	日 本	英 國	米 國	香 港	其ノ他	大 連	上 海	其ノ他	合 計
豆 油	〃	5,040	—	—	—	—	4,480	—	—	9,520
落花生油	〃	3,122	—	—	—	—	—	117	1,528	4,767
梨 鹽	〃	—	—	—	—	—	—	782	—	782
鹽 豚	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹽 担	担	224.891	—	—	—	—	—	—	—	224.891
杏 仁	〃	32	—	—	—	—	—	76	—	103
生絲白座操	担	—	—	—	—	—	—	40	—	40
同白再操	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同白機機	〃	—	—	—	—	—	—	4	—	4
同黃座操	〃	17	—	—	—	—	—	299	—	316
同黃再操	〃	—	—	—	—	—	—	11	—	11
同黃機械	〃	3	—	—	—	—	—	110	—	113
同屑絲繭	〃	63	—	—	—	—	—	3,193	—	3,256
同屑繭製品	〃	3	—	—	—	—	—	—	—	3
山東絹紬	〃	16	—	—	—	—	—	80	—	96
犬牛皮	枚	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生牛皮	担	972	—	—	—	—	36	—	—	1,008
生羊皮	枚	210	—	—	—	—	—	—	—	210
麥稈眞田色染モノ	担	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同班色モノ	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同白色モノ	〃	848	—	—	—	—	—	—	23	871
同牛油	〃	359	—	—	—	—	237	—	—	596
蔬 菜	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豆 麵	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
胡 桃	〃	—	—	—	—	—	—	31	—	31
羊 毛	〃	337	—	—	—	—	—	37	—	374
瓜 子	〃	—	—	—	—	—	—	622	—	622
胡 麻	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—

◎輸入支那品仕出地別 (同上)

品 目	單位	上 海	芝 罘	大 連	其ノ他	合 計
(綿製品類)						
シーチング(上海)	疋	5,180	—	—	—	5,180
雲 齋 (同)	〃	300	—	—	—	300
土 布	擔	34	—	—	—	34
花 色 土 布	疋	160	—	—	—	160
綿 製 絲	擔	7,720	—	—	—	7,720

品	目	單位	上	海	芝	罌	大	連	其	ノ	他	合	計
(雜	貨)												
砒	石	担	543		12		24					579	
竹	簾	個	—		—		—					—	
竹	簾	担	—		—		—					—	
筍		"	10		—		—					10	
書	籍	"	49		—		—					49	
蠟	燭	"	—		—		—					—	
米		"	5.234		—		4					5.238	
磁	器	"	—		—		—					—	
紙	卷煙草	"	1.437		5		147		2			1.591	
石	炭(撫順開平)	噸	—		—		1.050		—			1.050	
紙	扇	個	—		—		—		—			—	
小麥	粉機械製	担	5.423		—		—		—			5.423	
夏布	粗製	"	3		—		—		—			3	
同	精製	"	—		—		—		—			—	
藥		"	4		—		—		—			4	
桐	油	"	788		—		—		—			788	
紙	一	"	248		—		—		—			248	
同	二	"	4.618		3		—		—			4.621	
同	錫	"	273		—		—		—			273	
同	其ノ	"	136		80		—		—			216	
糖	菓	"	272		—		—		—			272	
三	蒸	"	77		—		1		—			78	
靴	綿及絹	雙担	921		—		—		—			921	
生	絲	担	1		—		—		—			1	
同		"	36		—		—		—			36	
同	製品	斤	149		—		—		—			149	
石	鹼條	担	9		—		37		—			46	
麥	稈	"	—		1		—		—			1	
砂	糖	"	—		—		—		—			—	
同	(赤)	"	—		—		—		—			—	
	(白)	"	—		—		—		—			—	
茶		"	2.832		56		—		—			2.888	
煙	草	"	12		—		—		—			12	
木	製	"	25		—		—		—			25	

◎青島三驛發著貨物主要品 (八月中)

(單位噸以下一位獸類頭數)

品 目	發 著	青 島		大 港 驛		埠 頭 荷 扱 所		計
		一 車 扱	小 口 扱	一 車 扱	小 口 扱	一 車 扱	小 口 扱	
石 炭	發 著	285.0	0.2	—	0.2	5,760.0	—	6,045.4
コ ー ク ス	" "	129.8	0.1	—	—	3,235.0	—	3,364.9
石 灰	" "	464.0	—	—	—	195.0	—	659.0
煉 瓦(瓦 ナ 含 ム)	" "	—	—	55.9	—	—	—	55.9
セ メ ン ト	" "	15.0	2.0	—	—	—	—	17.0
硝 子 板	" "	2.8	0.2	3.8	—	—	—	3.8
	" "	—	—	—	—	—	—	3.0
硝 子 製 品	" "	5.3	0.2	—	—	—	—	5.5
	" "	11.6	0.4	—	—	—	—	12.0
桐	" "	30.3	0.1	529.6	—	—	—	560.0
木 材(板 ナ 含 ム)	" "	395.7	9.1	9.4	—	35.4	—	449.6
	" "	—	—	132.8	0.2	—	—	133.0
竹 及 割 竹	" "	13.0	—	—	—	10.0	—	23.0
	" "	—	0.1	—	—	—	—	0.1
石 材 及 同 製 品	" "	—	0.3	—	—	—	—	0.3
鐵 板 及 鐵 製 品	" "	9.1	18.8	—	—	36.9	0.1	64.9
	" "	3.0	5.0	—	—	224.6	—	232.6
鐵 鍋	" "	30.0	—	1.4	—	58.6	—	90.0
古 鐵	" "	133.4	—	—	—	—	—	133.4
	" "	167.5	1.3	197.7	—	90.7	—	457.2
大 豆	" "	155.7	—	53.2	—	299.7	—	508.6
	" "	—	0.2	—	—	—	—	0.2
豆 類(大豆ヲ除ク)	" "	29.3	0.3	—	—	—	—	29.6
	" "	3.2	1.7	—	—	—	—	4.9
高 粱	" "	40.2	0.5	92.5	—	209.9	—	343.1
小 麥	" "	—	0.2	14.1	—	—	—	14.3
	" "	1,538.5	—	709.2	—	134.8	—	2,382.5
米	" "	30.9	18.3	8.9	—	—	—	58.1
	" "	558.2	0.5	193.2	—	—	—	751.9
穀 類(表中記載ノモノヲ除ク)	" "	15.0	—	—	—	15.0	—	30.0
	" "	7.8	1.1	—	—	—	—	8.9
落 花 生	" "	14.1	—	2.9	—	—	—	17.6
	" "	—	—	—	—	—	—	—

品目	單位	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
麥粉	發著	1.5 11.8	0.2 —	5.6 —	— 0.3	14.9 —	— —	22.2 12.1
陶磁器及土器	"	— 124.4	— —	— 3.0	— —	— —	— —	— 127.4
支那紙	"	74.5 9.4	0.4 0.8	4.0 —	— —	2.9 —	— —	81.8 10.2
紙(支那紙ヲ除ク)	"	— —	— —	— —	— —	26.4 —	— —	26.4 —
麻	"	0.8 —	— —	33.3 —	— —	— —	— —	34.1 —
綿	"	— 14.8	— —	0.4 74.1	— —	— 137.6	— —	0.4 226.5
綿布	"	298.1 0.4	2.7 4.3	— —	— —	45.0 —	— 0.1	345.8 4.8
綿絲	"	702.4 —	13.7 0.2	22.4 43.2	— —	— —	— —	738.5 43.4
綿製品	"	— 0.1	1.5 1.7	— —	— —	— —	— —	1.5 1.8
絹絲(屑ヲ含ム)	"	— 20.1	— 2.0	— —	— 0.9	— 12.3	— —	— 35.3
絹布類	"	— 6.2	— 1.8	— —	— —	— —	— —	— 8.0
繭(屑繭ヲ含ム)	"	— 65.1	— 0.4	— 0.8	— —	— 141.7	— —	— 208.0
棗	"	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
胡桃	"	— —	— 0.2	— —	— —	— —	— —	— 0.2
蜜柑	"	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
及西瓜	"	— 119.0	— 0.4	— 0.9	— 0.1	— —	— —	— 120.4
瓜子	"	— —	— —	— 18.6	— —	— —	— —	— 18.6
果實(表中記載ノモノヲ除ク)	"	— —	— 0.9	— —	— —	— —	— —	— 0.9
石油	"	— 119.0	— —	655.0 —	— —	359.6 —	— —	1,014.6 119.0
落花生油	"	— 6.0	— —	— 99.4	— —	— —	— —	— 105.4
豆油	"	— 77.9	— 0.7	— 462.9	— —	— —	— —	— 541.5
牛油	"	— 0.1	— 1.1	— 4.8	— —	— —	— —	— 6.0
油類(表中記載ノモノヲ除ク)	"	17.1 —	0.3 0.9	— 50.3	— —	0.4 —	1.0 —	18.8 51.2

品目	單位	青 島 驛		大 港 驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
油 粕	發著	143.6	—	119.3	—	923.5	—	1,186.4
肥 料 各 種	"	35.8	—	—	—	—	—	35.8
	"	7.0	—	—	—	—	—	7.0
麥 稈 眞 田	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	12.7	7.0	—	—	—	—	19.7
安 平	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	17.9	—	—	—	—	—	17.9
藁 及 粟 稈	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	5.0	—	5.0	—	—	—	10.0
鹽	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
砂 糖	"	1,034.8	4.4	57.5	—	1,424.8	—	2,521.5
	"	—	—	—	—	—	—	—
日 本 酒	"	1.1	6.2	—	—	—	—	7.3
	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
ビ ー ル	"	4.4	8.5	3.3	—	—	—	16.2
	"	—	—	—	—	—	—	—
支 那 酒	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	2.8	2.4	0.7	—	—	—	5.9
食料品(表中記載ノモノヲ除ク)	"	0.3	23.3	1.6	—	—	—	25.2
	"	22.7	2.5	—	0.1	—	—	25.3
乾 物	"	—	0.7	—	—	—	—	0.7
	"	—	—	—	—	—	—	—
野 菜	"	4.0	0.6	—	—	—	—	4.6
	"	2.5	0.4	—	—	—	—	2.9
鷄 卵	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	0.5	1.9	2.0	—	—	—	4.4
藍	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	—	—	—	—	—	—
染 塗 料	"	—	0.4	—	—	—	—	0.4
	"	59.0	0.2	—	—	—	—	59.2
藥 品 及 藥 材	"	13.2	8.8	0.9	—	—	—	22.9
	"	6.9	0.5	—	—	—	—	7.4
曹 達	"	11.1	—	—	—	—	—	11.1
	"	2.2	—	31.5	0.6	—	—	34.3
石 鹼	"	25.3	0.9	—	—	—	—	26.2
	"	—	—	—	—	—	—	—
煙 草	"	70.0	24.6	5.2	—	60.0	—	159.8
	"	4.2	0.5	—	—	—	—	4.7
葉 煙 草	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	—	0.2	4.7	—	—	—	4.9
茶	"	100.5	1.9	—	—	11.5	—	113.9
	"	—	0.2	—	—	—	—	0.2
豚 毛	"	—	—	—	—	—	—	—
	"	45.6	0.9	—	—	—	—	46.5

品目	單位	青島驛		大港驛		埠頭荷扱所		計
		一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	一車扱	小口扱	
羊	毛	發	—	—	—	—	—	—
獸	骨	著	—	0.1	14.2	0.5	2.4	17.2
牛	皮	"	—	—	14.7	—	—	14.7
		"	7.3	—	47.0	—	1.9	56.2
		"	—	—	—	—	—	—
		"	22.9	1.2	4.0	—	14.9	43.0
豚	皮	"	—	—	—	—	—	—
魚	類	"	8.2	0.1	—	—	—	8.3
		"	269.3	9.0	2.5	—	—	280.8
昆布其ノ他海草		"	—	—	—	—	—	—
		"	2.6	—	—	—	—	2.6
筵		"	—	—	—	—	—	—
		"	3.2	—	—	14.4	—	17.6
雜貨	(表中記載ノモノヲ除ク)	"	762.8	4.9	17.6	—	13.4	798.7
		"	28.6	0.1	—	—	—	28.7
燐	寸	"	200.4	1.8	50.8	—	45.0	298.0
		"	—	—	—	—	—	—
燐寸材料		"	6.4	—	—	111.5	—	117.9
		"	—	—	—	—	—	—
火藥	類	"	—	—	—	—	0.2	0.2
		"	—	0.2	—	—	—	0.2
銅	貨	"	—	—	—	—	—	—
		"	5.0	4.3	—	0.1	—	9.4
青銅	錢	"	—	—	—	—	—	—
		"	—	0.9	84.9	14.1	—	99.9
銅		"	—	—	—	—	—	—
		"	2.5	0.8	40.7	—	148.6	192.6
家	具	"	4.8	1.6	—	—	—	6.4
		"	2.5	1.8	2.5	—	7.2	14.0
麻袋及布袋		"	48.0	27.8	18.2	—	—	94.0
		"	1.1	11.0	0.9	0.1	—	13.1
容器		"	3.7	—	—	—	—	3.7
		"	53.2	3.5	—	—	—	56.7
清涼水		"	0.9	2.1	—	—	—	3.0
		"	—	—	—	—	—	—
其ノ他		"	36.4	27.9	—	1.4	2.2	67.9
		"	47.2	4.1	144.8	3.9	29.9	229.9
牛		"	—	—	—	—	—	—
		"	581	—	—	—	—	581
合	計	"	4,732.9	223.6	1,237.9	3,661.6	3.5	9,859.5
		"	4,174.3	71.6	2,994.0	10,195.2	0.1	17,456.3

◎埠頭陸揚貨物噸數仕出地別 (八月中)

品目	單位	日本內地	朝鮮	臺灣	支那	其ノ他外國	計	
白豆	米類	噸	—	303.4	—	298.0	1.4	602.8
高粱	類	噸	2.1	3.5	—	326.2	—	331.8
蜀黍	梁	噸	—	—	—	266.9	—	266.9
小麥	黍	噸	—	—	—	26.1	—	26.1
	麥	噸	—	—	—	0.2	—	0.2
其ノ他穀類及種子		噸	6.3	—	—	—	—	6.3
麥粉	粉	噸	—	—	—	283.2	—	283.2
蔬菜	菜	噸	11.0	—	—	4.0	—	15.0
果實		噸	2.2	—	—	33.4	4.9	40.5
茶		噸	5.2	—	—	530.4	—	535.6
白砂	糖	噸	329.2	—	—	48.8	2,290.4	2,668.4
赤砂	糖	噸	—	—	—	—	2169.3	2,169.3
冰糖	糖	噸	74.2	—	—	6.5	256.8	337.5
昆布及海藻		噸	15.0	—	—	—	—	15.0
鮮魚介		噸	—	—	—	—	—	—
其ノ他海產物		噸	15.9	3.4	—	7.5	2.3	29.1
日本酒		噸	90.3	4.2	—	1.5	—	96.0
洋酒		噸	18.3	—	—	8.7	—	27.0
支那酒		噸	—	—	—	13.6	—	13.6
麥酒		噸	20.1	—	—	4.3	—	24.4
清涼飲料		噸	11.7	—	—	91.6	—	103.3
味噌		噸	6.3	16.0	—	13.4	—	35.7
醬油		噸	14.3	10.3	—	3.7	—	28.3
其ノ他食料品		噸	88.6	—	—	180.2	—	268.8
煙草		噸	430.3	32.2	—	645.7	—	1,108.2
皮革類		噸	2.5	—	—	0.3	—	2.8
石油		噸	787.1	—	—	660.0	—	1,447.1
桐油		噸	—	—	—	77.1	—	77.1
其ノ他油類		噸	35.4	—	—	48.9	—	84.3
蠟燭		噸	0.2	—	—	190.7	—	190.9
石鹼		噸	140.8	—	—	9.8	—	150.6
藥品		噸	84.2	0.1	—	111.4	41.8	237.5
磷寸		噸	586.5	—	—	4.9	—	591.4
染料及塗料		噸	40.7	—	—	46.0	7.4	94.1

品目	單位	日本內地	朝鮮	臺灣	支那	其ノ他外國	計
セメント	噸	103.1	—	—	774.3	—	877.4
綿絲	"	392.4	—	—	1,052.0	—	1,444.4
絹絲	"	—	—	—	6.6	—	6.6
麻	"	2.8	—	—	11.0	—	13.8
棉花	"	—	—	—	—	—	—
棉布	"	395.0	—	—	625.6	—	1,020.6
麻袋	"	3.7	—	—	0.3	—	4.0
絹布	"	11.9	—	—	35.6	—	47.5
洋雜貨	"	296.2	19.7	—	34.3	21.0	371.2
日本紙	"	30.1	0.1	—	1.2	—	31.4
洋紙	"	48.5	—	—	—	3.0	51.5
支那紙	"	—	—	—	1,078.2	16.6	1,094.8
石炭	"	—	—	—	2,800.0	—	2,800.0
煉瓦	"	21.0	—	—	—	—	21.0
陶磁器	"	44.7	—	—	3.8	—	48.5
硝子及同製品	"	135.4	128.6	71.5	205.2	—	540.7
鐵(古鐵ヲ含ム)	"	221.3	—	—	44.2	—	265.5
其ノ他金屬	"	24.4	—	—	260.4	—	284.8
金屬製品	"	140.5	—	—	136.0	—	276.5
機械	"	77.9	1.7	—	12.6	—	92.2
電氣用品	"	24.9	—	—	0.7	—	25.6
車輛	"	5.3	—	—	51.0	—	56.3
竹材	"	4.9	—	—	72.7	—	77.6
木材	"	522.8	—	—	866.2	—	1,389.0
燐寸材料	"	1,018.2	—	—	—	—	1,018.2
木炭	"	70.5	—	—	—	—	70.5
蔬菜	"	64.4	85.8	—	0.7	3.6	154.5
家具	"	39.4	6.1	—	91.7	—	137.2
豆粕	"	—	—	—	2,030.0	—	2,030.0
阿片	"	—	—	1.1	—	—	1.1
貴重品	"	—	—	—	—	—	—
其ノ他	"	429.9	352.3	—	663.1	2.8	1,448.1
合計	"	6,947.6	967.4	72.6	14,800.4	4,821.3	27,609.3

◎埠頭船積貨物噸數仕向地別 (同 上)

品 目	單位	日本內地	朝 鮮	臺 灣	支 那	其ノ他外國	計
生 牛	噸	—	—	—	43.0	—	43.0
其ノ他動物	〃	—	—	—	0.5	—	0.5
落 花 生	〃	0.2	—	—	836.8	—	837.0
豆 類	〃	—	—	—	—	—	—
其ノ他穀類及種子	〃	44.6	—	—	—	—	44.6
麥 粉	〃	—	—	—	258.5	—	258.5
蔬 菜	〃	—	—	—	37.3	—	37.3
果 實	〃	—	—	—	1,069.1	—	1,069.1
核 子	〃	1.9	—	—	6.6	—	8.5
白 砂 糖	〃	—	—	—	1.7	—	1.7
赤 砂 糖	〃	—	—	—	—	—	—
冰 砂 糖	〃	—	—	—	—	—	—
鮮 魚 介	〃	—	—	—	—	—	—
其ノ他海產物	〃	—	—	—	43.5	—	43.5
牛 肉	〃	17.7	—	—	1.5	253.0	272.2
鹽 豚	〃	—	—	—	—	—	—
其ノ他獸肉	〃	—	—	—	—	—	—
豆 素 麵	〃	—	—	—	3.0	—	3.0
鷄 卵	〃	5.9	—	—	—	—	5.9
卵 製 品	〃	4.2	—	—	50.6	—	54.8
麥 酒	〃	0.2	125.0	—	656.2	—	781.4
其ノ他酒類	〃	—	—	—	—	—	—
鹽	〃	9,850.0	1,150.0	—	—	—	12,480.0
其ノ他食料品	〃	0.2	—	—	2.9	—	3.1
煙 草	〃	—	—	—	3.4	—	3.4
葉 煙 草	〃	—	—	—	1,355.9	—	1,355.9
獸 骨	〃	26.1	—	—	—	—	26.1
骨 粉	〃	—	—	—	—	—	—
牛 皮	〃	50.6	—	—	2.2	—	52.8
其ノ他獸皮	〃	0.3	—	—	—	—	0.3
羊 毛	〃	79.9	—	—	12.3	—	92.2
豚 毛	〃	—	—	—	73.6	—	73.6
落 花 生 油	〃	195.0	—	—	258.0	—	453.0
豆 油	〃	425.0	—	—	382.5	—	807.5

品目	單位	日本內地	朝鮮	臺灣	支那	其ノ他外國	計
牛油	噸	35.6	—	—	5.6	—	41.2
豚油	〃	—	—	—	—	—	—
蓖麻子油	〃	36.4	—	—	0.5	—	36.9
其ノ他油類	〃	8.8	—	—	7.5	—	16.3
藥品	〃	9.7	—	—	69.1	—	78.8
染料及塗料	〃	0.2	—	—	0.4	—	0.6
綿絲	〃	—	—	—	170.4	—	170.4
絹絲	〃	4.6	—	—	130.7	—	135.3
絹屑	〃	—	—	—	753.2	—	753.2
麻	〃	105.5	—	—	—	—	105.5
棉花	〃	1,159.0	20.0	—	81.2	—	1,260.2
繭(屑ヲ含ム)	〃	18.7	—	—	232.9	—	251.6
綿布	〃	0.1	—	—	285.4	—	285.5
絹布	〃	—	2.7	—	13.8	—	16.5
麻袋	〃	—	—	—	—	—	—
紙類	〃	—	—	—	52.7	—	52.7
淄川炭	〃	80.0	—	—	2,980.0	—	3,060.0
博山炭	〃	5.3	—	—	5,945.0	—	5,950.3
撫順炭	〃	170.0	—	—	79.0	—	249.0
日本炭	〃	—	—	—	100.0	—	100.0
コークス	〃	2,733.3	—	—	4.9	—	2,738.2
陶磁器	〃	—	—	—	5.6	—	5.6
硝子及同製品	〃	3.8	—	—	34.7	—	38.5
鐵(古鐵ヲ含ム)	〃	1,037.6	—	—	9.9	—	1,047.5
眞鍮塊	〃	270.7	—	—	83.5	—	354.2
其ノ他金屬	〃	70.1	—	—	6.9	—	77.0
金屬製品	〃	4.8	—	—	8.1	—	12.9
機械	〃	—	—	—	1.6	—	1.6
車輛	〃	—	—	—	23.2	—	23.2
桐材	〃	632.5	—	—	—	—	632.5
其ノ他木材	〃	—	—	—	156.8	—	156.8
麥稈	〃	237.8	—	—	9.3	—	247.1
家具	〃	119.5	—	—	4.7	—	124.3
豆粕	〃	—	—	—	—	—	—
貴重品	〃	0.1	—	—	2.1	—	2.2
其ノ他	〃	675.9	0.2	—	114.7	0.5	791.3
合計	〃	18,121.8	2,777.9	—	16,472.5	253.5	37,625.7

◎出入汽船及積卸貨物數量 (八月中)

區 別	汽 船 數				積 物 卸 噸 貨 數	一 月 以 降 累 計				積 物 卸 噸 貨 數
	隻 數			登 噸 簿 數		隻 數			登 噸 簿 數	
	載貨船	空 船	計			載貨船	空 船	計		
入 港	79	10	89	59,291	27,609.3	488	126	614	253,463	248,448.5
	83	3	86	59,820	38,112.2	557	56	613	525,675	354,198.6
	計	162	13	175	119,111	65,721.5	1,045	182	1,227	1,049,138

備考 本表船積貨物ハ船用石炭486噸5ヲ含ム

◎出入汽船仕出仕向地別 (八月中)

入 港 ノ 部

仕 出 地	日 本 船			英 國 船			米 國 船			支 那 船			計		
	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數
日 本 內 地	16		9,972	—		—	—		—	—		—	16		9,972
大 連	19		1,710.9	—		—	—		—	—		—	19		1,710.9
上 海	22		1,668.2	1		1,223	—		—	—		—	23		17,905
芝 罘	—		—	2		2,556	—		—	—		—	2		2,556
天 津	—		—	3		3,589	—		—	—		—	3		3,589
其ノ他支那港	21		80.7	—		—	—		—	—		—	21		80.7
臺 灣	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
釜 山	1		46.5	—		—	—		—	—		—	1		46.5
仁 川	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
香 港	2		3,607	—		—	—		—	1		771	3		4,378
マニラ	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
浦 鹽	—		—	—		—	1		2,510	—		—	1		2,510
其ノ他外國計	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
合 計	81		48,642	6		7,368	1		2,510	1		771	89		59,291

出 港 ノ 部

仕 向 地	日 本 船			英 國 船			米 國 船			支 那 船			計		
	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數
日 本 內 地	19		14,239	—		—	—		—	—		—	19		14,239
大 連	15		15,882	—		—	—		—	—		—	15		15,882

仕 向 地		日 本 船			英 國 船			濠 國 船			支 那 船			計		
		隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數	隻數	登簿	噸數
上 芝 天	海 采 津	18		15,240	5		6,145	—		—	—		—	23		21,385
		—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
		1		962	1		1,223	—		—	—		—	2		2,185
其 他 支 那 港	臺灣 山	21		80.7	—		—	—		—	—		—	21		80.7
		—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
		2		918	—		—	—		—	—		—	2		918
仁 香 マ	川 港 =	2		1,123	—		—	—		—	—		—	2		1,123
		—		—	—		—	—		—	1		771	1		771
		—		—	—		—	1		2,510	—		—	1		2,510
浦 其 合	鹽 國 計	—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
		—		—	—		—	—		—	—		—	—		—
		78		49,171	6		7,368	1		2,510	1		771	86		59,820

◎入港汽船揚荷噸數國籍別 (八月中)

汽 船 國 籍	日 本 內 地				臺 灣	朝 鮮	大 連	上 海	芝 罘	天 津	其 支 那 他 港	香 港	其 外 他 國	計
	大 神	阪 戶	門 司	其 他										
日 本 國 籍	5,506.6	—	1,441.0	—	72.6	967.4	7,157.9	6,010.5	79.6	6.6	128.8	3,314.1	—	24,685.1
英 國 國 籍	—	—	—	—	—	—	—	645.6	47.0	723.0	1.4	—	—	1,417.0
支 那 國 籍	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,507.2	—	1,507.2
合 計	5,506.6	—	1,441.0	—	72.6	967.4	7,157.9	6,656.1	126.6	729.6	130.2	4,821.3	—	27,609.3

◎出港汽船積荷噸數國籍別 (八月中)

汽 船 國 籍	日 本 內 地				臺 灣	朝 鮮	大 連	上 海	芝 罘	天 津	其 支 那 他 港	香 港	浦 鹽	マ ニ ラ	其 外 他 國	計
	大 神	阪 戶	門 司	其 他												
日 本 國 籍	4,553.7	—	13,568.1	—	—	2,777.9	1,718.5	12,157.2	235.2	76.9	71.2	—	—	—	—	35,158.7
英 國 國 籍	—	—	—	—	—	—	—	2,175.6	37.9	—	—	—	—	—	—	2,213.5
支 那 國 籍	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	253.5	—	253.5
合 計	4,553.7	—	13,568.1	—	—	2,777.9	1,718.5	14,332.8	273.1	76.9	71.2	—	—	253.5	—	37,625.7

◎青島出入船舶旅客表 (八月中)

○印ハ帆船出入旅客ヲ示ス

入 港 上 陸 ノ 部

國	籍	男女別	大連	大神 阪戸	門其ノ 司他	朝鮮	上海	芝罘	天津	香港	威海衛	海州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
日 本	人	男女	448 108	217 126	411 246	27 28	88 14	2 —	— —	— 1	— —	4 —	— —	— —	— —	— —	1,197 523
支 那	人	" "	2,966 216	5 —	— —	455 47	183 8	300 34	38 10	— —	— —	242 37	325 31	41 4	3 —	10 —	4,568 387
英 國	人	" "	41 8	— —	— —	— —	44 28	— —	2 1	— —	— 1	1 —	— —	— —	— —	— —	88 38
米 國	人	" "	9 3	— —	— —	— —	16 8	4 2	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	30 13
露 國	人	" "	4 9	— —	1 —	— —	4 4	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	10 13
佛 國	人	" "	— —	— —	— —	— —	3 2	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 2
伊 大 利	人	" "	1 1	— —	— —	— —	3 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	4 1
印 度	人	" "	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 —
丁 抹	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 —
ノールウェ	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
ス ペ イ ン	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 1
葡 萄 牙	人	" "	1 —	— —	— —	— —	— 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 4
白 耳 義	人	" "	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 1
計 合	人	" "	3,471 345	222 126	412 246	482 75	343 71	306 36	41 11	— 1	1 1	247 37	325 31	41 4	3 —	10 —	5,904 984
計		計	3,816	348	658	557	414	342	52	1	2	284	356	45	3	10	6,888

◎ 出 港 乘 船 ノ 部

國	籍	男女別	大連	大神 阪戸	門其ノ 司他	朝鮮	上海	芝罘	海州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
日 本	人	男女	428 129	366 96	524 186	20 4	48 7	— —	5 —	— —	— —	— —	— —	1,391 422

國籍	男女別	大連	大神 阪戸	門其 ノ他	朝鮮	上海	芝罘	海州	山東省	江蘇省	福建省	關東州	計
支那人	男女	2,188 196	34 —	8 —	16 —	58 14	40 5	342 7	231 13	39 3	3 —	9 —	2,968 238
英國人	人	7 1	23 —	2 —	— —	21 24	— —	— —	— —	— —	— —	— —	53 25
米國人	人	2 —	7 —	2 —	— —	18 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	29 4
露國人	人	8 19	1 —	— —	— —	6 3	— —	— —	— —	— —	— —	— —	15 22
佛國人	人	1 —	2 —	— —	— —	3 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	6 1
白耳義人	人	1 2	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 2
スペイン人	人	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 1
ブラジル人	人	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 1
葡萄牙人	人	— —	— —	— —	— —	1 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 4
セルビマ	人	— —	— —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 1
和蘭人	人	— —	— —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 2
伊大和人	人	— —	— —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 2
マレー人	人	— —	17 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 17
合計	計	2,635 347	450 97	536 186	36 4	159 59	40 5	347 7	231 13	39 3	3 —	9 —	4,485 721
計	計	2,982	547	722	40	218	45	354	244	42	3	9	5,206

◎青島大港兩驛乘降客人員（八月中）

驛別	一 等 車		二 等 車		三 等 車		計	
	乘	降	乘	降	乘	降	乘	降
青島驛	154	161	611	712	12,692	18,038	13,457	18,911
大港驛	45	4	197	35	6,416	681	6,658	720
合計	199	165	808	747	19,108	18,719	20,115	19,631
一月以降累計	1,269	1,331	5,826	6,009	180,323	205,618	187,418	213,354

◎ 青島屠獸場屠殺數 (九月中)

日	次	牛	犢	豚	羊	山羊	計
二	日	174	—	24	4	—	202
三	日	13	—	25	1	—	39
四	日	13	—	23	4	—	40
五	日	17	—	24	3	—	44
六	日	18	—	23	1	—	42
七	日	24	—	40	6	—	70
九	日	176	—	25	1	—	202
十	日	14	—	27	3	—	44
十一	一 日	13	—	24	3	—	40
十二	二 日	13	—	24	2	—	39
十三	三 日	19	—	20	1	—	40
十四	四 日	23	—	47	5	—	75
十五	六 日	21	—	59	1	—	81
十六	七 日	181	—	100	4	—	285
十七	八 日	20	—	109	3	—	132
十八	九 日	8	—	9	2	—	19
十九	十 日	15	—	12	1	—	28
二十	十一 日	21	—	40	4	—	65
二十一	十三 日	30	—	38	1	—	69
二十二	十五 日	10	—	20	1	—	31
二十三	十六 日	169	—	20	3	—	192
二十四	十七 日	17	1	18	2	—	38
二十五	十八 日	19	—	35	4	—	58
二十六	二十 日	17	—	22	2	—	41
合	計	1,045	1	808	62	—	1,916
一月	以降累計	21,796	21	6,692	550	2	29,061

青島海關制度

(附錄)

◎青島海關制度

(續完)

左記支那帝國海關告示ヲ茲ニ公布ス
海關告示第二十九號

青島ニ於ケル貨物船積ニ關スル件

(獨文ヲ正本トス)

(千九百二十年膠州總督府官報第十六號ヲ以テ公布)

青島港ニ於テ商船ニ積載スル貨物ハ其ノ外國產タルト然ラサル
ト其ノ船舶ノ汽船、帆船、輕舸若ハ舢舨タルト問ハス又其ノ
仕向先ノ支那港若ハ外國タルト論セス總テ海關ノ検査ヲ受ク
ヘシ申告ヲナサス且關稅受領證ナキモノハ船積スルコトヲ得ス
外灣ニ於テハ衙門棧橋ト野砲臺間ノ海岸ニ於テ、內灣ニ於テハ
大鮑島小港ノ海岸ニ於テ船積ヲナスコトヲ得、石炭、石油、木
材、穀物等多量ノ物品ハ特別ノ申請ニ依リ他處ニ於テモ船積ヲ
ナスコトヲ得、特別ノ事情アルトキハ他ノ貨物ト雖亦同シ

一、船積スヘキ貨物ニ關シテハ棧橋又ハ海岸ニテ積載スル前ニ
申告ヲ爲スノ義務アルモノトス、申告ヲ爲サス又ハ關稅受領
證ナキ貨物ヲ船積スルトキハ之ヲ沒收ス

二、獨文、英文及支那文ヲ以テ記セル申告書用紙ハ本關ノ徵稅
係ニ於テ無料ニテ交付ス、但シ其ノ多數ヲ要スルトキハ製作
實費ヲ徵收ス

三、本關ノ執務時間ハ午前九時ヨリ午後四時迄トシ海關金庫
(獨亞銀行)ハ午前九時ヨリ十二時迄及午後二時ヨリ四時迄檢
査係ハ午前六時ヨリ午後六時迄トス

日曜日及祝祭日ニハ海關ヲ閉鎖ス
四、申告書ニハ船名、仕向地名、梱包ノ記號、番號、員數及包

裝ノ種類並商品ノ種別、數量及價格ヲ關稅定率表ノ名稱及度
量衡ニ依リテ記載シ之ヲ本關ニ差出スヘシ、一梱包中ニ稅率
ヲ異ニスル貨物ヲ合包スルトキハ各種貨物ノ數量ヲ其ノ正味
重量ニ依リ申告書ニ記載シ若ハ重量稅ヲ課スヘキ貨物ニ在リ
テハ重量ニ依リ記載シ又從價稅ヲ課スヘキ貨物ニアリテハ重
量若ハ員數ノ外尙其ノ價格ヲ記載スヘシ、前記ノ要件ヲ具備
セサル申告書ハ之ヲ却下ス、申告人カ業務文書不備ナルカ爲
完全ナル申告書ヲ差出ス能ハサル場合ニハ申告人ノ立會ヲ以
テ梱包ヲ開キ内容ヲ検査スルモノトス、之カ爲ニ生スル損害
ハ申告人ノ負擔トス

五、貨物ノ検査ハ官設ノ荷物検査所ニ於テ之ヲ行ヒ、外港ニ於
テ船積スル貨物ノ検査ハ青島棧橋畔ノ海關出張所ニ於テ又內
灣及小港ニ於テ船積スル貨物ノ検査ハ小港海關出張所ニ於テ
爲スヲ例規トス、通常ノ官設検査所ノ外、私設倉庫等ニ於テ
検査ヲ爲ス場合ノ事由及要件ニ關スル規定ハ交通其ノ他ノ關
係ヲ顧慮シテ海關之ヲ設ク

此ノ例外検査ノ申請ハ之ヲ申告書ニ記載シ午後検査ヲ受ケム
ト欲スルトキハ午前中ニ、又午前ニ検査ヲ受ケムト欲スルト
キハ前日中ニ申告書ヲ差出スヘク且申告書ニハ検査ノ爲貨物
ノ準備ヲ完結スル時刻ヲ記載スヘシ、検査ハ申告書差出ノ順
序及貨物検査準備完結ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

六、課稅及通關手續

検査係貨物ノ検査ヲ終リテ其ノ正當ナルコトヲ證明シ、申告
書ヲ海關事務所ニ返付シタルトキ該事務所ハ海關金庫(獨亞
銀行)ニ拂込ムヘキ成規ノ金額ニ對スル關稅請求書ヲ交付ス
銀行ハ該金額ノ支拂ヲ受ケタル後現金受領書ヲ發給ス現金受

領書ハ海關事務所ニ於テ關稅受領證ト引換フルモノトス、但シ關稅受領證ニ代フルニ船積證若ハ積荷證ヲ以テシ海關之ニ打印ヲ爲スモ妨ケナシ

七、小港ニ於ケル小貨物ノ課稅

小港ニ於テ船積セントスル貨物ノ通關及乘客ノ攜帶スル小荷物ノ課稅ヲ容易ナラシメンカ爲膠州總督府ノ許可ヲ得テ小港ニ海關出張所ヲ開設ス

小港ニ於テ船積セムトスル貨物ハ商人ノ希望ニヨリ右出張所若ハ本關ニ於テ檢査及通關手續ヲナスコトヲ得

但シ右ノ貨物ニ對スル關稅ハ從來ノ如ク之ヲ獨亞銀行ニ拂込ムヘク關稅受領證ハ本關ニ就テ受領スヘシ、關稅受領證ハ通關ノ爲ニ小港ノ海關吏員ニ呈示シ且之ヲ貨物ニ添附スルヲ要ス

旅客ノ小荷物等ハ小港ニ於テ檢査ヲ爲シ同所ニ揭示スル關稅定率表ニ依リ課稅スルコトヲ得、支拂ハ弗(一海關兩ハ一、五〇弗又ハ千二百文ニ等シ)ヲ以テスヘシ、小港ニ於テ交付シタル關稅受領證ハ之ヲ貨物ニ添付シ且要求アルトキハ之ヲ呈示スヘシ

支拂フヘキ關稅額一海關兩ヲ超過セサル貨物ハ之ヲ小荷物ト看做ス

八、遲 滯

申告書呈出ノ遲延又ハ檢査ヲ受ケムトスル貨物ノ準備整ハス申告書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ關稅ノ支拂ヲ遲延シ又ハ多量ノ商品ヲ乘客荷物或ハ釘附木箱トシテ携行セル爲通關ニ遲滯ヲ生スルコトアルモ海關ハ其ノ責ニ任セス

九、虛偽ノ申告

數量及種類ニ關シテ虛偽ノ申告ヲナシ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リテ密輸入ヲ圖リタル貨物、關稅受領證ナキ貨物若ハ積載區域(前文參照)外ニ於テ船積スル貨物ハ之ヲ沒收ス

千九百二年四月八日青島ニ於テ

膠海關長 エー、オールマー

千九百二年四月十日青島ニ於テ

帝國總督府

汽船ノ内水航行ニ關スル特別規則

(獨文ヲ正本トス)

(千九百四年膠州總督府官報第三十五號ヲ以テ公布)

第一條 青島ヨリ内水ニ至ル汽船ノ航行ニ關シテハ千八百九十八年七月及九月ノ一般規則竝ニ千九百二年九月ノ追加規則ノ外特ニ左ノ諸條ヲ適用ス

第二條 内水航行許可證ハ船籍證書ヲ青島支那海關ニ供託スルト共ニ書面ヲ以テ申請シ同海關ヨリ之ヲ發給スルモノトス但シ内水航行許可證ノ有効期間ハ滿一年トシ毎年之ヲ書換フルモノトス

第三條 内水航行許可證ヲ有スル汽船ハ一般規則(第一條)ヲ遵守シ左ノ如ク獨逸租借地港灣外ニ航行スルコトヲ得

(イ) 青島ヨリ内地ノ一箇所若ハ數箇所ニ往復スルコト

(ロ) 青島ヨリ内地ノ一箇所ニ至リ、同所ヨリ一條約港ニ達シ

更ニ内地ノ一箇所ヲ經テ青島ニ歸航スルコト

但シ特別ノ許可ナクシテ專ニ内地各處間ノミノ航行ハ之ヲ許サス

第四條 途中公認貿易地ニ於テ船客ノ取扱又ハ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ之ヲ地方稅關ニ申告シ其ノ地ニ行ハル關稅ノ支拂

ヲ要ス

第五條 汽船内水航行中支那條約港ニ寄航スルトキハ該港ノ海關ニ之ヲ申告シ且現行ノ港灣規則ヲ遵守スヘキモノトス

第六條 青島港ニ於テハ當然其ノ港灣規則及船舶ノ交通ニ關スル其ノ他ノ規則ヲ適用スルモノトス但シ青島港ヲ出入スルトキハ之ヲ埠頭局ニ申告スルノ外尙支那海關ニ申告スヘシ、其ノ際輸出入積荷目錄ヲ呈示シテ既ニ寄航シ若ハ將ニ寄航セントスル港名ヲ届出ツルト共ニ成規ノ税金ヲ支拂フモノトス

第七條 阿片及禁制品ハ之ヲ積載スルコトヲ得ス

海關ハ右ノ趣意ヲ以テ船内ノ搜索ヲ爲ス權利ヲ有ス

第八條 船長ハ支那帝國郵便局ノ郵便物ヲ無料ニテ輸送シ且之ヲ該局ヨリ受取り又ハ該局ニ引渡ス義務ヲ有ス

第九條 支那帝國海關ハ内水航行許可證發給ノ爲拾兩又毎年ニ於ケル同許可證書換ノ爲貳兩ヲ徵收ス、支那各港ニ寄航スル汽船ハ四箇月毎ニ其ノ登簿噸數一噸ニ付四錢(mace)ヲ又該噸數百五十噸及其ノ以下ノ汽船ニ在リテハ壹錢(mace)ヲ納付スルモノトス但シ青島ニ入港スル汽船ハ右ノ外尙成規ノ港稅支拂ヲ要ス

(譯者註) 海關兩十錢ヲ海關兩一兩トス

第十條 本規則ニ違反シタルトキハ參百弗以下ノ罰金ニ處シ且内水航行許可證ヲ褫奪ス又第七條ニ違反シタルトキハ當該物品ヲ沒收シ且五百弗ノ罰金ニ處ス、再犯ニ在リテハ許可證ヲ褫奪ス

第十一條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

千九百四年八月十九日青島ニ於テ

支那帝國海關長 ツエー、ツエー、スツールマン

右認可ス

帝國總督 トルツベル

千九百五年十二月二日ノ規定ニ依ル

自由地域開設ノ際ニ於ケル實施規則

(獨文ヲ正本トス)

(千九百五年膠州總督府官報第五十二號ヲ以テ公布ス)

第一條 千九百五年十二月二日ノ獨逸租借地關稅規則公布(官報二六五頁)ノ日以前ニ船積シタル貨物ニシテ租借地内ノ需要ニ供スルモノハ輸入稅ヲ要セス

第二條 租借地内ノ需要ニ供センカ爲本規則公布ノ日以前ニ注文シタル貨物又ハ租借地内ノ需要ニ供センカ爲關稅協定公布前ニ締結シタル契約ニ基キ供給スル貨物ハ千九百六年三月三十一日迄租借地内ニ無稅輸入スルコトヲ得、但シ特別ノ場合ニハ例外トシテ此期間ヲ延長スルコトアルヘシ、證明書類ハ之ヲ海關ニ呈示シ猶要求アルトキハ其ノ他ノ證明方ニ依リ補足スヘシ

第三條 支那ニ向ケテ輸出スル爲既ニ租借地内ニ存在セル貨物ノ關稅ヲ徵收センカ爲千九百六年三月三十一日迄舊海關出張所ヲ存置ス

第四條 自由地域ヲ出ツル際關稅ヲ納メタル貨物ニシテ舊海關出張所ヲ通過スル場合關稅受領證ヲ呈示スルトキハ再ヒ課稅セラルコトナキモノトス

第五條 自由地域内ニ在ル貨物ハ千九百五年十二月二日ノ規則施行ノ日ヨリ十日以内ニ該貨物包裝ノ種類、通稱、記號及番號ヲ成ルヘク精密ニ記載シテ荷受人若ハ代理業者ヨリ海關ニ申告スヘキモノトス

千九百五年十二月二日青島ニ於テ

帝國總督代理 フアン、ゼムメルン

獨逸租借地關稅規則 (獨文ヲ正本トス)

(千九百五年膠州總督府官報第四十九號ヲ以テ公布)

第一章 總 則

第一條 海路獨逸租借地ニ輸入シ又ハ同地ヨリ輸出スル一切ノ貨物ニハ本規則ニ除外例ノ規定ナキ限り輸出入ノ際關稅定率表ニ依リ關稅ヲ賦課ス

通過證ニ依リ支那内地ニ送り又ハ支那内地ヨリ來ル貨物ハ條約ニ依ル輸出入稅ノ外尙條約ニ依ル通過稅ヲ支拂フモノトス

第二條 關稅徵收手續ハ支那海關ニ行ハルル原則ニ依ルモノトス、海關ノ取締ハ常ニ其ノ必要アル場所ニ於テ海關吏員之ヲ行フ

(譯者註) 英文ニハ「海關手續ハ各條約港ニ於ケル支那海關ニ行ハルル原則ニ基キ其ノ慣例ニ依ルモノトス云々」トアリ

第三條 海關ニ提出スヘキ船舶ノ輸出入積荷目錄ニハ條約ノ規定ヲ適用ス、積荷目錄ハ船長責任ヲ以テ署名スヘシ但シ船舶代理業者ハ船長ニ代ハルコトヲ得

第四條 通常ノ繫船場ニ入ル戎克ヲ除クノ外、船舶ニシテ輸入積荷目錄ヲ海關ニ提出セサル間ハ荷卸ニ著手スルヲ得ス、又海關ノ許可ヲ受ケスシテ自由地域外ニ於テ荷卸ヲナスコトヲ得ス、自由地域外ニ於テ積卸ヲ爲サントスル貨物ノ申告書ニハ積卸ノ場所ヲ詳細ニ記入スルヲ要ス

第二章 自由地域

第五條 自由地域ハ埠頭、造船所用地及防波堤ヲ含ム大港並其

ノ前面ナル鐵道本線ノ築堤ニ至ル迄ノ地域ヲ包括シ、南西ハ「レヒテルン」街路ト大港路トノ連絡路ノ前方、内灣ト鐵道築堤トノ間ノ一線、東ハ信號所(ブロックスターチオン)附近ニ於ケル鐵道築堤防波堤トノ間ノ一線ヲ境界トス將來必要ヲ生シタルトキハ何時ニテモ自由地域ヲ擴張スルモノトス

其ノ擴張豫定境界ハ一方ハ信號所(ブロックスターチオン)ニ至ル迄ノ鐵道築堤トシ防波堤ノ東方約二百米ノ幅ニ於テ將來埋立ヘツキ地帶ヲ包含シ又他ノ一方ハ山西街(譯者註、今ノ陝西街)鐵道橋下道ニ至リ更ニ該道路ニ沿ヒテ「オスター」繫船所ニ及ヒ且大港及小港ヲ包括スルモノトス

第六條 自由地域ハ倉庫及埠頭監視者、造船所監視者、港務吏員、海關吏員及警察吏員ニ要スル住居ヲ除キ他ノ住居ニ之ヲ使用スヘカラス又自由地域ハ當分ノ間港内支那勞働者ニ對スル一定數ノ飲食店ヲ除キ小賣業ニ使用スヘカラス

工場ノ設置ハ原則トシテ之ヲ許可ス

第七條 自由地域内及其ノ出口ニ於ケル稅關ノ取締ハ支那海關之ヲ行フ

第八條 入港船舶ノ關稅計算ハ該船舶出港許可後十日以内ニ之ヲ結了スヘシ

又總テ輸入貨物ニ對スル關稅ハ該貨物カ自由地域ヲ出ツルトキ之ヲ支拂フモノトス

第九條 海路又ハ支那内地ヨリ到著シタル貨物ヲ自由地域内ニ於テ藏置、仕別又ハ加工セントスルトキハ該貨物運送ノ方法、船ニアリテハ船名、荷受人氏名及住所、貨物到著ノ日付、梱包數、其包裝ノ種類、記號及番號並貨物ノ内容ヲ記載シテ海

關ニ申告シ監視ヲ受クヘシ

第十條 自由地域ヨリ海路輸出セントスル貨物ニシテ海關出張所ヲ經由スヘキ通關證ヲ有セサルトキハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第十一條 自由地域ノ陸上及海上境界ニ於ケル各種運搬具（馬車、荷車、鐵道、戎克、舢舨、曳船、汽船等）ニ依ル交通ハ海關ノ監視ヲ受クルモノトス

第三章 無稅品

第十二條 條約ニ依リ無稅タルヘキ物品ニハ何等ノ關稅ヲ課セサルモノトス、左ニ掲クルモノハ無稅トス

獨逸軍隊用

（イ） 兵器、裝具及被服ニ充ツル物品ニシテ獨逸陸海軍官衙直接ニ之ヲ調達シ膠州總督府ノ證明アルモノ

（ロ） 戰時ヲ慮リテ陸海軍官衙ノ注文セル材料及糧食ニシテ膠州總督府ノ證明アルモノ

一般用

（ハ） 機械及機械的裝置竝ニ製造業、工業及農業ニ要スル工具及器具又ハ其ノ部分品、公共及官衙ノ構築物ニ用フル構築材料及設備用物件

但シ是等ノ貨物ハ專獨逸租借地ニ於テ使用スルモノナルコトヲ證明シ且其ノ貨物ノ價格ニ對スル保證書ヲ其ノ都度海關ニ差出スモノトス、其ノ後は是等ノ貨物ヲ支那内地ヘ送付スル場合ニハ其ノ旨海關ニ申告シ關稅ノ支拂ヲ要ス

（ニ） 普通ノ修理ノ爲ニ自由地域ト有稅地トノ間ヲ出入スル物倍ヲ徵收ス

件

但シ其都度海關吏ニ之ヲ通告スヘシ

（ホ） 獨逸租借地内ニ於ケル私用ノ爲輸入スル一切ノ小包郵便物但シ添附セル申告書ニ依リ徵收スヘキ關稅額一海關弗（價格二十海關弗）ヲ超過セサルモノ

海關ハ隨時該小包郵便物ノ内容ヲ檢查シテ申告書ノ眞僞ヲ確ムルコトヲ得

第十三條 旅客ノ私用荷物ハ其ノ有稅又ハ禁制品ニアラサルコトヲ言明スル場合ニハ無稅トシ、通常検査ヲ行ハサルモノトス、但シ海關ハ特ニ必要ト認ムル場合ニ於テ検査ヲ爲スノ權利ヲ有ス私用荷物中青島ニ使用荷物ト看做スヘキ程度ヲ超ユル物品又ハ販賣ヲ目的トスル物品アルトキハ之ニ課稅ス

第四章 獨逸租借地ニ於テ製造シタル物品

第十四條 刪除（製造品關稅規則參照）

第五章 阿片

第十五條 阿片ヲ船舶ニテ輸入スルトキハ原箱ノ儘ナルヲ要ス、一箱ニ充タサル小量ハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス、總テ阿片ハ船舶到著ノ際直ニ之ヲ海關ニ告知スヘシ、船中ニ於テ消費スル目的ヲ以テ携行セルモノト雖亦同シ、輸入ノ目的ヲ以テ運送シタル阿片ハ海關監視ノ下ニ海關倉庫ニ搬入スルモノトス

第十六條 阿片ヲ獨逸租借地ヨリ支那内地ヘ又ハ支那内地ヨリ獨逸租借地ヘ輸送スルトキハ運送狀ヲ附シ鐵道運送貨物ト爲ストヲ要シ旅客貨物又ハ手荷物トシテ携行スルヲ得ス

鐵道會社ハ到著シタル阿片運送狀ヲ獨逸租借地ノ海關ニ交付シ海關ハ之ヲ名宛人ニ通知スルモノトス

（譯者註） 英文ニハ阿片運送狀等トアリ

第十七條 獨逸租借地ニ於ケル阿片ノ消費ハ特別規則ニ依ルモノトス

第六章 武器、火藥、爆發物及同種類ノ物品

第十八條 武器、火藥、爆發物及同種類ノ物品竝ニ其ノ作成ニ用フル材料ハ到著ノ際之ヲ申告シ膠州總督府ノ成規ニ依リテ荷卸及藏置ヲ爲スヘシ

第十九條 武器及同種類ノ物品竝其ノ作成ニ用フル材料ハ獨逸租借地ヨリ支那内地ニ移入スルコトヲ禁ス、但シ支那政府ノ希望ニ由ル特別通過證アリテ之カ保證ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

(譯者註) 英文ニハ「但シ支那政府ノ規定ニ依リ海關長ノ發行シタル特別許可證アル物品ハ云々」トアリ

第二十條 獨逸租借地ニ於ケル武器及爆發物ノ藏置及消費竝其ノ取引ハ特別ノ規則ニ依ルモノトス

(譯者註) 英文ニハ「消費」ナル語ナシ

第七章 郵便物ノ運送

第二十一條 郵便物ハ何時ニテモ郵便局之ヲ船舶ニ搭載シ又ハ船舶ヨリ搬出スルコトヲ得

第二十二條 小包郵便物ハ通關證アルモノニ限り郵便局之カ引受ヲ爲スモノトス

第二十三條 到著シタル小包郵便物ハ關稅徵收ノ爲ニ到達後直ニ之ヲ郵便局ヨリ海關ニ引渡スヘク其ノ添附書類ハ他ノ郵便物ノ如ク受取人ニ交付スヘシ受取人ハ該書類ニ據リ成規ノ關稅ヲ海關ニ支拂ヒ(第十二條參照)小包ヲ受領スルモノトス
獨逸租借地内ニ於ケル青島以外ノ獨逸郵便局所在地ニ宛テタル小包ニ對シテ受取人ノ申請アル場合ハ手數料二十仙及成規

ノ關稅ヲ徵收シ郵便局代テ之カ通關手續ヲ爲スモノトス
(譯者註) 二十仙ハ支文ニハ「二角」トアリ

第二十四條 阿片、武器、火藥、爆發物及同種類ノ物品竝其ノ作成ニ用フル材料ハ郵便ニ依リ輸入スルヲ得ス、但シ特別ノ場合ニハ膠州總督府其ノ許可ヲ爲スコトヲ得

第八章 「タンク」石油

第二十五條 石油「タンク」船ノ檢査、石油ノ貯藏及價格計算ニ關スル海關手續ハ海關慣行ノ手續ニ依ル

(譯者註) 英文ニハ「條約港海關慣行ノ手續」トアリ

第九章 海關執務時間

第二十六條 海關ハ日曜日及休日ノ外、文書受授ノ爲午前十時ヨリ午後四時迄之ヲ開キ又海關金庫ハ午前九時ヨリ十二時迄及午後二時ヨリ四時迄之ヲ開クモノトス

第二十七條 日曜日、休日又ハ夜間ニ於テ貨物ノ積卸ヲナサント欲スル船舶ハ海關ノ特許ヲ受クヘシ、此ノ特許ハ執務時間中ニ受クルヲ要ス

第二十八條 夜間ニ於テ自由地域ノ海陸兩境界ヲ通過スル貨物ノ運搬ハ郵便物及旅客荷物ヲ除クノ外海關ノ特許ヲ得タル場合ニ限ルモノトス

第二十九條 夜間トハ三月一日ヨリ十月三十一日迄ハ午後八時ヨリ午前五時迄トシ、十一月一日ヨリ二月二十八日若ハ二十九日迄ハ午後六時ヨリ午前六時迄トス

第十章 罰則

第三十條 沒收及處罰ニ關シテハ海關ニ於テ條約ニ依リ定メタル原則ヲ適用ス、沒收及處罰ニ關スル海關ノ處分ニ對スル不服ノ申立手續ニ關シテハ千八百六十六年五月三十一日(北京)

ノ會審規則ヲ準用ス

第十一章 舊規則ノ廢止

第三十一條 本規則ハ千八百九十九年四月十七日ノ協定及千九百五年十二月一日ノ改正協定ヲ實施スルモノニシテ海關ノ同意ヲ以テ千九百六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ト同時ニ左ノ規則及告示ヲ廢止ス

(イ) 千八百九十九年五月二十三日ノ膠州獨逸租借地海關假規則

(ロ) 千八百九十九年五月二十一日ノ阿片、武器等ノ輸入及取締ニ關スル特別規則

(ハ) 千八百九十九年五月三十一日ノ海關取締實施ニ關スル特別規則

(ニ) 千九百一年四月二十日ノ山東鐵道輸送貨物ニ關スル海關假規則ノ追加假規則

(ホ) 千九百二年三月三十一日ノ鐵道輸送貨物ニ關スル海關告示第二十四號

千九百五年十二月二日青島ニ於テ

帝國總督代理 フアン、ベンメルン

左記支那帝國海關告示ヲ茲ニ公布ス

海關告示第六十六號

小包郵便物ノ取扱ニ關スル件(獨文ヲ正本トス)

(千九百六年膠州總督府官報第一號ヲ以テ公布)

千九百五年十二月二日ノ租借地關稅規則第七章及同日ノ假規則ニ基キ且千九百三年十二月二十三日ノ海關告示第四十四號ヲ廢止シ海關ニ於ケル小包郵便ノ取扱ニ關シテ左ノ規定ヲ千九百六

年一月一日ヨリ施行ス

第一章 託送小包

第一條 總テ發送小包ハ奧地行ノモノヲ除キ其ノ内容明細書ヲ提出シテ海關ノ小包検査所ニ申告シ若ハ左ノ原則ニ依リ關稅ヲ支拂フモノトス

イ、總テ奧地產ノ物品ヲ獨逸、外國又ハ北京ニ向ケテ輸出ス

ルトキハ關稅定率表ニ依リ輸出稅ヲ徵收ス

ロ、支那產ニアラサル物品ニシテ既ニ輸入稅ヲ支拂ヒタルモノニ對シテハ輸出ノ際關稅ヲ徵收セス

ハ、小包ヲ開封セサルトキハ其ノ表記價格ノ百分ノ五ニ對スル關稅ヲ徵收ス

ニ、關稅額〇、七五弗ニ滿タサルモノハ之ヲ徵收セス、但シ發送人、名宛人及内容ノ同一ナル二個以上ノ小包ノ關稅合計

〇、七五弗以上ナルトキハ之ヲ徵收ス

ホ、検査ハ打印ニ依リ終リタルモノトス検査ヲ終リタル小包ハ發送人之ヲ郵便局ニ持參スヘシ

第二章 到著小包

第二條 奧地並支那ノ諸港ヨリ來リタル小包ニシテ發送港海關

ノ標録アルモノハ海關ノ検査ヲ要セサルモノトス

第三條 獨逸、外國又ハ支那ノ諸港ヨリ來リタル小包ニシテ租

借地ニ於ケル私用ニ供シ且徵收スヘキ關稅額一弗ヲ超過セサルモノハ海關ニ於テ免稅ノ表記ヲ爲シタル後郵便局ヨリ受取

ルモノトス

第四條 前諸條ニ記載セル以外ノ到著小包ハ總テ關稅定率表規

定ノ輸入稅及成規ノ手数料ヲ支拂ヒタル後海關ニ於テ受領證ト引換ニ之ヲ小包受領權利者ニ交付スルモノトス但シ郵便局

カ該權利者ニ代リテ通關手續ヲ爲ス場合ハ郵便局ヨリ之ヲ交付スヘシ

第三章 通過小包

第五條 支那内地ニ至ル通過小包ニシテ支那港海關ノ標録ナキモノハ海關ノ検査ヲ受クルモノトス

第六條 支那内地ヨリ來リタル通過小包ハ總テ海關ノ検査ヲ受ケ定率表規定ノ關稅ヲ支拂フモノトス

第七條 奧地ニ居住スル受領人若ハ發送人ハ通關手續ヲ郵便局ニ依頼スルコトヲ得、此ノ場合ハ〇、二〇弗ノ手数料ヲ支拂フモノトス

第四章 書式用紙、關稅貨幣本位及執務時間

第八條 内容明細書用紙ハ海關ニ於テ交付ス其ノ一枚ヲ十文トシ十枚ヲ〇、一〇弗トス

第九條 關稅ハ弗本位ヲ以テ支拂フヘシ支拂タル金額ニ對シテハ受領證ヲ交付スルモノトス

第十條 海關ノ小包取扱所ハ平日午前九時ヨリ十二時迄及午後一時ヨリ五時迄小包ニ關スル事務ヲ取扱フ

千九百五年十二月二十九日青島ニ於テ

支那帝國海關長 エー、オールマー

千九百五年十二月二十九日青島ニ於テ

帝國總督府

左記支那帝國海關告示ヲ茲ニ公布ス

海關告示第六十七號 (獨文ヲ正本トス)

(千九百六年膠州總督府官報第一號ヲ以テ公布)

第一 自由地域ニ於ケル海關ノ監視ヲ實施スル爲當分出張所三

箇所ヲ左ノ通設置ス

一、陸路自由地域ヲ出ツル總テノ貨物ニ對シ検査若ハ課稅ヲ爲サンカ爲大港驛附近自由地域入口ノ港通ニ接シテ検査所一箇所

二、鐵道ニ依リ自由地域ヲ出ツル總テノ貨物ニ對シ検査ヲ爲サンカ爲鐵道信號所附近ニ監視所一箇所

三、海路自由地域ヲ出ツル總テノ貨物ニ對シ監視ヲ爲サンカ爲第一埠頭上ノ測深所附近ニ監視所一箇所

第二 自由地域内ニ在ル船舶ノ用ニ供スル食料品、材料及艤裝物件ノ監視ハ便宜上、港通若ハ港内測深所附近ノ出張所ニ於テ同所駐在ノ吏員之ヲ行フ梱包ノ内容ヲ記載セル送狀ニ打印ヲ爲ストキハ之ヲ關稅受領證ニ代ヘ當該貨物ノ船積ヲ爲シ得ルモノトス但シ該送狀ニハ差出商店ノ署名アルヲ要ス、港外ニ碇泊セル船舶ニ對シテハ青島棧橋畔及小港出張所ニ於テ同様ノ手續ヲ爲スモノトス

千九百六年一月一日青島ニ於テ

支那帝國海關長 エー、オールマー

千九百六年一月二日青島ニ於テ

帝國總督府

左記支那帝國海關告示ヲ茲ニ公布ス

海關告示第六十九號 (獨文ヲ正本トス)

(千九百六年膠州總督府官報第六號ヲ以テ公布)

無稅輸入品及其ノ他ノ物件ヲ迅速ニ通關セシメンカ爲特ニ左記ノ諸點ヲ受取人ニ注意ス

一、輸入物件免稅ノ申請ハ左記書式ノ申告書ヲ以テスルヲ便宜

トス第何條云々(關稅規則若ハ實施規則ノ當該條項ヲ記載ス)ニ依リ免稅ヲ申請ス云々

其ノ他ノ申告書ニハ梱包ノ員數及名稱ヲ記載スルノ外尙成規ノ内容保證書ニハ價格、產地及通過貨物ニ在リテハ寄港スル汽船名ヲ記載シ且左ノ書類ヲ添附スヘシ

(イ) 物件カ總督府用ノモノナルトキハ成規ノ總督府證明書
(ロ) 物件カ製造場用又ハ工業的設備用ノモノナルトキハ該物件ヲ專該工場ノ使用ニ供ス云々ト記載セル成規ノ當該商店ノ保證書

但シ保證書書式用紙ハ海關ニ於テ交付ス

(ハ) 物件ヲ實施規則ニ依リ租借地内ノ需要ニ供スルトキハ之ニ關スル保證書、關係契約書及其ノ他ノ證據書類

二、申告書及保證書ニハ當該商店ノ署名アルヲ要ス

三、大港ヨリ遠距離ノ地ニ住シ且午後ハ事務輻湊スル虞アル者貨物ヲ鐵道ニ依リ自由地域外ニ發送セントスルトキハ其ノ前日中ニ通關手續ヲ爲スヲ可トス

米、木材、石油等ノ如キ大容積ノ貨物ヲ關稅受領證ノ下附前ニ積載セント欲スルトキハ自由地域内ニ在ル上級監吏ノ許可ヲ受クヘシ、但シ積載シタル車輛ハ關稅受領證ノ下附前發車セシムルコトヲ得ス

本規定ヲ遵守セサルカ爲生シタル遲滯ニ對シテハ海關其ノ責ニ任セス

千九百六年二月二日青島ニ於テ

千九百六年二月八日青島ニ於テ

エー、オールマー

帝國總督府

海關告示第九十六號

武器及彈藥ヲ支那ニ輸入スル件

(獨文ヲ正本トス)

(千九百八年膠州總督府官報第三十號ヲ以テ公布)

武器及彈藥ヲ支那ニ輸入スル事ニ關スル海關告示第九十一號ノ規定ハ稅務處ノ指令ニ依リ千九百八年六月三十日限り之ヲ廢止シ同年七月一日ヨリ左ノ改正規定ヲ施行ス

第一、軍用武器及彈藥 支那官憲ニシテ武器及彈藥ヲ輸入セム

トスル場合輸入前當該都統、總督若ハ巡撫ハ之カ詳細、名稱、梱包ノ數、輸入港、仕向地等ヲ陸軍省ニ電報ヲ以テ申告シ、該省電報ヲ以テ許可シタル後始メテ所要ノ許可證護照ヲ發給スルコトヲ得、陸軍省ハ詳細ヲ稅務處ニ通報シ、同處ハ更ニ之ヲ海關道台ニ、又ハ總稅務司ヨリ當該海關長ニ通報シテ梱包數カ許可證(護照)記載ノ數ト一致スルトキハ陸揚ノ許可ヲ與フルモノトス

輸入ヲ爲シタル日附ハ毎回之ヲ稅務處ニ報告シ、同處ハ之ヲ陸軍省ニ通報スルモノトス

第二、軍用武器及彈藥ノ見本 支那官憲ニ呈示セムカ爲武器及彈藥ノ見本ヲ輸入セント欲スル外國商人ハ自國領事ヲ經テ海關道台ヨリ輸入許可證(護照運准)ノ交付ヲ受ケ之ヲ申告書ト共ニ海關ニ差出スヲ要ス、之ニ依リテ海關ハ輸入許可ヲ爲スヘシ、毎回同種ノ小銃四挺及其ノ彈藥ハ合計二千發ヲ最大限トシ、之ヲ超過スルコトヲ得ス

該商人ハ此等ノ見本ヲ何人ニモ賣却セサルコトノ保證書ヲ海關ニ供託シ又武器等ノ見本ハ海關ノ要求ニ依リ何時ニテモ檢

査ノ爲提出スルヲ要ス
情況疑ハシキモノアル場合海關道台ハ許可證ノ發給ヲ拒ムコトヲ得、此ノ決定ハ書面ヲ以テ之ヲ領事ニ通報スルモノトス

第三、護身用武器及彈藥

イ、相當ノ身分アル外國人ニシテ海路又ハ陸路支那ニ來ルトキハ護身用ノ爲其ノ荷物中ニ拳銃一挺及連發拳銃一挺並其ノ彈藥合計五百發以下ヲ携帶スルコトヲ得、但シ到著ノ際之ヲ海關ニ申告スルヲ要シ、検査後携帶ヲ許可スヘシ、此ノ規定ニ違反スルトキハ申告ヲ爲ササリシ武器等ヲ沒收スロ、相當ノ身分アル支那在住ノ外國人ニシテ護身用ノ爲武器及彈藥ヲ輸入セムト欲スルトキハ其ノ輸入前ニ自國領事ヲ經テ海關道台ヨリ輸入許可證(護照運准)ノ交付ヲ受ケ之ヲ申告書ト共ニ海關ニ提出スルヲ要ス、海關ハ之ニ依リテ輸入ヲ許可スヘシ、外國人ハ何人ト雖護身用トシテ毎年一回拳銃一挺及連發拳銃一挺及彈藥合計五百發以下ヲ輸入スルコトヲ得

情況疑ハシキモノアル場合海關道台ハ許可證ノ發給ヲ拒ムコトヲ得、此ノ決定ハ書面ヲ以テ之ヲ領事ニ通報スルモノトス

ハ、外國人ニシテ成規ノ旅券ヲ携帶シ、旅客トシテ支那内地、西藏、蒙古、土耳其斯坦等ニ赴クトキハ成規ノ申告書ヲ差出シタル後、護身用ノ爲前記數量ノ二倍迄ノ武器及彈藥ヲ携帶スルコトヲ得

ニ、外國人ハ前記ノ規定ニ依リ其ノ身體ニ携帶スル拳銃及連發拳銃以外ノ武器ヲ護身用ノ爲ニ輸入スルコトヲ得ス
他ノ種類ノ陸海軍用武器彈藥ハ一見本用ノモノニシテ海關

道台ヲ發給セル許可證ヲ提出スル場合及ニ支那人ノ文武官憲ノ爲輸入スルモノニシテ海關道台ノ承認セル證明書アル場合ニ限り輸入スルコトヲ得
外國人ハ私用ニ供スト稱シテ軍用武器及彈藥ヲ不法ニ輸入スルコトヲ得ス

第四、遊獵用武器及彈藥

イ、相當ノ身分アル外國人ニシテ海路又ハ陸路支那ニ來ルトキハ其ノ荷物中ニ獵銃三挺以下及其ノ彈藥合計三千發以下ヲ携帶スルコトヲ得、但シ到著ノ際之ヲ海關ニ申告シテ検査ヲ受ケ且關稅ヲ支拂ヒタル後其ノ携帶ヲ許可セラルルモノトス、本規定ニ違反スル場合申告ヲ爲サリシ小銃等ハ之ヲ沒收ス、古キ小銃ヲ新シキ彈藥ト共ニ前記ノ手續ニ依リ輸入スルトキハ二者共ニ關稅ヲ免除ス

ロ、相當ノ身分アル支那在住ノ外國人ニシテ獵銃又ハ彈藥ヲ輸入セント欲スルトキハ輸入前ニ領事ヲ經テ海關道台ヨリ輸入許可證(護照運准)ノ交付ヲ受ケ之ヲ申告書ト共ニ海關ニ提出シテ輸入許可ヲ受クルモノトス

支那在住ノ外國人ハ毎年一回ヲ限り獵銃三挺、彈藥三千發以下ヲ輸入スルコトヲ得、但シ情況疑ハシキモノアル場合海關道台ハ許可證ノ發行ヲ拒ムコトヲ得此ノ處置ハ書面ヲ以テ之ヲ領事ニ通報スルモノトス

ハ、相當ノ資格アル外國商店ハ獵銃及彈藥ニ限り輸入スルコトヲ得、輸入許可ヲ受ケント欲スルトキハ領事ヲ經テ海關道台ヨリ輸入許可證ノ交付ヲ受クルヲ要ス、猶該商店ハ輸入ノ際此等ノ物件ヲ性行疑ハシキ者ニ直接又ハ間接ニ賣渡ササルコトノ保證書ヲ海關ニ提出スヘシ

右ノ手續ニ依リ一外國商店ノ同時ニ輸入スル獵銃ノ數ハ一定人ノ注文ニ係ルトキハ六挺ヲ超過スルヲ得ス、注文ニ依ラス單ニ貯藏ノ爲購買シタルモノナルトキハ四挺ヲ超過スルヲ得ス

注文者ノ住所姓名ハ海關ニ提出スル輸入申告書ニ記載スルヲ要ス、又該商店ハ前記ノ手續ヲ以テ輸入シタル獵銃及彈藥ノ數量、買受人ノ住所、姓名並交附日附ヲ詳記セル表ヲ作製シ海關ノ要求アルトキハ檢査ノ爲之ヲ海關ニ提出スヘシ、一外國商店ノ一回ニ輸入スル獵用彈藥ハ其ノ各種合計一萬發ヲ超過スルヲ得ス

ニ、外國人ノ輸入スル獵銃及彈藥トハ專遊獵用散彈銃及其ノ彈藥ヲ謂フ、軍用武器及彈藥ハ如何ナル口實ヲ以テスルモ之ヲ不法ニ輸入スルヲ得ス

第五、軍用武器及彈藥ノ輸入禁止 支那陸海軍又ハ其他ノ官憲ノ購買セサル陸海軍用武器及彈藥ノ輸入ハ現行條約ニ依リ禁止ニ屬スルモノトス

第六、課税 第二、第三及第四ノ規定ニ依リ輸入スル武器及彈藥ニ對シテハ五分ノ從價稅ヲ課ス

第七、積換 他ノ地ニ在スル外國人ニシテ護身用若ハ遊獵用ノ目的ヲ以テ輸入スル武器及彈藥ヲ上海ニ於テ積換ヘムトスルトキハ在上海當該國領事ヨリ其ノ旨上海海關ニ請求シ且買受人ノ姓名及梱包ノ數ヲ通知シタル場合之ヲ許可ス又右ノ如ク積換ヲ爲シタル貨物カ指定港ニ到著シタルトキハ買受人更ニ自國領事ヲ經テ海關道台ヨリ所要ノ許可證ヲ受ケ之ヲ貨物ト共ニ海關ニ提出シテ檢査及納稅ヲ終リタルノ後輸入ヲ許可セラルルモノトス

第八、弊害ノ防止 本規定ハ稅務處ノ新ニ發布シタル成規ニ基クモノニシテ數國公使館ノ指摘シタル種々ノ困難ヲ除去シ手續ヲ簡易ナラシメタルモノナリ

本規定ハ千九百八年七月一日ヨリ施行ス、同日以前ニ輸入シタル武器及彈藥ハ舊規定ニ依リ之ヲ取扱フモノトス
本規定ハ其施行後ニ生スル弊害ヲ防止センカ爲必要ニ應シテ隨時之ヲ改正スルモノトス

千九百八年七月一日青島ニ於テ

支那帝國海關長代理

ハ一・ヨット・フオン、プロツクドルフ

右支那帝國海關告示ヲ茲ニ公布シ左ノ如ク指示ス

一、本告示ニ依リ海關道台ニ提出スヘキ書類ハ青島ニ於テハ總テ之ヲ青島海關ニ差出スルモノトス、海關ハ武器ニ關スル護照ヲ發給シ又奧地在住ノ外國人若ハ同地ニ旅行スル外國人ニ對シテ武器携帶許可證ヲ發給ス

二、租借地ニ於テ使用スル武器ノ輸入ニ關シテ發布シタル特別規則ハ引續キ其效力ヲ有スルモノトス

千九百八年七月十九日青島ニ於テ

帝國總督府

海關告示第三百三十六號

(獨文ヲ正本トス)

自由港海關ニ關スル件

(千九百十一年膠州總督府官報第四十八號ヲ以テ公布)

汽船及外國型帆船並ニ其ノ積荷ノ通關事務所(總務部)ハ千九百十一年八月十七日木曜日之ヲ本關ヨリ自由港入口ノ海關ニ移轉シ同日ハ閉鎖ス

自由港海關ノ業務範圍ハ汽船及外國型帆船ノ入港及出港ノ許可、此等船舶ニ積載スル輸入貨物ノ検査、課税又ハ自由港ニ於ケル其ノ貯藏及同港ヨリノ輸出並ニ此等ニ要スル一切ノ證書ノ發行ヲ包括スルモノトス、前記ノ船舶貨物等ニ關スル照會及通報ハ自由港海關ニ口頭若ハ書面ヲ以テ爲スヘシ、海關銀行ハ自由港海關ノ一階ニ在リ、成規ノ關稅等ハ之ヲ同銀行ニ拂込ムモノトス

戎克海關、小包郵便監查所及武器並阿片ノ置場ハ從來ノ如ク本關内ニ之ヲ置ク、輸出貨物ニ對スル海關ノ検査ヲ私設置場ニ於テ受ケントスル場合青島及大鮑島ノ商店ハ之ヲ本關ニ、又大鮑島ノ北方ニ在ル商店ハ之ヲ自由港海關ニ申請スヘシ、申請書ニハ日時ヲ詳記シ前日中ニ之ヲ提出スルヲ要ス

千九百十一年八月十日青島ニ於テ

支那帝國海關長 エー、オールマー

右支那帝國海關告示ヲ茲ニ公布ス

千九百十一年八月十五日青島ニ於テ

帝國總督府

海關告示第百七十二號 (獨文ヲ正本トス)

(千九百十四年膠州總督府官報第十六號ヲ以テ公布)

千九百十一年七月一日ノ海關告示第百三十四號ヲ廢止シ、外海及灣内ヲ航行スル貨物戎克ノ通關ニ關スル左ノ假規則ヲ千九百十四年四月二十日ヨリ施行ス

第一條 區別 外海ヲ航行スル戎克ハ其ノ大小及船籍ニ依リ之ヲ分チテ左ノ三等トス

第一等 尖形ノ船首及船底ヲ有スル福州又ハ寧波ノ戎克ニシ

テ建船又ハ鵬船ト稱スルモノ

第二等 廣キ船首及扁平ナル船底ヲ有スル江蘇、上海、海州等

及山東又ハ他ノ北部沿海港ノ戎克ニシテ第二位ノ大サヲ有

シ沙船又ハ瓜隻ト稱スルモノ

第三等 膠州灣ニ船籍ヲ有スル海上戎克

第二條 繫船所 福州及寧波ノ戎克(一等)ハ青島灣發著ノ際青

島棧橋ノ西方ニ於テ帝國總督府ノ指定スル場所ニ碇泊シ且同

所ニ於テ海關輕舸ニ乘レル戎克監吏ノ検査ヲ受クヘシ

二等及三等戎克ハ發著ノ際大鮑島港ノ北側ニ於テ防波堤ト大

鮑島岩ノ中間ニ於ケル帝國總督府ノ指定セル場所ニ碇泊シ且

同所ニ於テ大鮑島戎克監吏ノ検査ヲ受クルモノトス

第三條 海上貨物戎克用ノ番號旗 海上貨物戎克ハ到著ノ際戎

克監吏ヨリ番號旗ヲ受領シ之ヲ檣上ニ掲揚スヘシ

一等及二等戎克ハ白宇ノ番號ヲ附シタル赤旗ヲ又三等戎克ハ

赤宇ノ番號ヲ附シタル白旗ヲ受領スルモノトス、番號旗ハ當

該戎克引續キ之ヲ所有シ青島ヘ歸航ノ都度、到著ノ際又ハ港

外碇泊場通過ノ際之ヲ檣上ニ掲揚スルモノトス

第四條 入港及出港許可旗 前記ノ戎克入港許可ヲ受ケタルト

キハ「E」ヲ記シタル青赤色ノ一旛ヲ受領シ之ヲ番號旗ノ下方

ニ掲揚シテ以テ海關ヨリ入港許可ヲ與ヘラレタルコトヲ表

示スルモノトス該入港旗ハ港内ニ於テ申告ノ際同所ニ駐在ス

ル海關吏員ニ交付シタル後初テ荷卸ヲ爲スコトヲ得、出港セ

ントスル戎克ハ輸出貨物ヲ積載シタル後當該海關出張所ヨリ

「A」宇ヲ記セル青白色ノ出港旗ヲ受領シ之ヲ番號旗ノ下方ニ

掲揚スヘシ

該戎克青島又ハ大鮑島港外ニ到著シタル場合海關ハ直ニ検査

ヲ爲シ、船内書類ヲ還附シテ出港旗ヲ返附セシメタル後放遣スルモノトス

第五條 避難ノ爲青島港外碇泊場ニ來リタル戎克ハ申告ヲ爲サスシテ二十四時間滞在スルコトヲ得、此ノ時間以上滞在シ又ハ貨物ノ積卸ヲ爲サントストキハ大鮑島港ニ於テ申告ヲ爲スヘシ

第六條 大港ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲サント欲スル戎克ハ大鮑島海關出張所ニ就キ大港貨物積荷證書ノ交付ヲ受クルモノトス

第七條 灣内ニ於テ貨物ノ運送ニ從事スル舢舨ト稱スル小形戎克ハ貨物積込ノ際黃色ノ小旗ヲ受領シ到著港ニ於テ荷卸ヲ了ハリタル後之ヲ海關吏員ニ返附スルモノトス

第八條 滄口ニ於テ新鮮ナル果實又ハ蔬菜ヲ積載スル海上ノ戎克ハ其ノ代表者カ保證金トシテ相當ノ金額ヲ豫メ海關ニ供託シタル場合滄口ニ於テ検査ヲ受ケ通關手續ヲ完了スルコトヲ得該戎克ノ滄口出發後其ノ代表者ハ同地ニ於テ完了シタル通關ノ事實ニ基キ青島本關ニ輸出税ヲ支拂フ可シ又該戎克ハ滄口出發ノ際竝大鮑島港及青島港外碇泊場通過ノ際其ノ番號旗ヲ掲揚スヘシ

果實又ハ蔬菜ニアラサル貨物ヲ搭載スル戎克ハ本條ノ特典ヲ受クルヲ得ス

第九條 女姑口ニ輸入スル貨物ヲ搭載セル戎克ハ滄口ニ碇泊シ同地海關吏員ノ検査ヲ受クルヲ要シ、該吏員ノ許可證ヲ有セスシテ輸出貨物ヲ積載スルヲ得ス

第十條 海關ヨリ交付シタル旗ヲ濫用スルトキハ本告示ノ特典ヲ喪失スルモノトス

千九百十四年四月九日青島ニ於テ

膠海關長 エー、オールマー

千九百十四年四月九日青島ニ於テ

帝國總督府